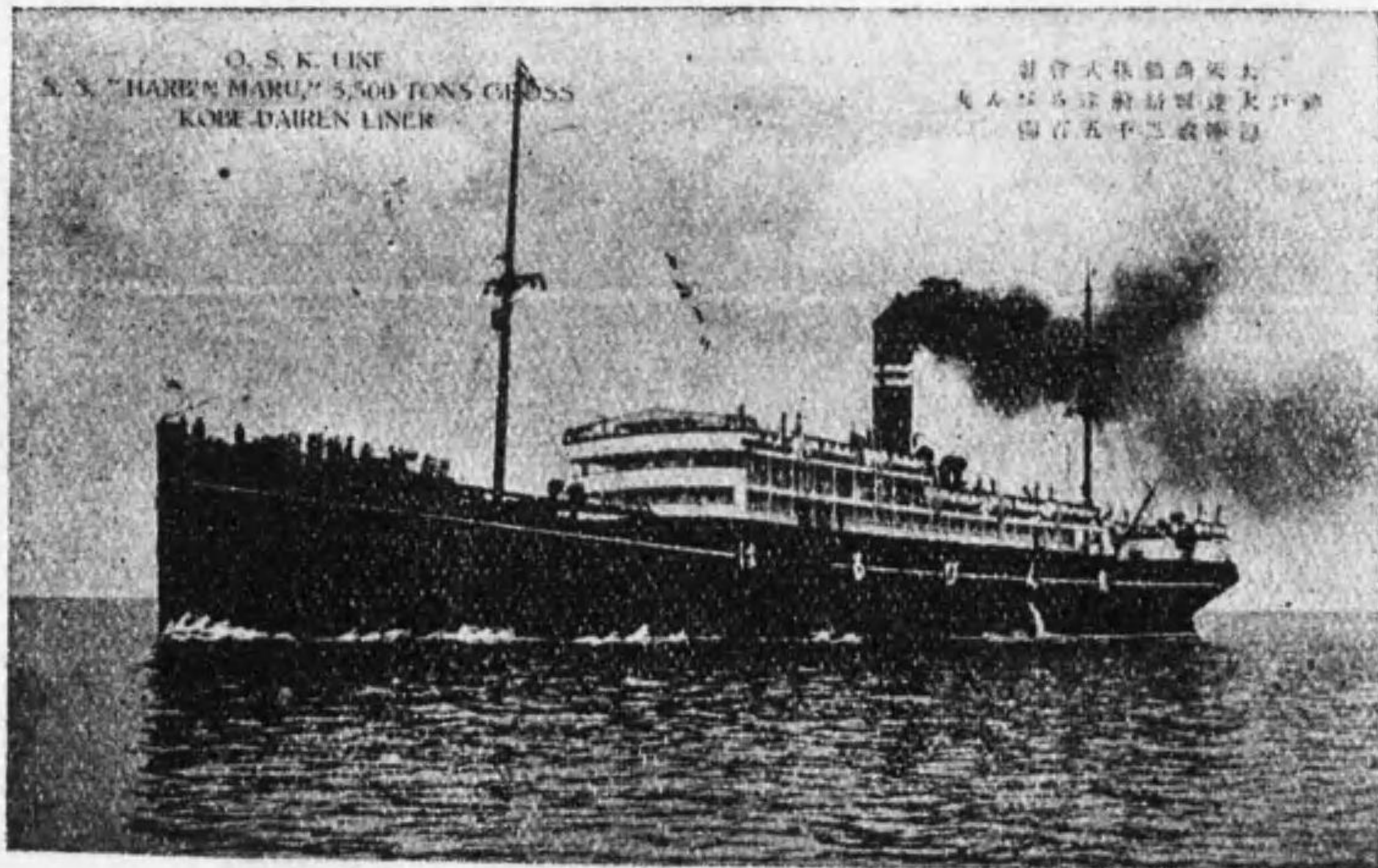


旅の鮮満

特208

371



始



特206
371

序

本會教育視察員の派遣は、從來内地にのみ限りたりしが、近年は時運の趨勢に鑑み臺灣、樺太、北海道等の新開地に派遣し、單に教育方面のみならず産業、經濟、交通衛生等の文化的施設及び地勢、人情、風俗、史跡等をも視察せしめたり、而して本年度は九月中旬大連市に於て内鮮滿聯合教育會の開催を機とし特に縣下教育關係者中より視察團を組織して滿鮮の視察を行はしめたるに團員一行は本會渡邊常務主事を團長として九月十日出發十月二日歸會せるが視察せる事項は教育方面は勿論、産業、經濟、交通、人情、風俗、史跡に至る迄炯眼なる眼光よく其の微を穿ち特に將來の發展に關する感想等多大の收穫を得たるを以て、茲に之を印刷に附し『滿鮮の旅』と名づけ廣く滿鮮の實情を紹介すると共に一つには教授の資料とし、一つには此の地旅行者の參考に資せんとす之れ視察の使命は實に茲に存するを以てなり。

終りに本視察團一行が、かくも多大の裨益を得たるは團員一同が共同一致よく視察



を遂げたるによると雖も亦南滿洲鐵道株式會社並在滿鮮千葉縣人會が與へられたる便宜と歡待とは、視察の使命を果す最大原因なりしことを思ひ、深く感謝して措く能はざる所なり

茲に發刊に當り一言を叙して序となす。

昭和三年二月十一日

專務主事 梶村辰之助

千葉縣教育會派遣滿鮮視察團員職氏名 (順序不同)

千葉縣教育會主事

渡邊英三

千葉縣視學

小倉太一

千葉縣東葛飾郡市川高等小學校長

近藤洋雄

千葉縣匝瑳郡野田高等小學校長

塚本万作

千葉縣山武郡睦岡高等小學校長

鈴木秀暉

千葉縣千葉市千葉高等小學校第二部長

永井村太郎

千葉縣千葉市千葉高等小學校第四部長

佐藤榮之助

千葉縣東葛飾郡湖北高等小學校訓導

小池正衛

千葉縣印旛郡八街町朝陽高等小學校長

藤崎大八

千葉縣印旛郡中郷尋常高等小學校長

日暮充之助

千葉縣印旛郡白井尋常高等小學校訓導

中村喜代一

千葉縣山武郡山邊尋常高等小學校長

篠崎保

千葉縣山武郡豐岡尋常高等小學校訓導

平澤元治郎

千葉縣長生郡東浪見尋常高等小學校長

森孝

千葉縣海上郡飯岡尋常高等小學校訓導

大野好母

千葉縣匝瑳郡共興尋常高等小學校長

金杉清

千葉縣匝瑳郡須賀尋常高等小學校長

菊間馨

千葉縣千葉郡宇那谷尋常小學校長

大岩益三

以上

目次

- 一、視察團の組織
- 二、旅程及旅費
- 三、旅行準備と注意
- 四、滿鮮旅行日程
- 五、出發
- 六、洋上の生活
- 七、關東廳の輪廓
- 八、大連
- 九、旅順
- 一〇、北行
- 一一、鞍山
- 一二、撫順

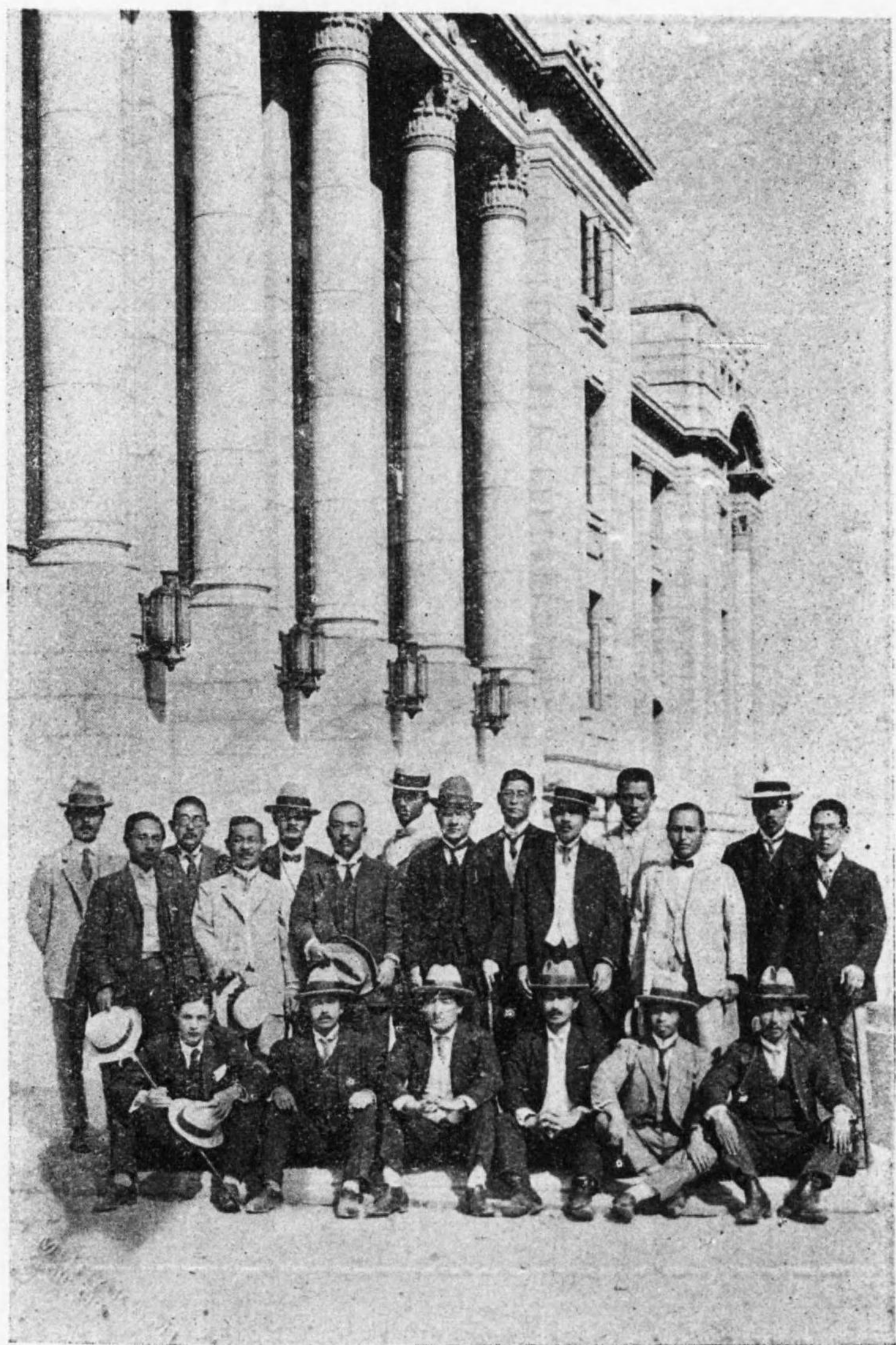
- 一三、奉天
- 一四、哈爾濱
- 一五、長春
- 一六、公主嶺
- 一七、安東
- 一八、平壤
- 一九、京城
- 二〇、仁川
- 二一、朝鮮の産業
- 二二、所感
- 二三、在滿鮮千葉縣人芳名

二六
七
九
一〇〇
一〇七
一三三
一三六
一五八
一六三
一七〇
一七五
一九〇

附 殖民地協會の計劃

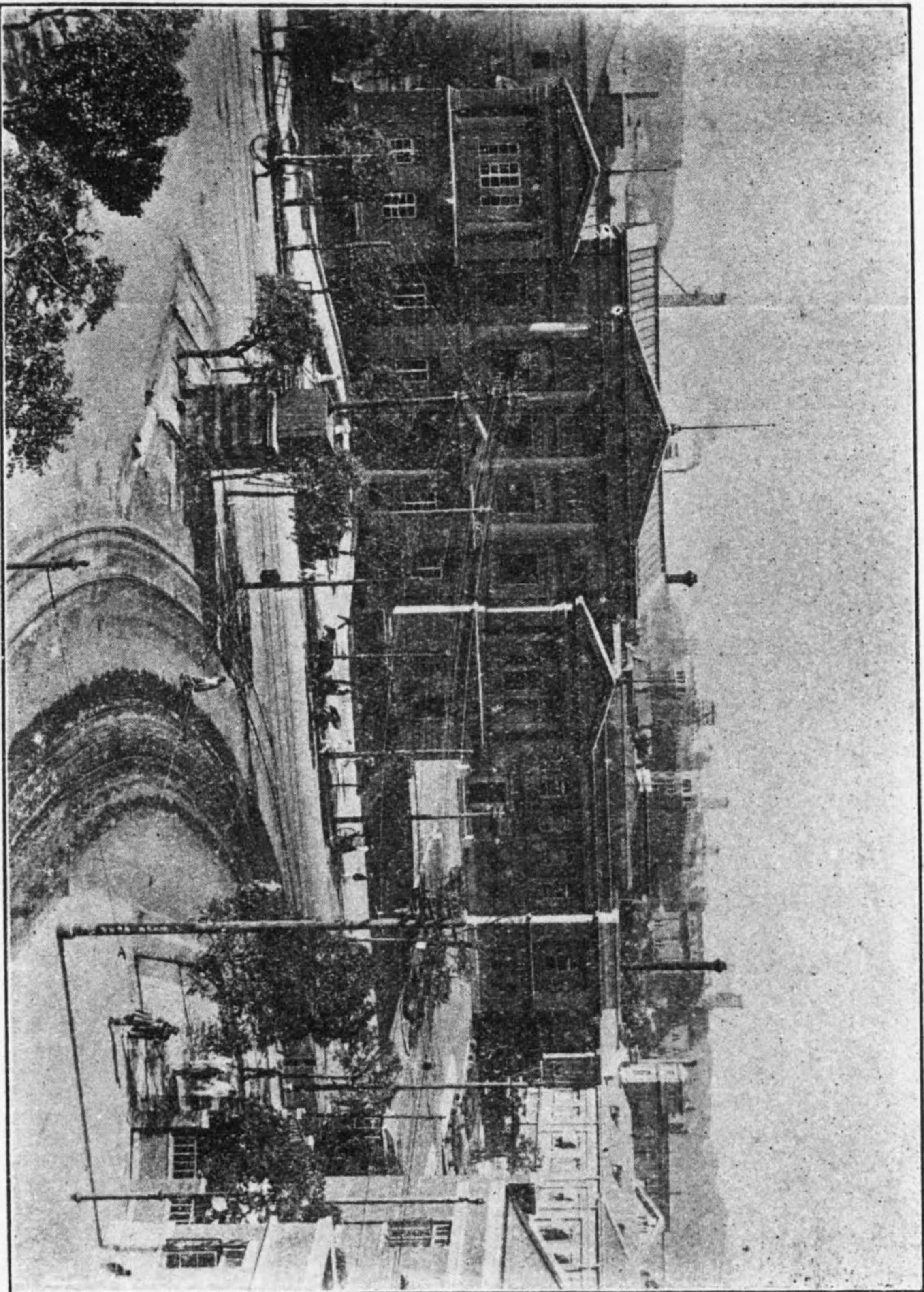
朝鮮總督府前の一 行

- | | | |
|--------|-----------|--------|
| 鈴木 秀輝 | 中村 喜代一 | 篠崎 保 |
| 平澤 元治郎 | 近藤 洋雄 | 永井 村太郎 |
| 日暮 充之助 | 三山 博士(京城) | 大岩 益三 |
| 藤崎 大八 | 渡邊 英三 | 大野 好母 |
| 菊間 馨 | 小倉 太一 | 金 杉 清 |
| 塚本 萬作 | 片岡 校長(京城) | 小池 正 衛 |
| 佐藤 榮之助 | 森 孝 | |



岩井 榮之助 森 幸
 本 萬 計 川 野 具 (京 城) 小 野 五 藏
 藤 間 馨 小 倉 太 一 金 野 善
 藤 本 大 八 野 野 英 三 大 塚 稔 母
 日 暮 茂 之 雄 三 山 野 士 (京 城) 大 塚 益 三
 平 野 永 祐 源 長 野 羊 兼 永 井 研 太 源
 鈴木 泰 藏 中 村 喜 升 一 新 井 嘉 治 尉

神 戶 縣 警 署 前 一 行



社本社會式株道鐵洲滿南



大連中央公園廣場



滿鮮の旅を上梓するに當りて

行程四千哩、異境の風物目新しく、紹介すべき多くの感觸なきにあらざるも、本文の記録は紙數に制限あるのみならず、歸來、倉皇の間に叙述せるを以て、其内容或は杜撰に、文章或は冗長不明にして、甚だ復命に禮を缺くなきを保せず。然れども事實の脱漏、誤謬は他日雜誌其他に於て訂正發表し、其所感を十分紹介するの意圖あるを以て、菲禮を顧みず上梓せり。茲に一行の諸君に對して御諒解を乞ひ、其責任を明にせんとす。

昭和二年十一月

記録係

永井村太郎
佐藤榮之助

一、視察團の組織

千葉縣教育會、楢村專務主事の周到なる計劃と斡旋により一行十八名、滿鮮視察の途に上ることを得るの光榮を得て、九月四日、教育會事務所に於て、打合會を開く、會するもの、楢村專務主事、柴田書記、多田、渡邊兩主事、小倉縣視學、其他の一行全部集合、楢村主事より、計劃並に日程等につき、詳細なる、調査報告ありたる後、視察事項及一行の分掌等につきても協議を重ね、左の如く、視察團の組織成立す。茲に謹んで、楢村主事、柴田書記、兩氏に對して感謝の意を表す。

千葉縣教育會主催滿鮮視察團役員及團員

團長	渡邊英三
副團長	小倉太一
總務	近藤洋雄
會計主任	塚本万作

同

記録主任

同

第一班 (班長)

鈴木秀暉
永井村太郎
佐藤榮之助
塚本万作
小池正衛
藤崎大八
日暮充之助
中村喜代一
鈴木秀暉
篠崎保
森孝
平澤元治郎
大野好母
永井村太郎

第二班 (班長)

第三班 (班長)

二、旅程並旅費

千葉—神戶	三宮	哩數	三九六、二	二等賃金	三二四〇	三等賃金	六七〇〇	備考
神戶—大連	連	哩數	六四〇、二	二等賃金	四五〇〇	三等賃金	一九〇〇	汽船ヨル
大連—旅順	順	哩數	三七、一	二等賃金	一六五〇	三等賃金	九五〇	
大連—長春	春	哩數	四三五、八	二等賃金	一九六〇	三等賃金	一〇九〇	
奉天—撫順	順	哩數	三三、三	二等賃金	一五〇〇	三等賃金	八五〇	

佐藤榮之助
菊間馨
金杉清
大岩益三
以上

長春—哈爾濱	爾賓	哩數	一四八、〇	二等賃金	七三五〇	三等賃金	三六八〇	爲替相場ノ變動ガアル爲メ當時ノ賃金(日銀換算)
長春—奉天	天	哩數	一八九、四	二等賃金	八五〇〇	三等賃金	四七〇〇	
奉天—安東	東	哩數	一七一、四	二等賃金	七七〇〇	三等賃金	四七〇〇	
安東—釜山	山	哩數	五九〇、八	二等賃金	二六六〇	三等賃金	一四八〇	
仁川—南大門(京城)	(往復)	哩數	二四、一	二等賃金	一一〇〇	三等賃金	六〇〇	
釜山—下關	關	哩數	三三、二	二等賃金	七二〇〇	三等賃金	三五五〇	
下關—千葉	葉	哩數	七三五、七	二等賃金	一九九二〇	三等賃金	九九六〇	
計		哩數	二九九四、七	二等賃金	一七〇七六〇	三等賃金	八七三四〇	
			七六三、二					

備考 宿泊料

十泊 約三十五圓

其他十五圓

車馬賃 約三十圓

總計

旅費 二等二五〇円七六〇

三等一六七円三四〇

○滿鐵線内ハ右賃金五割引

東支線内ハ同 三割五分引

◎更ニ廻遊乗車券トスレバ相當ノ割引アリ

◎団体ハ更ニ割引アルニヨリ決シテ滿鮮ノ視察ハ多額ノ旅費ヲ要セズ 但シ土産物等ハ別問題トス

三、旅行準備と注意

縣教育會は、旅行準備と注意事項として大要の印刷物を配布してくれた。一行は大体これによつて準備を整へたのでした。

一、服 装

(一) 間着、レインコート、冬シャツ一枚持参

(二) 雨具は携帯の要なし

二、持参品

(一) ケレオソート丸(日露丸) 寶丹又は清心丹

(二) 消毒用として、アルコール若干

(三) 名刺個人のもの百枚、団体連名のもの参百枚

(團體連名のもの五百枚準備が必要)

(四) 空氣枕あれば便利

其他の注意

(一) 大連安東縣及、釜山等に於て税關検査あり手荷物、カギを用意し必ず立會をすること

(二) 課税品

大体旅客の自用品は免税であるが、朝鮮及内地に搬入する左記物品は價格の十割を課税される。
貴金屬製品、寶玉石、絹織物、毛皮、毛織物、菓子、酒類、化粧品、娛樂用具、寫眞機等

(三) 土産物は奉天で購入する方便利である

ロシア餡、煙草(葉卷五十本、エジプト百本以内一種に限る) 墨扇等、絹紬は一匹位は差支ない

(四) 寫眞機を携帯する時は神戸税關で、許可を受けること

(五) 關釜連絡船は食事がないこと

以上

四、滿鮮旅行日程

月日	地名	發着時刻	宿泊	視察個所其他
九、一〇	東京發	後七、三〇	車中	急行
一一	三ノ宮着	前八、四五		
同	神戸發	正午	船中	
一二	洋上		同	
一三	同		同	
一四	大連着	前一一、〇〇	大連	信濃町東旅館 中國人教育公學堂及日本小學校及市内視察
一五	同發	同八、二〇		
同	旅順着	同九、三六		
同	同發	後四、三〇		
同	大連着	同五、四八	大連	
一六	同		同	一六、一七日總會出席(内鮮滿聯合教育會)

一七	同發	後一〇、〇〇	車中	税關検査アリ
一八	鞍山着	前六、三一		製鐵所視察
同	同發	後三、一八		
同	奉天着	同六、〇六	奉天	大丸旅館
一九	同發	前六、五〇		
同	撫順着	同八、二五		炭坑視察
同	同發	後三、四五		
同	奉天着	同五、一五	奉天	
二〇	同發	同一〇、一〇	車中	
二一	長春着	前七、〇〇		
同	同發	同八、一九		
同	ハルビン着	後四、〇五	ハルビン	名古屋館
二二	同發	同一一、二五	車中	
二三	長春着	前六、三四		

あつた。時正に中秋の明月、中天に懸りて、一點の雲なく車中月を賞するの興も、亦情趣を添ふて、歡談盡くる所を知らなかつた。夜三更僅かに夢より醒むれば既に東天紅に、最早名古屋をすぎ米原である。朝靄に包まれたる琵琶湖の漂渺として、靜かに眠れる、沿岸を過ぐれば早やも大津である。比叡の山を右に見て、琵琶の湖面と別れば、しばし平原の小市街を送迎して大阪につく。

大阪にて洗面して、朝食をとる、大阪灣沿岸の新なる風光も、物惜しく、三の宮に着いたのが、十一日午前八時四十分、神戸女學院の、川崎、鞍橋、二氏に迎へられ僅かなる時間を利用して、湊川神社に參拜す。

「嗚呼忠臣楠氏之墓」の銘も、日本古史の感銘を與へずに措かなかつた。ここにて中村氏によつて記念の撮影をなす。大倉公園に上りて、神戸市を俯瞰すれば大都市の風豊に接するの氣分に満たされてしまつた。林立せる帆檣、繁盛なる市街、規模の宏大、流石は代表的都市として名にそむかないと思はれた。時計を見れば正午である。

一行の乗るべき、ハルビン丸は、午後一時に出帆するのである。止むを得ず神戸市と割愛して乗船す、この日鞍橋、川崎兩氏は案内に説明に萬端の御厚意を賜はられたることに對して深く感謝の意を表します。

六、洋上の生活

往時千山萬嶽の嶮よりも、百里の海路はより以上 危険率の多かつた事は想像するに難くない。然るに今や、神戸の港を去る、六百五十海里、關東州の一角大連に達するに僅々、三晝夜、科學の進歩は、實に玄海、黃海朝鮮の海洋も、僅かなる一溝渠にしてしまつたのである。

しかも一行の乗れる、ハルビン丸（大阪商船）は五千五百噸の精銳、堂々たる艦驅は長蛇の如く神戸の埠頭岸壁を離れて鏡の如き内海の島々を右に左に顧みつつ、廿海里の速力を出して航海を續けてゐるのである。山は紫水青く、天氣清朗、海波は靜か

に、些の微動を感せず、船は進行を續けてゐたのである。呼べば答へんとする島々の間を縫ふて、進航すれば、風光佳絶、海上公園の名に背かない、初秋の夕陽西に沈まんとすれば、金波躍りて、乗客を樂ましむることしばし、やがて闇黒の帷幄に包まれるば、一同甲板を下りて、海上第一夜の眠りにつく。眼覺むれば、静寂は更に加はり、僅かに東天の白みを見る、正に午前四時、次第に朝靄は晴れて水の紺碧を加ふれば、紅一點を洋上に拜することが出来た。

一行は甲板上に壯麗なる靈感を得て大空に哄翔する氣持ちに打たれたのである。

午前八時門司に上陸、甲宗公園に上りて市街を眺めば、大部分は一望の間に收めらる、壇の浦今は静かに、關門海峡を厄して、過去の思出を語るに過ぎない。

一行は、これより航海に要する準備を整へ、乗船すれば銅羅鳴り響きて、發進を知らすのであつた。

十二日午後一時廿分、ハルビン丸は、完全に故國を離れたのである。模糊として静

かなる、左右の連峰に名残を止めて船は對馬海峡にとかつた。

日本海々戰の根據地としての沖の島を右に見て碧海一路、對馬、壹岐の間を驀進すれば刻一刻と初秋の夕陽は西に傾きて、冷風いよいよ寒く、のみならず一天遽に曇りて、雨を交へ、且つ風速順次強く、海波高鳴りて動搖甚だしきを覺ゆるのであつた。愈々玄海だと云ふ氣持ちがサツト、襲へかかつて來た、いよ／＼薄氣味が、わるくなつて來て、一行中の誰も彼も、交互に甲板に飛立つて見るのであつた。雨は益々激しく風も強い。波は益々高い、乗員の悉くは息を潜めて刻々の經過を氣遣ふのであつた。ボーイの運ぶ飯も其儘に、僅かに幾人かの猛者が食したにすぎない有様であつた。

かくして不安なる一夜は、寢もやらず、明けたのである、天曇りて僅かに細雨を降らすのであつたが、風は風ぎ、波は穩かである、一行は早くも甲板上に馳け上つて昨夜の暴風の脅威を語り合ひ、今朝の平安を祝するのであつた。

十三日午前六時。船は今、巨文島を右に見て濟州島の漢羅山の突兀を見る。木の葉の様な朝鮮漁舟を、小波の間に見るは愉快であつた。多島海あたり。奇麗な島、盆石でも見せられてゐる様な崎嶇たる岩の島、其處には十數軒の漁家が、散在してゐる。もうここらあたりは黄海である。文字通り、はてもない黄色である。又しても漂渺、際涯なき、大洋に出たが、この日は一日平安の航行を續けて愉快であつた。

私達は、その晩(十三日の夜)ボーイ連の催してくれた演藝會に招かれた、そこでは、浪花節、落語、喜劇、活動と、プログラムは配布されたのである。

落語、浪花節と、プログラムは進んで、活動寫眞の映畫にうつる刹那、フィルムに火がついて、十數卷が火と化し、時ならぬ船火事が起つたのである。數百の乗客はどつと動揺めきて、叫ぶ聲、人を呼ぶ聲、救を求むる聲喧々、正に阿修羅場を現出した。鎮火したのは午後十一時四十分であつた。

この夜一行中の永井氏の中折帽子は不幸災厄に遭ふて半焼したが、其他は無事であつた。

この混雜の際、沈靜の任に當つたのは、一行の總務近藤氏である。大聲一同の喧燥を叱咤して臨機の處置を取られたる處、流石は總務である。小倉團長は一場の訓話を試みて乗員各自が自重して狼狽すべきで無いことを力説するあたり、一行を中心としての海上生活であるかの様な感があつた。その夜は短時間ではあるが一同熟睡した覺むれば午前四時、早くも甲板に集まる。山東角の燈台も淡く、支那大陸も模糊として望むことが出来る。

二日間漂渺の大海に何物の蔭さい見出せなかつた。一同は、あこがれの山々を見て雀躍した。雲は低迷するも幸に風も靜かに一同は見えぬ大連に憧憬れて、得意の色は、船の内に溢れてゐるのであつた。

一同は元氣づいて早くも、トランクの整理にかかるもの、藍色の波の上を幾十百の海豚の群が船に近いて迫つて來る光景を眺めて奇しがるもの、船中の兒童を引連れて

船内の散歩を試みるもの、昨夜の不安は、何處にも見ることが出来ない光景であつた。

船は鏡の如き海をすべりて大連港口に到れだ右に大和尚山、兀として秀で、左に小丘を負へたる大連市街は展開されるのである。名計りの檢疫を濟ませて船は靜かに港内を横ぎつて、第二埠頭岸壁に横付けとなるのであつた。一行は早くも、群衆の雜沓せる中に、紫色の千葉縣人會と染抜いた大旗を見出した。そうして一齊に歡呼の聲を發したのであつた。異境に於て努力活動しつつある、本縣人が今日多數一行を迎へて呉れた厚意に對して滿腔の感謝を捧げずにはゐられなかつた。一行は群衆の間を潜り抜ける様にして押されながら岸壁の上を靜かに歩いた、流石は五億の設備だけあると合點された。直ちに一行は、埠頭事務所の屋上庭園に休憩して、庶務課の紺野順氏から埠頭の説明をきくことが出來た。

港の深きこと岸壁に於て三十五呎、一萬噸級の船を横付けにすることが出来る。

埠頭は目下第一より第三に至る、三埠頭であるが、今第四埠頭の築港中であつた。岸壁荷役に従事する勞働者は悉く支那苦力（華工）であつて、日々一万五千人を算する状態である。苦力の賃錢は、支那錢で、最高一圓三十錢、最低零平均四十錢である。多くは山東苦力であつて、青島附近及濟州方面よりの移住者であると云ふことである。

苦力は体力に於て日本人の比では無い、一枚四十斤の豆粕を十枚位擔いで運搬する力量を有してゐると云ふことを聞いて驚いたのである。

紺野氏は雄辯に大連の將來をも説明され、滿州が日本の人口問題、食糧問題を解決する絶好の地であるが故に日本が滿州の研究に努めねばならんことに結んだ。

一行は深く紺野氏に感謝して埠頭事務所を出れば外には、二頭立の馬車が待つてゐる。一行は滿鐵の宮内政五郎氏（本縣海上郡の出身）に案内され、青々と繁つた、ポプラや、アカシヤの街路樹の植えてある。砥石の様に滑かな道路の上を音も立てな

い、ごむ輪の馬車に揺られて行く氣持ちは内地にゐては想像さいも出来ないものであつた。

中央公園から、堂々たる建物の並んだ山縣道、監部通りと馬車を走らせて、信濃町の東ホテルに投宿した。

七、關東廳の輪廓

關東廳の管轄區域は關東州と南滿鐵の附屬地とであつて、合計二百四十六方里の面積を有し蜿蜒六百六十方里に亘る滿鐵の線路に沿つてゐる地域である。

關東州は遼東半島の南端部であり、附屬地とは長春大連間の滿鐵本線―四百三十七哩餘―奉天安東間―百八十八哩―奉天撫順間―二十八哩等十六方里の地域である。この地域内に於ける邦人の戸數四萬五千人口約二十萬朝鮮人戸數一万三千人口六萬五千を算する現況である。更に支那人の我が州内及鐵道附屬地に移住し來つたものを見る

に、八十五萬人に上つてゐる。

最近に於ける人口増加の現象は日支人共に女子の増加著しく男子の増加率よりも遙に多きに上り従來男數に比して女數の著しく少かつた人口上の不均衡を緩和しつゝありて管内に於ける家庭的な生活が逐次安定しつゝある一證左と見ることが出来るといふことである。

我々一行はこの地域内を全部見學視察する豫定のもとにその行動を開始したのである。しかし大体に於て關東廳に於ける輪廓を會得して後にその真相を極むることを以て最も意義ある方法と信じ大連著陸後直に當廳當局よりその説明を得たのである。此處にはその概要を述ぶるに止めたい。

政治上の沿革

大正八年十二月都督府を廢して關東廳を置き専ら民政事務に當ることとなり、同時に旅順に關東軍司令部を置き、陸軍を統轄し爾來今日に及んでゐる。海軍は明治三十

九年旅順に鎮守府を置き、その後大正三年三月之を要港部に改め同十一年十一月更に防備隊にのみ縮少したが、十四年四月防備隊を廢し、現在は巡洋艦一隻、驅逐艦四隻が沿岸警備の任に當つてゐる。

地方制度

關東州に於ける地方制度は官治行政機關たる民政署とその監督下にある自治行政機關たる市及會より成つてゐる。市は旅順と大連で會は六十九會に分れて日本内地の市町村に該當してゐる。會の下に街又は屯がある。

市には議決機關として市會があり、市會には民選せられたる議員と民政署長の官選したる議員とを以て構成せられ官選の數は民選の數の四分の一を超ゆることを得ない。無論支那人も官選せられて現に旅順の二人、大連の七人は支那人議員である。

元來會の名は清時代より存し幾多の變遷を経て大正八年二月會行政準則が發布されて以來會に會長を置き官治行政の機關たらしむると同時に一種の自治体の執行機關と

し又會内の街屯には街長又は屯長を置きて、その区域内の會長の補助機關たることを明にしたのである。

會の事務は法令により、教育、勸業、警防、土木、衛生、救護、市場等の事業を経営するも主とするものは教育で全經費總額の約四割は教育費である。

教育制度

州内の教育は主として關東廳之に當つてゐるが、市及會の設立せる公立初等中等學校がある。滿鐵會社及其他の私立經營に成る各種學校もある。學校の種別は初等教育中等教育、實業教育、補習教育、師範教育、専門教育大學教育等を網羅してゐる。州外附屬地に於ける教育制度は滿鐵會社の支率下に屬し州内と同様各種教育機關が完備してゐる。

教育制度は州内外を通じて、言語風俗習慣の關係上日本人教育、支那人教育及日支人共學制の三方法に分れてゐるが専門教育は主として日支共學の制である。

日支人の教育は設備内容充實し内地小學校に比して遜色なきのみならず。實に模範とするに足るものがある。日本人教育は滿州に於ては義務制はないが不就學者は殆ど無い状態である。今や州内外を通じて四十五校の設立あり、就學兒童二萬三千を算する現況である。

支那人就學歩合も順次向上し男子四八%女子一六%の割合である。今日に於ては州内外を通じて官立、滿鐵經營のもの、公會堂二十、普通學堂一〇六校、生徒總數三萬に上つてゐる。

其の他の産業貿易の現況については之を省略し通貨につきて略述したい。

通貨

滿州に於ける通貨は各種の貨幣雜然として行はれ現在流通するものは奉天を中心とせる奉天票、安東の鎮平票、銀、吉林の吉林官帖、哈爾濱を中心とせる現天洋票、關東州の小洋票等は各地方に於ける代表的通貨である。日本の通貨は朝鮮銀行券が最も

弘通してゐる。

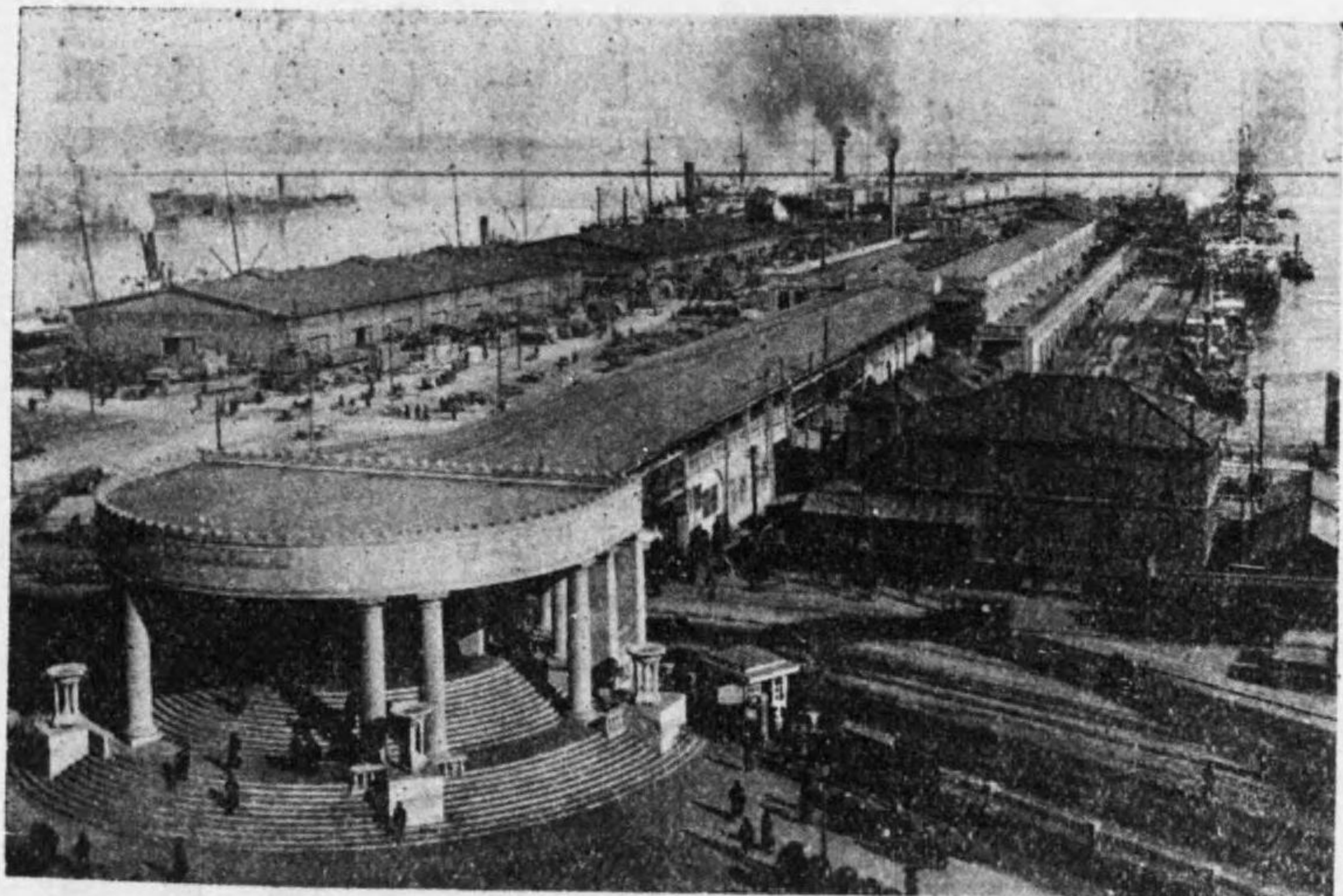
是等の通貨は相互間に相場の変動がある。殊に支那政局の動搖によりて騰落が甚しいのである。殊に支那通貨は形式上銀貨本位なるを以て我が通貨との比價變動は一層甚しいのである。

一行のハルビンに於て使用せる相場は日本貨一圓に對して大洋票一圓四十錢を標準として通用し奉天票は内貨一圓に對して實に二十圓の價值を持つものであつた。

八、大 連

日清房油 伏見台小學校 西崗子公學堂 大連病院 支那街 小崗子 星か浦
電氣遊園地 商業學堂 自動電話局

蘆荻徒らに茂る、青泥窪の一漁村が今日の繁盛を來たした、大連は歴史的に、幾多の變遷があつたのである。李鴻章が、金洲半島の要港として、要塞を設け、露西亞が



大連埠頭(待合所)

之の不凍港を物色して、一千萬留の巨資を注入して其開發に努力したのであつた。爾來明治三十七八年戰役に日本が露西亞より繼承して、此處に多大の巨資を投じて歐米の都市と敢て遜色の無い程度に築ぎ上げた、代表的文化都市である。

一行は十四日午後東ホテル、を出て市内の見物をする事にした。圓形の廣場を中心としての放射形の大街路を射出し、それに幾多の、中小路を經緯交配して、恰も蛛網狀を形成してゐる。道路に深緑を彩らせ、坦々として砥の如き舗道、實に井然た

る代表的都市として、恥ぢないものであると思はれた。

自由都市としての大連は、邦人七萬、華人十六萬といはれてゐる。僅々廿年、其急速な進歩は、滿蒙の天地を背景とする物質の吞吐口であるからであるとは、誰もが首肯される處である。一行は此の日滿鐵社が經營する北支那第一の一大樂園、星が浦の勝地に、自動車を驅つたのである。

「星が浦」

一行は星が浦の正門で車を下りた。

目の前に廣がつてゐる芝地になつた小松林の間を潜り歩いて、海邊の砂濱に出た。眞白な眞砂に、喰へ込んで行く、心地よい足の感觸を味はひながら、遠く點在してゐる、島嶼の間を、去來する、支那、ジャンク、の白帆を見ることが出来る。此處には風雅な、料亭が海に面した、海水浴場に建ちならんでゐる。

滿鐵の、大和ホテルもある。その大和ホテルに少憩して、黒石礁に押寄する白波の

泡沫を見ながら、時餘を費したのである。歸途支那人民家を見ることが出来た。親しみ易い支那人は日本人の不意の來訪に聊か驚愕を感じた、表情であつたが、それでもよく應待してくれて氣持ちよく視察することが出来た。

生活の低い支那人生活、オンドルの装置、臺所、仕事場、服装、それは甚だ穢いものではあつた。それに満足して生活し得る支那人も實に偉いと云ふ外は無い、日本人の名刺を非常に喜んで交換してくれた。それは後できくと名刺の交換は支那人の禮儀であると云ふことであつた。去つて電話局に向ふ。

「自働電話局」

それは或は内地に於ては、珍しい事ではないが、その装置の完備、宏大なる仕掛けには驚かされてしまつた。技師の自働實驗を見る、疲れと、時間の無いので一行は、それから車を走らせて、東ホテルに歸つた。

「縣人歡迎會」

十四日午後七時から、縣人會の招待を受けて大連一流の支那料亭、泰華樓に於て、熱誠ある歡迎を受けた。會する在住の縣人六十名一行を加へて八十名、會は大窯業株式會社長中島亮作氏（縣人會長）の挨拶に始まり、前千葉縣立成東中學校長山崎正矩氏の歡迎の辭があり、八代合名會社の八代亀吉氏は、旅費を與へて有意の青年を送れ、然らば我れ之れを後援すると云ふ大氣焔もあつた。一行側では、渡邊團長立つて滔々、大連埠頭に於ける縣人會歡迎の感激より説きて其好意を感謝し、千葉縣教育の將來の決心を披瀝して感激と希望とを述べ、滿堂に強き印象を與へて大なる喝采を博した。渡邊團長が到る所に堂々と大雄辯を奮はれ、千葉縣人のために萬丈の氣焔を擧げられたる、其言辭は豊富に其態度は堂々、實に一行の面目は、それがために、より以上の光彩を放たれてゐたことは一行の感謝する處であつた。

小倉副團長續いて立ち、謝辭に次いで千葉縣教育が近時、清新なる氣分で、異常なる向上進展の途にある内容を説き、將來滿蒙の産業教育の視察研究の爲め、多くの本

縣人を送るべき抱負を述べ、會員に感動を與へた。

近藤總務も感激を披瀝して本縣の先輩諸氏が異境にあつて活躍されつつある現況に對して、先づ敬意を表し、將來の希望を述ぶる所があつた。それより、順次一行の全部が立つて、卓上演説を試みた、時は午後十一時、謝意を表して、歸宿した。上陸以來續いて萬端の幹旋をなされた、宮内政五郎氏に、特に感謝の意を表します。

「日清油房」

今日は滿鐵の、今門松二氏が早朝から宿に見えて見學の御案内を下さる事になつた。馬車を日清油房に走らせて、油房作業を見た。支那苦力が、全裸体の儘、作業に従事してゐるのも一寸變つた光景であつた。説明をきくと、滿洲で取れる大豆の量は、二千萬石だと云ふ事である。その内、五百萬石が食用となつて滿洲で消費され、大豆の儘、歐米各國へ輸出されるのが、約五百五十萬石、残りの九百五十萬石が油を搾るのに潰される。その豆粕は内地で畑の肥料となり、豆油は多く西洋に輸出され

て、サラダ油の代りとなつたり、人工バターや、マルガリン、の原料となつたり多方面の用途を有してゐると云ふ事である。

支那人が日給四十錢で、油の中で必死に働いてゐる多忙な活動振りには、すさまじいものであつた。油氣に吹かれて、汗をだら／＼流して機械の運轉する雑沓の中に立働くと、そのけなげさは到底内地などで、見られる光景では無い、此處へ來ると、内地の八時間勞動問題や、勞銀問題は、てんで問題にならない事を感じたのであつた。

「大連病院」

ここでは別に見學するものも無かつたが、宏壯なる七階の高閣が大連市街を一眸の間に收めることが出來ると云ふので、展望を屋上で壇にした。

「小崗子」

一行を乗せた馬車は、砂塵濛々と舞ひ上る中を驀地に走つて行つた。そこは支那街の小崗子であつた。先づ第一に支那一流の露天市場を見ることにした。日本人は此處

を泥棒市場と呼んでゐる。そこには装身器、日用品、寝具、衣類、履物等の古物は勿論、古壘、古釘に至るまで、露店に陳列して大安賣をやつてゐる。贓物を平氣で買つたり賣つたりしてゐるのだと、云ふ人もあつた。この市場内に飲食店の立並んでゐる處もあつた。

見世物、寄席、奇術等の民衆娯樂場もある唯穢くて一種の臭氣のあるには一行は驚いてしまつた。蠅の群、埃塵の煙、にも全く驚いてしまつた。『蒼蠅拂へども去り難し』それには少しのいつわりも無い。續いて賑かな支那街である。此處でも一種の臭氣が鼻を強く刺すのであつた。それは支那民族の臭である。一行は民族臭を嗅ぎながら、雑沓の甚だしい此の街を靜かに走る馬車の上から眺めて歩いた。

「伏見台小學校」

校舎の堂々たる、設備の完備せる、内地の中等學校も及ばない程度のものである。學校長は先年歐米を視察せられた、重松與八氏である。學級數二十五、兒童數一千百

五十人、職員三十二人である。物資の豊富なる唯だ驚嘆の外は無かつた。

運動場の廣さにてしも六千坪、一人當り六坪の地積を有してゐる割合である。

昭和二年度に於ける經常豫算は實に七萬八千圓である。内五萬五千圓が俸給で他は備品消耗品に屬するものである。兒童一人あたり七十圓内外である。滿洲の小學校を通じての平均は兒童一人當り百二十圓であると云ふ事である。内地のそれと比較して意外の感に打たれたのである。

同校舎の室數を見るに（學級廿五）

校舎室數五十六室	
講堂	理科準備室
兒童研究室	普通教室
手工準備室	特別教室
學校標本室	汽罐室
一	一
一	七
一	一
	二十六

校長室	—	地圖掛圖室	—
倉庫室	—	應接室	—
事務室	—	會議室	—
衛生室	—	湯室	—

と云ふ剛勢振りである。学校の成績や、學習指導については、とりたてて云ふ程のものは無い様である。

「西崗子公學堂」

中國人に初等教育を施す學校で、關東州、官立の小學校である。學級數二十、兒童數一千百五十人、職員三十六人、内日本人教師二十一名、支那人教師十五人である。

日本人教師は全部男教師である。ことも變つた一つである。

日本人教師を教諭といひ、中國人教師を教員といつてゐる。關東廳には官立の公學堂が十校、公立の普通學堂は一〇八校であるのである。が殆ど大同小異であるから、此處で稍々詳細に、その組織を述べることにしたい。

修業年限は公學堂は、初等科四ヶ年高等科二ヶ年を本体としてゐる。勿論義務教育制では無い。用語は初等科二年までは、支那語で教授するが、初等科三年から日本教師の擔任のため、日本語にて教授する様になつてゐる初等二年までは、支那人教師の擔任であることは云ふまでも無い。一寸面白いのは地理や歴史で、日本の分は日本語、支那の地理や歴史は支那語で教授する様になつてゐる。

入學兒童の年齢については、今まで制限する處が無かつたが、それが爲めに、初等一年に、十五六才の少年が就學すると云ふ有様で同一學年に於ても、能力体力の相違が甚だしく、指導上、誠に困難であると云ふので、昨年からは、一年に就學する年齢は十二歳以下と制限したさうである。

中國人（大連）學齡兒童の凡そ、四十パーセントの兒童は就學する様になつてゐるさうである。

中國には戸籍と云ふものは無いので、判然とした年齢が無いので、自分のきめた年

高一	一	八	八	五	一	一	一	二	二	三	二	三
高二	一	八	八	五	一	一	一	二	二	三	二	三

「教授の方針」

依關東州公學堂之規章

尊重中國人情風俗習慣

參酌土地狀況文化程度

對於必要之生活

施以適當之教育

爲宗旨

- 1 日本の領土なるが故に日本人教育と同様に同化させなくてはならぬ
- 2 支那公民として差支ない、素養を興へんとするものである。
- 3 職業に勤勉なるものを作る。

此等を學校の方針としてゐると云ふことである。

最後の一項は實に支那人の特長とするところで、中國人、二千萬人は今海外に出て、

いづれの國を問はず、生活してゐると云ふことである。今本學堂に於ける、中國兒童を通じての觀察による、中國人の長所と短所を羅列して見ることにする（大体公學堂訓導の談）

長所と見るべきもの

- | | | | |
|---------|-------------|----------|------------|
| 1 辛棒強い | 2 生活力強い | 3 質素儉約 | 4 商賣上手 |
| 5 身体健全 | 6 柔順である | 7 細工物が上手 | 8 交渉が上手である |
| 9 動物を愛す | 10 器械的暗記力強し | | |

短所と見るべきもの

- | | | | |
|-----------------|---------|----------|--------|
| 1 不衛生である | 2 盜癖がある | 3 慘忍性がある | 4 賭博がす |
| 5 愛國心なし | 6 迷信が強い | 7 公德心なし | |
| 8 風呂に入らない（一年一回） | | | |

「大連商業學堂」

本學堂は 關東廳の設置にかかり、中國人の商業教育を施す學堂である。修業年限三ヶ年、公學堂、高等科卒業者を收容する學校である。設備の完全、校舎の美、以外簡單なる視察なりしたため記することが出来ない。

以上は大連に於ける、視察個處の概要である、四日間の大連生活には、數多い事項が擧げられるが、それは、此處には省略したのである。

九、旅 順

爾靈山 白玉山 東鷄冠山 博物館 戦利品陳列所 表忠塔

大連停車場を午前八時二十分の旅順行の列車に一行は乗込んだ。風に揺ぐ、アカシヤの林の中を通つたり、禿げた丘陵の起伏してゐる緑の野邊を走つて、あたりの山が高まつて地形が大分狭つたなと思ふと、もう旅順でした、白玉山上の表忠塔が高く天を突いてゐます。清き龍河の河口にある、旅順驛では驛長さんや、旅順の警察署長

(本縣人)さんや、その外、本縣出身の方の出迎へを受けました。用意されてあつた馬車ですぐ爾靈山に向ふことになつた。

爾靈山

眞青い山と山とに圍まれた林があり、公園があり、美しい街路樹があり、静かな海があり、落ちつきのある立派な建築物をもち、しかもそれらが決して俗惡な感じを持たない、静かに沈黙してゐる旅順の新市街を通る感じは、何とも云ふ事の出来ないほどであつた、やがて田舎道に這入つていく、支那農家が、青葉の中に見える。馬車は二〇三高地の麓まで来て止つてしまつた。

可なり、ひどい坂道を一行は上り始める、中腹に繪葉書を賣る掛茶屋があつた。そこで一行は繪葉書など買ひ一息入れて頂上に辿りついた、相當高い、二百三米が此の山の高さであるのだ。すぐ崖下に乃木少尉の戦死の場所として墓碑が建てられてあつた。「あすこの山から向ふの地點へ完全に傳令を果して置いて歸路この崖下で討死さ

れた」と、案内者は話してくれた。

二〇三高地の頂上には乃木將軍の揮毫による爾靈山の文字を鑄出した大表忠標が建てられてゐる。此處からは、新旅順、舊市街、東港も西港も手に取る様に明瞭に見える、ここを我軍に占領されることは、旅順口の運命に關することであつたのだから、ここを先途と、強襲死闘、擲弾はては石礮までも飛ばしての爭奪戦が行はれたと云ふことであつた。日本軍は此處で八千人の犠牲を拂つた、と案内者は説明してくれた。

此處に来て最も想像してゐたことと、異つてゐたのは旅順の灣内の狭いことと、港口の狭いことであつた、よくも之の、狭い港内に敵の三十二隻が這入つてゐたものと驚かされた、港口は、三百尺ださうだが山の上から見ると、まるで狭い谷間の様な風に見える位でした、明治十三年支那の李鴻章が獨乙人を備ふて築造された、難攻不落の旅順の港も、我が精銳にはどうすることも出来なかつたのである。明治三十七年九月以來同年十二月五日占領に到るまで、第三軍に屬する第一及第七師團の名は永久

に光輝ある歴史となつて朽ちないであらう。

『爾靈山險豈難攀』

男子功名期克難

鉄血覆山山形改

萬人齊仰爾靈山』と賦

して熱涙の禁じないものがあつた。

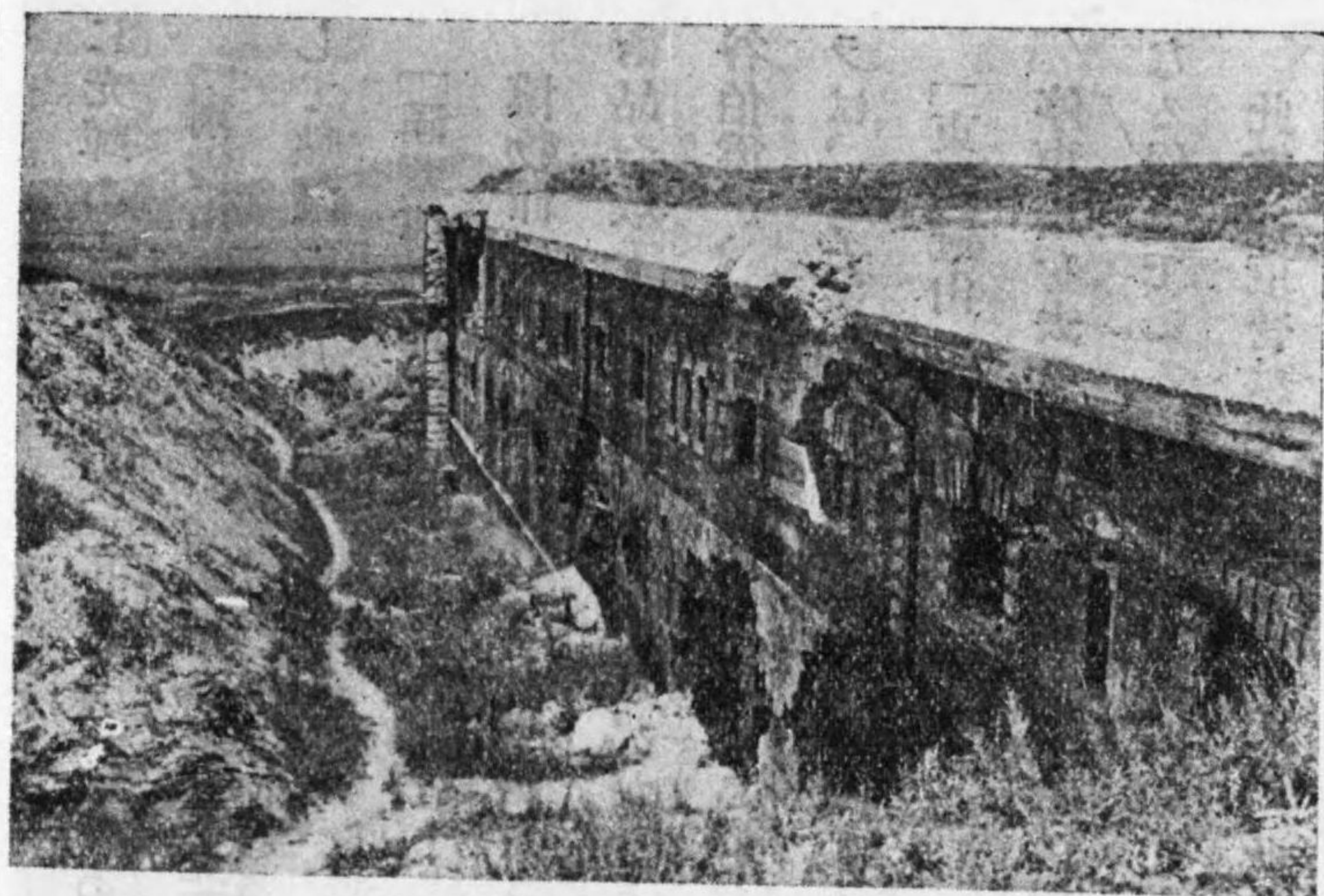
「滿蒙博物館」

博物館には、警察署長さんや館長さんの、御饗應を辱ふしました。此處には滿蒙美術品や數千年前の貴重な参考品がある。支那幾千年の歴史を偲ぶことが出来た殊に大谷伯爵が、蒙古砂漠中から發掘された、千三百年前、唐時代の文官武官、子供のミイラは、考古學上の貴重なるものであると云ふことである。

「東鷄冠山」

停車場を去る東方、四里二十町の地位にあるのである。此處は東方砲台中第一堅固なる堡壘であると聞いてゐた。來て親しく見學してその堅固なのに驚いた。

此處の屯營は地下室であつた。此の地下屯營は支那人の築造にかかると、三日



(壘堡北山冠雞東) 跡戦順旅

三夜にして仕上げたものといはれてゐる、しかも、之の工事にあたつた支那人は全部渤海灣の沖合で祝宴中沈没して全部死亡したものだと言へられてゐる。全く日本軍が之の屯營を知らなかつた爲か苦心も多かつたものだ、案内者は聲を大にして話してくれた。堡壘は爆破の跡や弾痕をそのまま残してあつた、草も生えない岩を割つた塹壕もあつた。

明治三十七年七月我第十一師團はあの方面から攻撃して、爾來營々坑道作業戦に地中戦に………と案内者は熱心に話し出し

た。「突撃に次ぐに突撃、爆破に次ぐに爆破」彼れの説明は愈々力がこもつて來た。

此の堡壘内で露國の、コンドラデンコ少將は三十七年十二月十五日の夜軍議中に我軍の廿八砲彈命中して戦死したのださうである。

二龍山も松樹山も、北望台も、此處で説明を聞くことにした。二龍山は旅順の背面砲台中最大のもので、我軍が、二十五日間を費して砲壘下に三條の坑道を完成して占領したと云ふことであつた。

中村少將指揮のもとに決死隊として奮戦した白襪隊が、二千の死者、十八萬餘箇の土囊と三千八百貫の火薬を費して占領した處が松樹山である。

此處でも數多くの逸話があつたが、それは省略して其の中の一つだけ此處に残したい。彼は指差してあの小松の下で一人の歩哨が左手に銃を持つてゐた、士官が見付けて小言をいつた、その歩哨が涙をぼろ／＼流したなりぢつとしてゐた。「氣をつけんか」その銃はどうしたと云ふのだ、士官は、つか／＼そばへ近よつて行つた。そして軍隊

式に、なぐろうとしたそうだが、その時歩哨は涙を流しながら、少尉殿はつて置いて下さい、お國の爲めに盡すのです、天皇陛下の爲めに一身を捧げてゐるのですもう私の右手は、やられてゐますと泣きながら、いつたのでした。士官も全く泣かされてしまつて只無言のまま固くその腕を握りしめて、そして、有りがたう、有りがたうちやお互に死ぬまで戦はうねといつて別れていつたと云ふことです。とにかく恚麼不具者になつた兵士までも戦かつた大激戦のあとです。と語つた。

「戦利品陳列所」

此處には、記念として屋根に日本軍の十珊砲彈の命中した大破損の跡が未だに残されて淋しいいくさの物語を傳へてゐる、露軍の要塞戦に使用した、兵器器具は悉く此處に收められてゐる貴い記念館だと思つた。

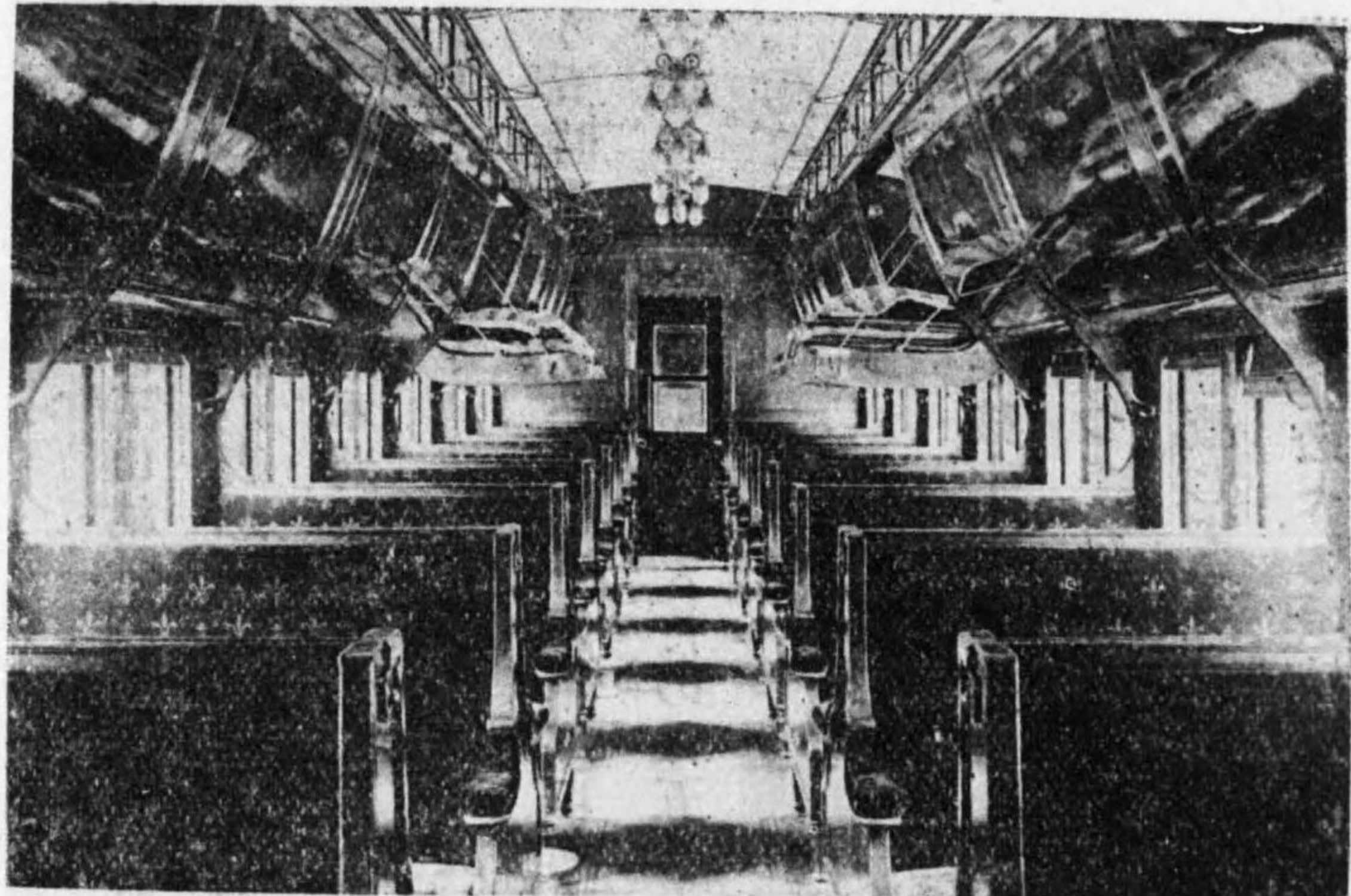
「白玉山表忠塔」

旅順の攻圍に我忠勇なる將士が屍を横へること實に二萬七千十九名の靈は永久に旅

順の守として白玉山納骨祠に納められてゐる。一行は誠心誠意、地下の靈に向つて默想をした。前面の表忠塔は、明治四十二年十一月竣工した白塔で高さ二百十五尺である、そこには乃木將軍を祀つた乃木神社もある、港口閉塞の決死隊を祀つた記念碑もある、櫻の樹々が植えられてゐる廣い林檎の熟した果樹園もあつた。時計を見るともう五時である、いそいで停車場に向ふ當地在住の千葉縣人各位の御見送を辱ふして、大連行の列車に乗り込んだのは五時十分であつた。

一〇、北 行

九月十七日午後十時不夜城の大連市と別れて北行の列車に乗る、汽車は、初秋の夜の平野の中を走つてゐた。驛々には電燈のあたりに狭霧のやうなものが漂つてゐる一行は相當疲れを感じてゐる様ではあつたがそれでも元氣で談笑は續けられてゐた、普蘭店あたりを通過する頃には、空一面に星が見えてゐる、平原の中を汽車は走つて



南滿鐵道列車內部

蓋平大石橋を通る頃は、一行はみんな眠りに落ちてしまつた、時間のたつにつれて寒くなつてくる、それでも疲労には勝つことが出来ない、一と眠りに寝込んでしまつた東の空が紅色に染まつて太陽が今にも、水平線に出やうとする頃、一行は眼をさまして、朝陽が明け方の空へ登る處を眺めた朝陽の色は空の色も一樣に金粉を撒きちらした様に千山の奇峰を照らしてゐた。

「千山だ」「朝の千山はいいね」誰かもい

つた。

六時廿分汽車は、鞍山の驛に止つた。此

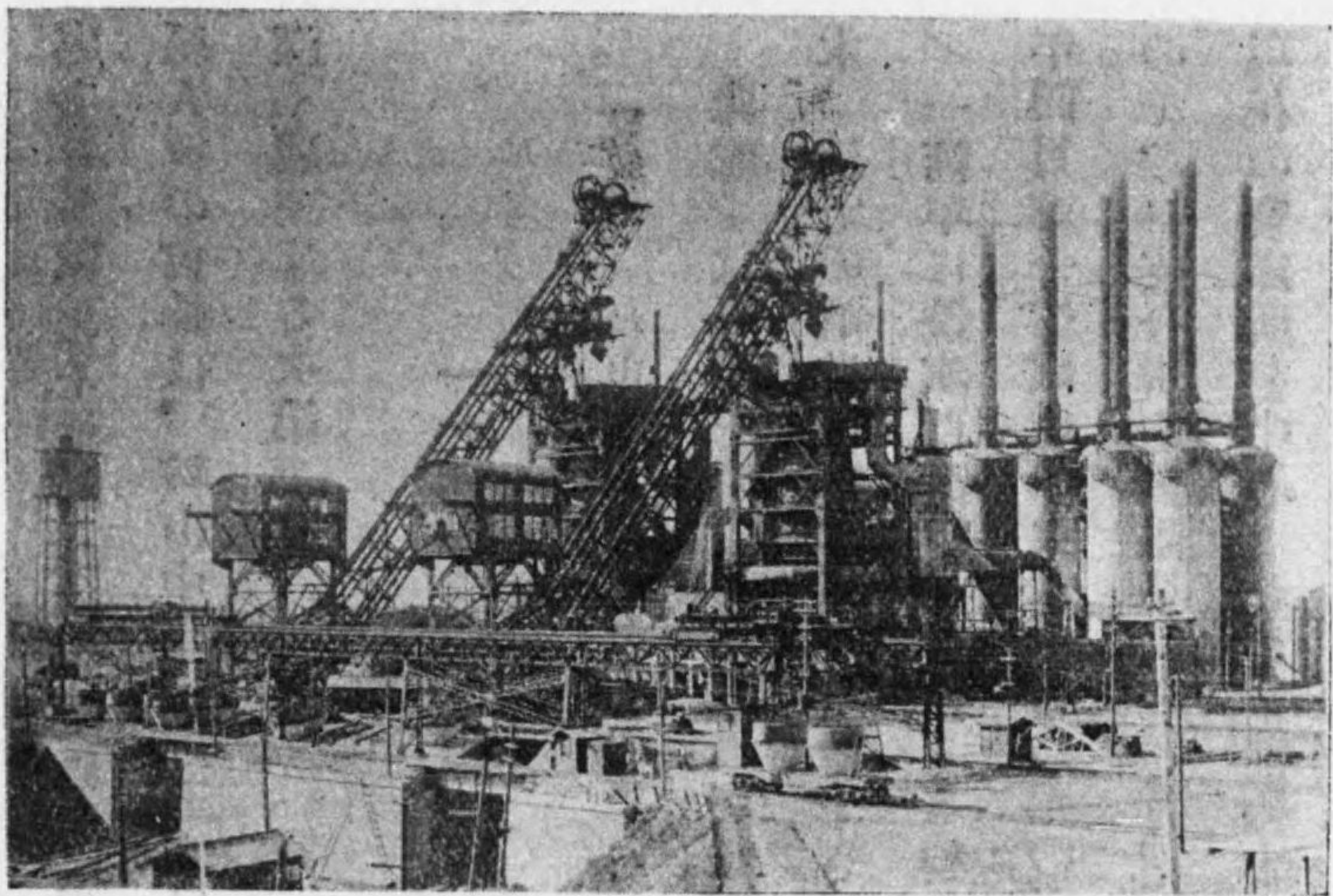
處でも多数の千葉縣人の方々に迎へられ旅館の扇屋に案内されて朝食をした、千葉縣人會の會長は、鞍山中學校の三宅欣吾氏で萬端の御便宜と好意を與へられたことを深く感謝する次第です。

一一、鞍山

製鐵所 鞍山中學校
鞍山中學校

此處では馬車を走らせて先づ製鐵所を見學することにした。當地の宮内、今關、鈴木、三宅の諸氏は御多忙中案内下されたのでした。

一箇年に銑鐵百萬噸を製出する製鐵所の規模だけに宏大である、當製鐵所は大正八年四月第一熔鑛爐の火入を行つたので未だ日淺いのであるが、附近に鐵鑛を發見したので、日支合辦の無限公司(會社の意)から供給を受けてゐるのである。其の鐵鑛山は現在の製鐵所を中心として半徑約十五軒を以て北東より西南に向つて畫ける半圓形内



鞍山製鐵所(熔鑪爐)

五〇
に點在しその埋藏鑛量は大約、三億噸といはれてゐる。現在主として採鑛するものは大孤山で一日の採鑛能力、二千五百庇で含鐵量、三十五パーセントを基準としてゐるのである。

當所に於ては銑鐵製造設備の外、副産物製造設備をして、重要工業原料の製造供給に着眼してゐるのである、その一箇年製産高は

- | | | |
|---|-----------|---------|
| 1 | 硫酸アムモニヤ工場 | 五、〇〇〇庇 |
| 2 | タール蒸溜工場 | 一〇、〇〇〇庇 |
| 3 | ベンゾール工場 | 三、〇〇〇庇 |

4 ナフタリン工場

五〇〇庇

5 硫酸工場

六、〇〇〇庇

である。従業者は次に示す様な人員である。

職員 二三一 備員 日本人 七二〇 中國人 一九八四 鑛夫(一日平均 中國人三九〇〇

鞍山小學校、中學校共に、その建物の堂々たるには少なからず驚かされてしまった殊に小學校の如きは兒童一千名、二十四學級のところ校舍教室數、五十八室を持つ餘裕さ加減、どこまでも大陸的である、運動用具の完備せる内地に於ては未だ嘗つて見たことが無い。

中學校の屋上庭園に少憩して一望千里の廣漠たる北滿の大平原を見る、午後一時近江屋旅館に於て縣人會の歓迎を受けたのでした。此處では膝を交へて主客隔意なき意見の交換が行はれた、それは實に感じのよい會合であつたことを特に此處に附記して此の稿を終ります。

十九日午前六時五十分、奉天の大丸旅館を出て、撫順の炭鑛を見ることにした。日本内地の石炭の産出額が消費額に及ばない、其不足分は撫順の石炭であるのだ將來益々石炭の需要は増大してゐる折柄殆ど採掘量の固定してゐる内地に於ては、如何ともすることの出来ないことである幸にして撫順の石炭は内地石炭埋藏量の五分の一を占めてゐると云ふ寶庫である。日本の燃料問題の解決は、かかつて撫順にあるとまでいはれてゐる。此の地の見學は緊張した氣分でかかつた。

汽車から下りると、此處でも多數の千葉縣人が出迎へてくれた。特に遼東新報撫順支局長氏は本縣人である關係で今日の説明と案内とをして下さつた。

「撫順市街」

奉天の東方約十里渾河の左岸に在る新興の鑛業都市であることは云ふまでも無い。邦人は一萬五千、支那人は管内に五萬人、管外附近に約十萬人以上を算してゐる。

新興の文化都市であるだけに、教育上の設備は完備し、交通は整理されてゐる。

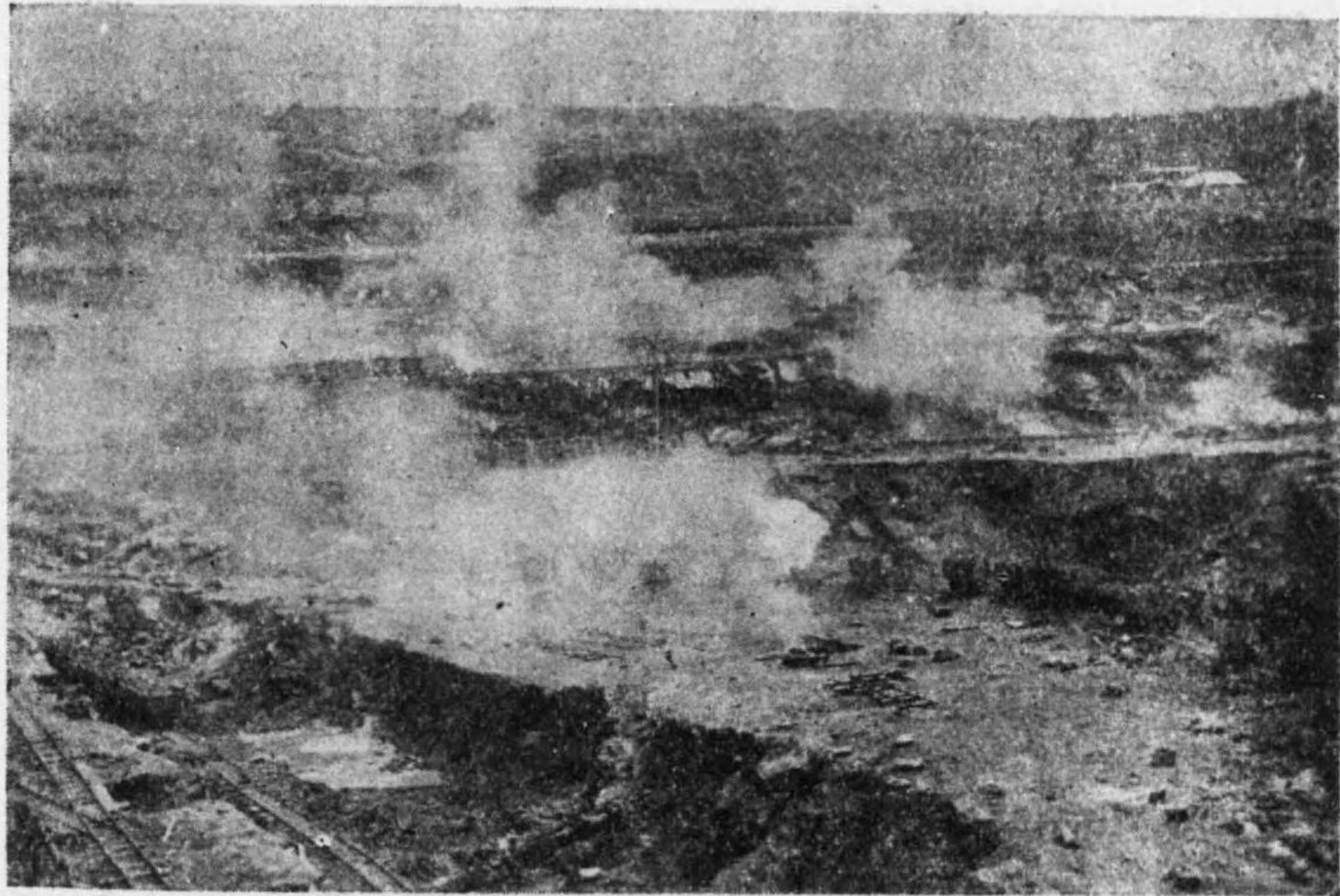
「採炭狀況 採炭量」

一行は電車で大山坑の見學と露天掘とを見學することにした。撫順の鑛區は、東西四里南北一里の範圍で、撫順の舊市街は炭層の露出のため、移轉して全部露天掘にあつてゐる。炭層の厚さ四十尺より四百二十尺に及び其平均百三十尺。世界に比類が無いといはれてゐる、埋藏量は實に十億噸と測定されてゐる。

採炭の仕方は坑内掘と、露天掘の二様で、坑内掘は内地の方法と大差なく、露天掘は最新の方法である。

出炭量は一日二萬三千噸、かくして一年の出炭量は實に六百四十萬噸であるが、昭和三年度に於ては年額八百萬噸を採掘する豫定ださうである。

一行は説明をききながら古城子の露天掘附近に下りて掘り割の中央を横ぎつて支那労働者の忙がしく立働く雑沓の中へと這入つた。それから、一目に古城子の露天掘の



(破爆層炭) 堀天露

見へる、高台へと上つていつた、私達は此處で眞黒い、谷底のやうな、廣い場所で蟻が蠢めてゐる時の様に働いてゐる炭鑛々夫の群を足の下に眺めることが出来た。何十輛と云ふ貨車を使つて、間斷もなく石炭を運び出すほど、多くの分量が見てゐる中に掘り出されてゐるのだつた。毎日採掘されて行く石炭は、どう處分されていくかはよく説明してくれた。

年分六百万噸(昭和二年度)の割當は
滿鐵の社用炭 百万噸
滿洲地賣炭 百四十万噸
朝鮮 方面 四十万噸

内地移入 百六十万噸

船 焚 料(大連) 九十万噸
海外輸出(南洋) 殘 餘

と云ふ有様である。

炭質は有煙炭で揮發分に富み、灰分は少い、火力は強大であるから、汽罐燃料、工場用に適すると云ふことである。日本内地の産出高は、年額三千万噸、消費量は三千二百萬噸であるが、その開きは年々大きくなつて、十年後には八百萬噸、一千萬噸と云ふ不足を告げる様になるであらう。其場合には補給者としては勿論撫順炭であらねばならぬ。その時期が來れば年額八百萬噸の計劃では濟ませない、或は一千五百萬噸を要求されるであらうとの説明であつた。

その上重要な關係を有するものは、油の資源即ち重油の採れる、オイルシエール(頁岩)が多量に横つてゐることである、油母頁岩とは、炭層のすぐ上に重油を含んだ粘板岩がある、それが平均二百五十尺の厚さで、炭田の一部を掩つてゐる、それが頁

岩である。然るにこの頁岩は、油の含有量は甚だ少くして十四パーセントに過ぎない、随つて採油の費用と製品とは收支相償はないのであるが、一体石炭の露天掘が初まると頁岩は、他の土砂と共に當然發掘されるのである。その費用は、石炭の方に負擔されるシエールは無料で、採れることになるので、經濟的に採油可能と云ふ新生命が開かれてゐる次第である。

尙頁岩中には窒素分を含み採油の傍ら、副産物として、硫酸アンモニヤを採收する又乾溜して得た所の原油その儘を焚かずに、僅かの加工に依つて、パラフィンを分解するから、此處にも一つの利益が生れて來るのである。

製品は船艦燃料として、日本海軍に於て、引取る筈であるが、時價の變動により若し満鐵が損失を生ずる場合は、其不足額を償補すると云ふ、契約もあり、將來我國の國防燃料として重大の使命を帯びたる我國最初の試みである。

第一期の計劃は豫算約五百萬圓、一日二千噸の鑽石を處理し、重油年額、二萬五千

噸、外に副産物として硫酸アンモニヤ七千噸、パラフィン六千噸の豫定である。

「露天掘」

此處で稍々詳かに露天掘の有様をかくことにしたい。此の日は特に好日和で瑞氣を含んだ、高原の初秋が澄み渡つてゐるし、道には女郎花や、淡白な名のわからない草花が、強烈な陽をあびて咲き亂れてゐるあたりは、たまらなく、よい氣持ちでした。

もう秋が深いと云ふ一種の強い感激に襲はれていつた、今一行は高台の草原の中に立つた。露天掘が一目に見える處である。此處で、しばらくその説明をきいた。

現在着手してゐる露天掘は

長さ 約一千米突 幅 三百米突 深さ 八十米突

であるが、將來、この五倍に擴張され、二十五年計劃で約一億噸の石炭を露天掘によつて採取する計劃ださうである。

それが爲めに地上の物体がすべて邪魔になり、停車場から附近の市街建物を撤去するの止むなきに至り茲に市街移轉と云ふ空前の出来事が起つたのである。

露天掘は何處に於ても有利なものと限つてはゐない。

1 炭層の厚く 2 表土の薄く浅き部分

でなければならぬ、つまり、坑内掘と比較せば、層厚の二倍の表土を剝離するも尙有利なりとされてゐる。

一日の露天掘の出炭量は

現在では約一萬五千噸

支那人労働者 一萬人である。

撫順全坑の労働者を合すれば 約五萬人である。

「大山坑」

電車線路の踏切を通つて行くと、アカシヤ、泥柳の植えてある中を抜けて、生垣で

きれいに圍んである住宅らしい建物に沿つて、煙突や、大きな建物の立並んでゐる大山坑の入口に出た。

私は此處へ来て、黒い程、陽影を投げかけてゐる大木を幾本も見ることが出来た。してその大木の根元に藁を敷いて鑛夫の群れが寝てゐる。

「皆坑から上つて来て、次の交代まであゝして自由に遊ぶのです」

と案内者は説明してくれた。

私達は心の中では、變な壓迫を感じながら、空の方へ巻揚機が高く突立つてゐる平坦な廣場に出た。

此處で、しばらく猛烈な勢で、跳ね飛ばされて走つて来るトロの響きや、トテツも無い速力で廻轉してゐる、巻揚機の運轉する光景やに氣分を破壊されさうであつた。

流石は撫順二大坑の一つであると思つた。

縦坑の深さは、一千三百尺で、一日の出炭量は、三千六百噸である。

一行は事務所に少憩して、茶菓の饗應を受けて、いよいよ、希望者だけが、坑内服をかりて地下一千三百尺の視察をすると云ふことになつた。二三のものを除いた大部分は坑内服をかりた。そして手に安全燈をもつて出かけた。エレベーターの上下の響きが耳を裂く様である。色々な注意を受けて、緊張した氣分でエレベーター台上に立つた。すばらしい速力で下り始めた。

暗黒の世界に巻き込まれて、何だか多くの不安が、こみ上げて來た。そして生温い風が、下風口から吹きつけるのでした。やがて坑内へと下された。

そこには右に左に、何本となく横坑があつて、そして眞裸の坑夫が鶴嘴を振つてゐる、その光景は恐ろしいと云ふ感じが轟々と襲つて來る、太古の民族がその時代の作業も、かくあつたではないかと思はれた。

坑内は炭層の傾斜に沿ひ上方より下方までを、二十餘片に分ち高さ七尺幅十尺の坑道は坑木を以て枠を組みつつ掘進し、縦横に碁盤の目の如く刻まれてゐるのである。

此處には輝々と電燈の輝いてゐる、坑内事務所もあつた、多數の事務員が忙がしく事務をとつてゐる光景を見て驚いた。

坑内には馬まで働いてゐる、トロが走る、喧々として耳も裂けるばかりである。

採掘せる石炭は凡て坑底に集め、之れより地上に巻き揚げられるのである。人の出入も諸材料の運搬も皆此の二つの坑口からする外なく、一本の綱に、貴重なる生命を托して、地下一千三百尺の暗黒裡に、晝夜の別なく働いてゐる。坑内従業員の犠牲的活動振りが窺はれる。これを思ふと一塊の石炭と雖も決して粗末に出來ぬ氣がするのである。

案ずる程もなく、無事で地上に出た喜びはたとへ様が無かつた。坑内服姿で、一行の中村氏が寫真をとつてくれた、

九月廿日午前八時市内見物のため、旅館をたつ、當地縣人會長和田實氏の案内を辱ふした。

奉天は北滿に於ける、中樞地であるだけ、賑かである、此處へ來ると殆ど支那町の感がする、先づ外國へ來たと云ふ感が一層深くなつた。風習も順次變つて來て支那形の人力車の多いには驚かされた。滿洲一般に街路の井然たる、市街の壯麗(日本街)なる道幅の廣きことには、少なからず驚いてゐたが、此處へ來て特に其感を深くした次第である。

奉天は日本にとつては戰跡として特に知られてゐる、一行も其意味に於て、その方面には相當注意して踏査されたのでした。その意味で第一に奉天について知り得た一行の豫備的知識を冒頭にして順次見聞記を叙述したいと思ひます。

奉天は瀋水(渾河のこと)の北にあるので瀋陽と云ふのである。しかしそれは元朝

時代の命名で、清朝になつてから、首都を此處に遷して盛京といつたのであるが其後(今より二百八十年前)北京に遷都するやうになつてからは鎮守府を置く様になつて三省(吉林、奉天、黑龍江)の軍政の樞軸となつたのである。

爾來當地は督軍省長の行政分掌であつたのである。

民國十一年奉直戰爭の結果、巡閱使張作霖氏、自ら東三省の保安總司令となり、東三省の統治權を得るやうになつたのである。

日露戰役後我領事館の設置となり、商業日に殷盛を極めて今日に及んだのである。現在の鐵道附屬地即ち新市街は日露の役に我が將卒が、血河骨山の奉公をした所當時一望の曠野であつたのである。

即ち奉天と總稱するも之を區別すると、新市街、商埠地、城内の三となるのである。

「新市街」

此處が即ち滿鐵の附屬地である。鐵道に附隨して日本が露國から繼承した地域であ

る。面積百八十二萬坪で、驛前を起點として放射線狀の大路通じてゐる、それが浪速通、千代田通、平安通の三道路である。

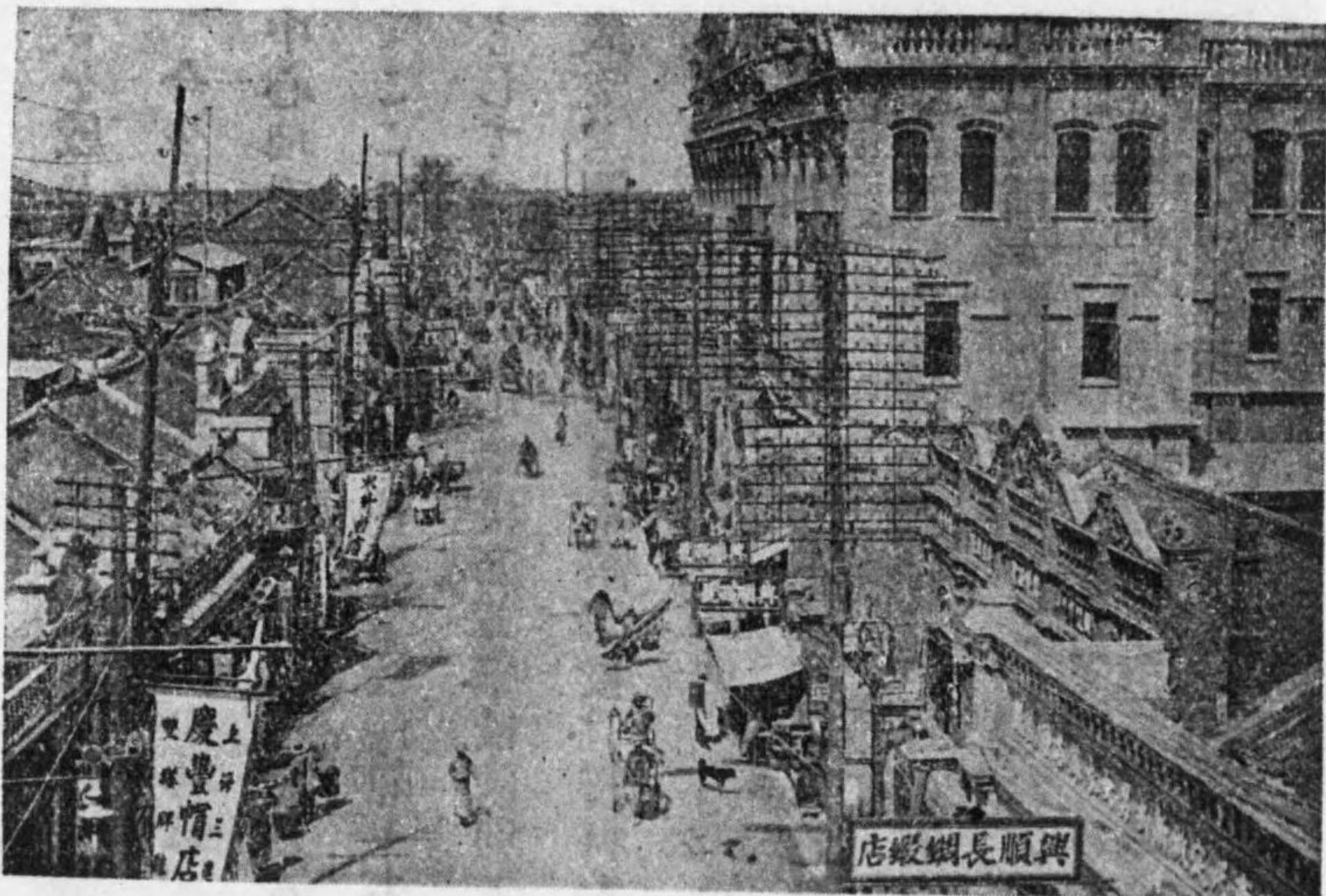
滿鐵會社は市區計劃をたて、街路、上下水道、公園、墓地、醫院、學校、圖書館等の設備を完成して、今日の繁榮を來たしたのである。

「商埠地」

各國の居留地で、日清條約で支那自ら指定開放した市街である。新市街と、城内との間に介在して面積、二百萬坪あり、各國領事館、各國銀行、會社等何れも、之の地域内にあるのである。

「城内」

此處が所謂支那街である。内外二重の城壁で圍繞せられてゐる、東西南北各二門あつて、夜の十二時閉鎖し朝五時に開門するのである。外壁は周圍四里に渉る、土塀である、城廓は今より六百五十年前、元の時代に築造されたものであるが爾後數回修築



天奉 (街那支内城)

され、現在のものは、約三百年前、清の太祖が修築した儘である。

當時の排日問題には一行は少なからず警戒をしてゐたが、その根元は悉くこの城内に起つたのである、城内の四平街と云ふのは、最も繁華な街であるが、そこへ支那人が密集して、排日を叫ぶのであつた。一行の滞在當時は張作霖氏の嚴重なる布達があつたので一時平穩に歸した時であつたのであるが、それでも、一行の城内を馬車で通過するとき、日本の學童が日本兵士、警衛の下に學校に通學するのを見て、痛たいた

さを感じたのである。

今少し輪廓を述べて置きたいのは、教育の概観である奉天は滿洲に於ける政治上の中心地であると共に、北支那に於ける、教育の中心地であるからである。

ここは一大學府で各種學校は頗る多いのである。支那側に屬する學校の主なるものとして、小學校中學校商業學校は別として、男女師範校、工業の専門學校、陸軍の講武堂、測量學校、日本語學校、醫科大學、体育専門學校、美術學校、東北大學校等がある、

日本側の學校として小學校、普通學校、女學校、中學校、滿洲醫科大學等がある。これだけの豫備知識はその地の有志から聞いてゐたのであつた。これから順次、見學した種々相を述べることにしたい、

「忠靈塔」

三萬の英靈を祀れる、忠靈塔へは、奉天見物の第一着手として、參拜することは實

に一行の希望であつた。

特に當地の和田會長は、忠魂の祭事に對して、熱誠なる主唱者であつて、本縣人八百の英靈も此處に祀られてあるので、その名簿を自ら作製し、一々それに戦績を附して、冊子として印刷し、自費を投じて廣く縣人に頒布しようと云ふ特志家である。恰も之の會長と共に一行は直ちに車を馳せて忠靈塔に向つた。

和田氏の説明をきくと、明治三十八年十月に起工して三十九年七月竣工したのである。將校三百六十名、下士卒二萬五千八百四十名の遺骨を奉安してあるのである。

一行は渡邊小倉の團長に續いて、禮拜し、國家の干城としての地下の靈に敬虔なる誠意を致したのである。

庭内に露軍の武器を納めてあるが多くは沙河戦によつて得たる、銃砲、タンク等である。これより奉天神社に向ふ。奉天神社は奉天市民の思想統一のために日本人の建立にかかる。大正十四年十一月今上御即位の大典を記念すべく建立されたもので

天照大神 明治天皇 靖國神社を合祀してあるのである。

「北陵」

支那街へ來ると砂煙りがたつて、きたないこと甚だしい。その市街を蹴立てて進んでいく、一行の馬車の行列は實に勇ましいものであつた。

行つても行つても大野原の中の一本道を駛るのであつた。道々には羊の群や、馬の群が草を喰ひあさつてゐるのも見たし、限りも無い高粱畑の曠大なことにも驚されてしまつた。



奉天北陵に於ける一行

随分走つて來てゐるのに北陵らしい姿は見えない。

馬車が少し高い道へ出たかと思ふと、木々の茂つた北陵の姿を見出した。一行は一勢に立ち上つてその方を見た。

馬車は一層速力を早めて走り出した。

林の中には氣持ちのよい芝草が一面生え伸びてゐた。

白い花や、淡い色の草花なども咲き亂れてゐた。

私達は氣持ちのよい林と野邊をぐんぐんと駛つて行くと、間もなく松の林が鬱蒼として茂つた下に、這入つてしまつた。そこには一つの朱塗の門があつて、銃を持つた兵卒が三人ゐた。

其處で入場券を買つて、規則正しく敷石の敷かれてある、一本の大路を奥へ進むと馬や象の大きな石像が立並んでゐる、づつと奥まつた所には、色彩の鮮かな建築物が金色燦然として並んでゐる。

一行は愈々高い石壁を潜つて這入つた、そして其のまわりを廻つて見た。鬱蒼として黒いほど茂つた森の中から、冷たい風が吹き寄せるのであつた。

此處では記念撮影をした、こゝに掲げたのがそれである。

石垣を二十階ほど上ると石壁の上に出る、そこは平坦な石疊の道路であつた。石壁を越して直ぐ先に、青草の伸びた處に大きな塚がある。それが高宗の墓である。

其規模の大、輪奐の美、清朝の過去が、いかに盛であつたが想像されるのである。今や境内草生えて、之れを顧る支那人の無いとは何たる哀傷であらう。清朝此處に三百年、孔孟の歴史三千年其の教へや今何處にかある一行は民國のため同情を禁じ得なかつたのである。

北陵は一に昭陵ともいつてゐる、境内は周圍二里餘一面松樹鬱蒼としてゐる。正面明樓には「太宗文皇帝之陵」と云ふ碑がある。

太宗は、太祖の第四子であつて、明の萬曆二十年（我紀元二千二百五十四年）太祖

崩じて其位を嗣いたのである。翌年兵を發して朝鮮を下し、太宗自ら蒙古の察哈爾を征して錦州を取る後國號を大清と號し、其三年明軍を破り遂に支那本部に入り或は燕京に逼りて之を降し年五十二にして清寧宮に歿したのである。

「奉天城」

奉天城は四方煉瓦を以て築造した城壁を繞らしてゐる。東西南北に各二門を設けてある。元の始め、今より約六百年前の創設にかかり。現在の城壁は清の太祖が今より三百年前に修築したものであるといはれてゐる。

城壁の高さは、三丈五尺、厚さ、一丈八尺、周圍九支里（日本の四里ある）

一行は之の城の西門から城内に這入つた、排日の密集地であると云ふ、四平街を一路駛つた。此處は實に人馬の混雜する市街であつた。此處では一私邸の高樓に上つて城内を俯瞰した。手に取る様に宮殿の大清門が見える。

此の高樓で和田會長は徐ろに、排日の動機について語るを聞けば、之の城内では日

本の物貨に關稅をかけてゐるのである。それを日本の官憲から抗議を申込んだのがそもそもの始めであると云ふ事である。

民國人は雷同性が強いので、日本の留學生歸りが演述でもすると、すぐ賛成して噪ぎ出すと云ふことであつた。

一行は尙ほ豫定もあるので、下りて馬車を駛らせて城内を出て。商埠地と覺ばしき處を、駛つて、大きな廣場に馬車が止まつてしまつた。そこは、千葉縣人會長和田實氏の邸宅であつた。

此處では一行大に歡待を受けて、辭したのが午後四時である。

「喇嘛寺」

歸途喇嘛寺を見る、支那のお寺は今日では荒れに荒れて見る影も無い有様である。清朝の時代は皇帝と雖も侵すことが出来ない程、權威のあるものであつたさうである。それは今でも屋根が黄色の瓦で葺かれてゐるのでもわかる。由來支那では、黄色の屋

根は、皇室と、喇嘛寺に限られてゐたのである。それを見ても、其格式は皇室と等しかつたのである。

僧格は正二品僧で、其資格から見ると、張作霖氏以上であるといはれてゐる。

一行は僅かの拜觀料で、本体なるものを見た、此の様に露骨な、大本体まで見せる様に支那の宗教が墮落してゐるかと思ふと中國人のために氣の毒に堪えなかつた。

此處でも和田氏から、こんな話をされたことを記憶する、中國人は宗教もない、道徳も頽れてゐるが、道教のみは堅く守られてゐる、道教とは老子の教へで、個人的家族的の道徳である。其一例として中國人は酒を飲むが、泥酔して跚蹠として大道を歩くものが絶対に無いと云ふことであつた。

大連上陸以來其例を見なかつた、その點は日本人朝鮮人の遙かに追従を許さない處である様に思はれた。黄昏がれて一行は、大丸旅館に歸つた。

奉天に於ても縣人によつて盛大なる歡迎會を催された特に記して感謝の意を表す。

奉天までの紀行記録を終ると共に此處に滿洲に於ける日本人の生活状態を記述する必要を感じまして其一項を加へます。

滿洲に於ける日本人の生活

生活が安易であり、一旦渡滿したるものは再び日本に歸ることを欲しないことが、何よりも、滿洲に安住の價値の存するものある事に想到するのである。

往々在滿の邦人から、聞かされたことであるが、一度内地に歸つて見ると、人間が甚だしく多くて其生活のセチ辛さに驚く、長く滿洲の生活を体験したものは直ぐ滿洲へ歸りたくなると云ふ事であつた。これが滿洲の生活を物語るものと思つた。それ程滿洲が住み易い場所であると云ふ内容は何であるかを考へたとき、すぐ次の事項に思ひ當るのである。

一、滿鐵の社員は、社宅を給與されて家賃を要しない冬期は零下十度内外で、時に三十度を越ゆることがあるが、設備完備せるため何等の障害が無い。

二、燃料としての石炭が低廉である。一ヶ月平均〇、二噸、即ち一噸十四圓のもので、五ヶ月間は支へられると云ふことである。

三、食料品は支那産のものは甚だしく低廉であつて支那人は一日十錢内外を以て生活してゐると云ふことである。

肉百匁 十八錢 卵は二錢見當 野菜類も豊富で低廉である。

四、殊にどの部落でも日本人の多く生活してゐるところでは、消費組合の組織があつて、日用品を安價に供給してくれるのである。

五、税金は、どうか、所得税と云ふものは無い、戸數割として月收の、一パーセント、徴收される。

六、衛生状態を見るに、蚊と蚤は絶対にゐない、南京蟲がゐるが、豫防法も安易であるから、たいしたことは無い。

夏期は蠅が多いが、家屋は網戸を用ゐるので防ぐことができる。

七、乗物は、馬車人力車極めて多く賃金低廉市内は大抵十錢を超へない。

八、娛樂機關は内地以上である、運動の競技場、大圖書館、大劇場至れり盡せりである。

九、支那人中普通生活を營むものは、いづれも立派な紳士で、彼等は電車に乗つても、太腿を出す様な不躰のことは絶対に無い、長い旅行でも、シャツ一枚になる様なこともなく、端然として衣紋を正してゐる。

一〇、冬の寒さは体験しないが、夏期は暑いことは暑い、暑いが、空気が乾燥してゐるので蒸暑いことは無い、歩日蔭に入ると非常なる涼しさを感じ淋漓たる汗も引込んでしまふ。

一一、殊に感じのよいのは、情趣に富む風景である、滿洲の風景といへば、宏漠たるものゝ様に考へられるが山あり、川あり、森林あり、原野あり、園圃あり、その間に點綴する民家は青く赤く或は白く美しいものである。就中牛馬羊豚の草原に群れ陸む風情は全く内地では見ることの出来ない、活きた、風景畫である。滿洲も奉天迄は決して單調な平原で無い、低いながらも山あり丘あり渾河の川原には殘夏の野花も咲いてゐた

一四、哈爾濱

長春哈爾濱間、軌道の差、時差、爲替相場、哈爾濱の概念、土産物買取上の注意、露國の現状

九月二十日夜十時十分發列車にて滿洲の都奉天を後にし愈々今期視察旅行の最終地たる哈爾濱に向ふ。車中奉天の排日問題滿蒙開發問題等を談じ合ひし一行も日露の戦

跡を残せる鐵嶺今は製粉織布等の生産地たる同地を過ぐる頃より奉天にて準備せる露西亞毛布に包まれて殆んど全部眠りに就き大豆高粱等を多量に産する開原、四平街、公主嶺を夢の中に通過して翌二十一日午前七時我南滿鐵道の最北端に位せる長春に到着多數の縣人に出迎られて洗面朝食を共にし午前八時十九分發哈爾濱行列車に乗込む長春以東は南滿と標準時を異にし各自時計を二十六分進む尙此處よりは軌道を異にし滿鐵線に比して更に大きく世界最大と稱する程で内地とは大差がある。内地は三呎六吋滿鐵は四呎八吋なるに東支鐵道は實に五呎二吋である列車の構造も趣を異にし特等一等の如きは外國行汽船の一二等室の如く三等は三段にて頗る複雑せるに驚く唯滑稽なるは夏期薪を燃料とし進行誠に遅々である。日露戦役の結果撫順を我國に占領せられた爲め戦敗國の悲哀を感ぜざるを得なかつた我等一行には特に最後の二等車を與へられ他の乗客の混入を避け露國及支那官憲に護られ居りしは誠に幸福の至りであつた。



ヤカスタイキ市ンビルハ

更に長春以北は通貨を異にし切符を買入る際にも大洋銀に替へねばならぬ然も爲替相場には常に變動があつて國家の隆替は直ちに此の相場に影響がある外國に住む者が一入自國の隆昌を希ふのは此點ばかりではないが國家と自己とが誠に密接不離であるからである。あの廣漠たる大平野に我日章旗の翻る様を見ては唯禮拜するところではない跪いて拜みたくなる。涙が出る。

當日の爲替相場は内地の拾圓が拾參圓に當り長春哈爾濱間二等汽車賃九圓五拾五錢(大洋銀)で我等一行は特に三割五分引のため

日本金にして僅かに四圓七拾八錢であつた。

長春以北は小丘陵すらくなく天地一直線に連り一望千里際涯なく各所に緬羊の放牧を見ては長閑けさ云はん方なく汽車は此の大平野を除行して見慣れぬ風景珍らしき民家を眺めつゝ露國人、支那人の集ふ各驛の異様なる様を望みつゝ午後四時五分哈爾濱驛に到着す。

齊々哈爾濱より遙々出迎られた同地警察署長加藤佐吉氏(小倉縣視學義弟)及哈爾濱警察署長及部長等に案内せられ自動車にてモストローヤ街名古屋旅館に投宿。入浴夕飯に疲勞を慰し夜は右の諸氏に案内されて公園及最も繁華なキタイスカヤ街を視察し露國男女の散策多く其の輕快なるは西洋人の習慣かと思はれ全く外國に遊ぶ感あるも日本人の稀なるは何となく心淋しくダンスホールを訪ねては露國婦人の極めて快活なるダンス振り然も顯はに身体美を現はして恬然たる内地にては到底見る能はざる國際的見物を終りて歸館就寢す。

翌二十一日自動車を驅つて哈爾賓視察の途に上る先づ夏は水泳に冬はスケートに露國人の安樂境たる松花江岸（松花江鐵橋附近）に到れば對岸の鬱蒼たる樹木の中に美しき洋風の建物點在し水に映じて風光云はん方なし。松花江は黑流江の上流で船舶往來し魚類の産多く哈爾賓の繁華なるは此の川あるが爲めとも云はるゝ程である。次に支那町傳家甸に至れば支那特有の五色の裝飾にて色彩甚しく濃厚アヘンの集散地にて人口二十萬もあり繁賑なる街路二十四もあつて宛然祭禮の如く殆んど雑沓の状態なるに驚くも支那人町は他と同様道路悪しく不潔なるには閉口した、直ちに引返して新市街（各國領事館及從業員官舎等建並ぶ）を過ぎて志士の碑を弔ふ。日露戰役當時國家の爲めに盡瘁し遂に露國軍に捕へられ從容として死につき露國軍をして驚愕せしめたる横川省三、沖禎介（當時の六人組、松崎保一、中山直、熊脇光三、田村一三）の碑は當時の露國練兵場の一隅今は全く芝生の中央に屹然として聳え當時を物語りつゝあるを拜しては唯々感慨無量を禁ずること能はず此の如く一意奉公の精神に湧く志士少

なからざる我國家の國民たるを誠に光榮と感ぜざるを得ず。當時銃殺せる露國警備司令官は現在此の地のメザック街にある露國軍人戦死者の墓守をなしつゝありと聞く。歸途露支國人經營の東支俱樂部にて露西亞料理の歓迎を受け一先づ旅館に引上げ各自土産物を買求め旅装を整へて夜十時十分二等寢台車に乗り名残り惜しき哈爾賓を後にしてこれよりいよいよ歸路に入る。

◇ ◇ ◇

哈爾賓の概念

哈爾賓の名はどうして起つた？

哈爾賓なる名稱がどうしてこの地に名附けられたか哈爾賓なる名稱には如何なる意味を含んでゐるか。これには確實な資料がない只傳説が残されてゐるのみである。

一、哈爾賓なる名稱はハオピン即ち大墳墓の轉化したものだと言ふ其註として此の地にハオピンと名づけたのは將來此の地を大都市たらしめん目的の下に移住民が土

着する様斯く命名したといふ。二、ハルビンとは滿洲語で網干場又は魚網を意味する言葉で昔此の地が土人の魚場であつたから斯く名附けたとも云ふ。三、ハルビンはツングス語のハルビンから來たともいふ。

哈爾賓は東北亞細亞の中心に在る。

哈爾賓は北滿洲（長春より北が北滿洲で南が南滿洲である）の中心都市で北滿洲諸交通路の衝點にある即ち鐵路としては東方なる露支國境のボグラニチナヤ驛から西方滿洲里に至る東支本線と哈爾賓長春間の東支々線との丁字形交叉點にある、將來に於ては賓黒鐵道と東支線とが接するであらうと思はれる。次に水路は尼港、ハバロフスク及ブラゴヴェシチエンスクと松花江の上流に在る都市たるチチハル吉林とを繼ぐ線の間中に位し松花江による貿易の中心をなしてゐるのが哈爾賓である。更に哈爾賓からすこし離れてはをるが呼蘭河の河口が哈爾賓の勢力圏にあるから實質上から見れば哈爾賓は松花江本流と其支流呼蘭河の交流點にあると見られるのである。

地勢上より見るも哈爾賓は實に北滿大平原の真中に位する中心都市であつて諸外國人雜居の都會である。

哈爾賓の氣候と夏冬

哈爾賓は大陸的氣候の顯著に現はるゝ所である。従つて冬は零下二十七、八度から時には三十度に降り夏は日光直射温百度から百二三十度に昇る事がある。一日中に於ては冬の夜は著るしく氣温降下し夏の夜も又氣温降り晝間の炎暑に較べ涼氣頓に加はり初秋の冷氣を思はしめる然し人の身体といふものは常に寒温を調節する作用があつて寒暖計が示す様に人体には寒さ冷たさが感じない夏にしてもそうである人体は精神作用によつて或時は寒暖計の示す度数以上に寒さ暑さを感じたり又以上に感じなかつたりするこんな具合であるから哈爾賓は想像する程寒くなく又暑くない哈爾賓は丁度我樺太の南端に相當する程であるから晝夜の差が甚しい夏は晝が長く夜は至つて短かく冬はその反對である夏期に於て最も甚しい時は夜が二時間程しか

ない従つて室を暗くして夜のつもりで寝につくが外はまだ晝間であると云ふ珍らしい状態を呈する。

夏の夜は氣候殊の外心地よく人の心も自ら浮き立ち全く歡樂の巷を現出する。

哈爾賓の人口は三十三萬人種は三十餘種族。

哈爾賓は約三十三萬五千人の人を包含してゐる都市でここに住む住民を種族別にするると三十餘種族に及ぶのである。今日本人支那人露西亞人といふ此の三つに區別すると大正十五年度の調べで露國人十三萬支那人十九萬九千日本人三千二百其他二千八百合計三十三萬五千人となる。

更に進んで種族別に見ると露西亞人といつても二十種別からあるといふ例へばスラブ、猶太、ツングス、ギリーク、タタール、といった具合で國別に見ると英、米、佛獨、瑞典、白、スイツツル、印度、伊太利、和蘭等殆んど世界各國人が居るといふ有様である。

哈爾賓は國際都市だから各國の官公衙が多い。

哈爾賓は日本、露西亞、支那の三國を中心とする國際都市であるので、日、露、英、米、伊、瑞典、丁抹、和蘭、波蘭等各國の領事館があり従つて領事團がある。目下當市領事の主席は日本總領事であることは肩身を廣くする。只行政權と警察權とは今は全く支那人が握つてゐる。

哈爾賓に於ける日本人側の教育

哈爾賓には日本人、支那人、露西亞人を中心とする各種の教育機關があるが今茲に日本人側の教育を述べん。東京の日露協會が經營する日露協會學校がある。本校は井田孝平の創案創設に依るもので目的とする所は日露兩國民の楔たるべき人物を養成するにある組織は上海の同文書院と同一で同文書院の支那語中心なるに對し日露協會學校は露語を中心とする所に相違があるのみである。

小學校教育としては目下三百三十餘人を收容せる日本小學校がある、本校校舍は哈

爾賓居住民と滿鐵とが共同出資の下に金三十三萬圓を投じて完成したもので小學校としては巨大に過ぎ壯麗度を超ゆる立派なものであるかゝる校舎を設けたのは北滿邦人の將來に於ける發展を見越した事は勿論であるが學童の足留策として政策上より善美にし且内容完備のものを作つた譯である從來滿洲に於ける父兄は殖民地の學校に對して信ををかない、をいても薄い、夫れがため學童が上級に進むに従ひ父兄は學童を母國に送り緣故者に託し又は寄宿舎に入れて母國の學校に通はしめる傾向があるこの傾向は殖民地學童の教育上且つは我殖民政策上又は親子の關係上面白からぬ結果を招來する恐れがあるそこで子弟の母國歸還喰止め策として、一、安心して送れる設備ある學校を造る、二、安心して託せる様質の優良な教員を招く此の二つが全滿を通じて行はれて居るのである哈爾濱の小學校が母國の專門學校に匹敵する校舎を有するもの之が爲である。滿洲に生れ滿洲に育ち滿洲で教育されたものなると土著し悪いといふのが識者の等しく肯定する所である。

上記の外に日支親善の目的として組織された念三會の經營する夜間學修の日本語及支那語の語學校がある本校は創設日淺きも着々功績を挙げつゝある尙露語修學を目的とするものに滿鐵哈爾濱圖書館經營の露語夜學校がある本校は開設當初より幾多の難關に遭遇したが創設者の堅忍と教授者の犠牲的努力によつて既に三年の歴史を作り賞讃すべき実績を示しつゝある。

北滿洲の輸出入貿易

北滿洲の輸出貿易は農産品が中心。北滿洲は農業地なるが故に其生産も農産品が最も多く従つて輸出品も農産品が大宗を爲すのである即ち其の輸出貿易の九割五分迄は農産品である。

輸出總額約一億八千萬圓、内穀類一億三千五百萬圓畜産品二千七百萬圓林産品九百萬圓

北滿洲の輸入貿易は綿絲布が中心。

北滿の輸入貿易は總額の六一・五%まで支那人の需要品で三七%は露人、一・五%が其他といふ、状態である従つて輸入貿易の中心點は之を支那人の上に置く事が必要である。

輸入總額約一億二千萬圓内日本品は二九・二%即ち三千五百萬圓内三千萬圓、が支那人向四百五十萬圓が露人向其他が五十萬圓といふ數字を示すのである。

土産買取上の注意

哈爾濱は土地柄内地人に取り珍らしいものが澤山ある、けれどもいざ土産物として買はんとする場合は税關の關係やら運送上の不便に縛られて少なくなる買ふ時は相手が多く支那商露商であるため言葉が通せず高買したり買損する場合が甚だ多い夫れで安全且便利な方法として在哈同胞の何人でも宜しい通辯を頼むなり、又買取方を依頼するが宜しい今左に内地人が最も多く買つて歸る主なる品名をあげると。

露西亞毛布。昔から質がよく持ちがよいので有名である、これは今は波蘭から海路此の地に來るもので値段は十二圓から四十五圓位までである。毛布買取上注意すべきは露西亞毛布に模したもので當地産のものがある一見した丈けでは見分けがつかない只手ざわりが違ふのみである。

レース類、卓子掛、窓掛、日本婦人の下着袖口用として買取られて行く當地にあるものは日本で可成高價なもので上質なものであるから土産として喜ばれる。

寶石。買取上最も多くの注意を要する、一流の店を撰ぶことが肝要である。

露西亞菓子、ポイル、ゼフィール、更紗、麻織物、絹紬、緞子、毛皮等皆欲しくなる。毛皮類は内地から見ると非常に安い粗製品もあるから注意を要する。

x

x

x

哈爾濱の項を終るに當つて附記したいことがあるそれは露國の現状である日露の戦役に敗れ世界の大戦に巨額の経費を傾け更に革命によつて政治はプロレタリアの専制となり個人所有のものは沒收され革命前の資産家は無一物となり本國に於ては國民の

大部分が家族の數に應じて與へられる借家住ひをせねばならぬ、共産政府ではその沒收した山間海邊の別荘などは多くは労働者の休養所或は虚弱兒童の林間學校等に使用し「モスクワ」に於ては或有名な料理屋が今では博物館になつたり或資産家の邸宅が役所になつたりして居るといふ事である然も商工業は國營となり官吏が商人をつとむる状態で個人の権利の蹂躪せられた勞農露國、ソヴェート露國の現状は氣の毒であり憐れむべきであるかくの如き悲惨なる現状を見聞するにつけ我國民の幸福なるを光榮とし忠君愛國の信念を一層強からしめる。

露國人多きキタイスカヤを視察して道行く露國人を見ると男は労働服が多い背廣服を着て居るものは僅かに二割位でもあらうかこの労働服ナツバ服が露國男子の通り相場でかゝる服裝が却つて勞農露國では巾が聞くものと見える鈍大素朴な彼等の態度にはこれが適當かも知れぬ。婦人は地質は左程でもない様であるが相當の姿をしてゐる純露西亞式の風呂敷様のものを被つたものや赤色布で八巻をしたもの無帽のもの西洋婦

人の帽子をつけた者等様々である。

然し何れも大股に姿勢特に立派に輕快に濶歩する有様は我國婦人の足先を内に疊一枚七足半式の消極的な歩行に比して雲泥の差等がある支那婦人の纏足の如く習慣程おそろしいものはないがこの點だけは我國婦人の醒めねばならぬこと、思つた商店役所に行つて見ても婦人の事務員がかなり多い支那朝鮮等では婦人の事務員を殆んど見ないのに比較して餘程趣を異にする。

一五、長 春

縣人會の好意 西公園 長春事情

九月二十三日朝五時列車中に起床すれば既に北滿の大部分を通過してト海停車場に近づき久方振りの雨に煙りて遠望を恣にする能はざりしも滿州は内地と異り頗る乾燥し居り然も雨期にあらざりし故驟雨性にて雨後は誠に快く一望千里の滿洲も漸次に丘



長春市街 (支那旅館福順棧)

陵を遠望するに至り午前七時再び長春驛に下車すれば多數の縣人に出迎へられ滿鐵經營獨身俱樂部（獨身者の官舎）に至り内部の整頓せる状況を視察して屋上に昇り東葛野田出身にて地方學務所官吏たる中村治郎氏の極めて明敏なる頭腦により氣持よき説明を受けて長春の大要を知り食堂に導かれて朝食の歡迎に預り直ちに馬車に分乗して長春市内を案内せられ長春日本人第二小學校及印旛郡遠山村出身の神崎邦治氏の奉職せる長春商業學校等を視察してその規模の宏大にして設備の完備せるに驚き次に滿洲

第一と誇る西公園の偉大なる施設と極めて幽邃なる、一憩を喫せんとする心切なりしも時間なく馬車を急がせて三度長春驛に至り午前八時五十分發にて公主嶺に向ふ。長春驛に下車してより僅かに一時間五十分に過ぎず此間よく長春の大要を視察し得たるは縣人の多大なる好意と中村氏の明晰なる説明振案内振によることにて茲に記して深く感謝の誠意を表す

長春事情

一般狀況

長春は吉林省長春縣に屬し我南滿鐵道の最北端に位し標高は山梨縣甲府附近に匹敵し北緯四十三度五十五分にして北海道旭川と略々同じく徑度は朝鮮新義州附近に相當し東徑百二十五度十八分である。

長春の四圍は一帯の曠野にして唯遙かに東南に當つて石碑嶺の連丘を望むのみであ

る。

日露戦役の結果寛城子以南の鐵道は我邦の有に歸したのであるが寛城子自体の孰れに歸屬すべきやの問題につき兩國間に解決を見ず爲めに、我邦にては其間孟家屯を終端驛として列車を運轉し旅客は凡て徒歩にて連絡したのであつた。明治四十年六月本野大使露國外相と協約し寛城子停車場の土地建物は露國に引渡すこととし之が賠償として露貨五六〇・三九三留を我に支拂はしめ之を滿鐵會社に交付し茲に本問題の解決を告げたのである。右の議定の内旨決定するや時の滿鐵總裁後藤男は寺内陸相と協議の上佐藤少佐を委員に任命し附屬地の買収に着手し明治四十年三月より八月迄に長春城北門を距る約十五町の頭道溝と稱する地域約百五十萬坪の用地を三三〇・八七五圓にて買入れたのである之即現在の長春附屬地にして爾來滿鐵は此處に市街を建設して今日に及んだのである。

かくて買収當時荒涼たる原野に過ぎざりし長春の地は今や南滿鐵道終端地として諸般の設備略々備はり市街の壯麗なる沿線中一、二を争ふ處となり居住者及集散の貨客は年と共に加はり逐年繁榮を呈するに至つた。

人口。

日本人、在滿邦人は大正七、八年頃の好況時代を絶頂として次第に減少しつつあるが如く云はれ居るも當長春は年々増加する傾向を示して居る昭和元年末現在に於ける在長春邦人は附屬地一萬八十九人商埠地及城内二百九十四人合計一萬三百八十三人である。

中國人、在長春華人も年々増加の趨勢を辿り昭和元年度末現在に於て附屬地商埠地及城内を合せて人口十萬九千三百十三人に達してゐる。

外國人、外國人は極めて少數にして昭和元年末現在に於て附屬地五百六十五人之に商埠地及城内の五十人を加へて六百十五人に過ぎない。

教育施設

滿鐵附屬地内の教育行政は滿鐵が其任に當つてゐる即次の如くである。

長春商業學校、本校は大正九年三月十日の創立に係り同年四月開校した大正十一年七月在外指定學校に指定せられ同年九月新築校舍落成し十四年寄宿舎及本校の増築と共に美しき一大建築物の一である。

本校規則第一條に「本校は明治三十二年文部省令第十號商業學校規則甲種の程度に従ひ内外商業に關する必須の教育を施し將來躬ら處理經營すべきものを養成するを以て目的とす」と規定して居る修業年限は五ヶ年にして本年第三回の卒業生を出した現在生徒數は三百六十七名職員二十七名

長春高等女學校、大正十二年一月設置され同年四月一日開校した校舍は大正十四年完成され頗る女子教育に必要な設備をなして居る。現在生徒數二百九十一名職員十六名である。

長春第一尋常高等小學校、明治四十一年五月の創立にして長春以南劉房子驛までの

鐵道附屬地の兒童を收容してゐる現在兒童數男子四百五名女子二百九十八名職員十九名である。

長春第二尋常小學校、大正十四年十一月の開設に係り現在兒童數男子一百六十五名女子一百五十七名職員十名である。

長春公學堂、創立は大正元年十一月にして附屬地に於ける中國人兒童教育の任に當る學級は初等科四學年高等豫科一學年高等科三學年に分たる現在兒童數は男子三百六十四名女子は僅かに五十一名にして教員數は日本人六名中國人五名である。中國人の女子にして向學心乏しきは驚くべき程である。

長春普通學校、本校は長春朝鮮人居留民會の管理に係はり附屬地内に居住する朝鮮人の子弟を教育し毎年滿鐵の補助金を受けてゐる大正十一年九月の創立にして現在兒童數一百六十二名教員數は五名である。

滿鮮に於て公學堂と稱するは凡て支那人の兒童を收容する學校にして普通學校と稱

するは朝鮮人の兒童を收容する學校である。
 其他長春には長春家政女學校、生徒數十四名、教員數四名。長春實業補習學校、生徒數二百七十八名、教員數十七名、長春幼稚園、幼兒數男子九十四名女子八十六名、教員數五名、等の學校がある。

商 業

長春は南滿線最北端に於ける物質の一大集散市場であつて特産取引市場所謂『豆の都』として其發達を遂げ來りたる商業都市である最近一ヶ年に於ける貿易額は輸移出約一億一千萬圓輸入約一億二千萬圓を突破してゐる。主要輸移出品は大豆、豆粕、高粱、粟、包米等を以て大宗とし木材、燐寸、麥粉等これに次ぐ輸移人品は綿糸布を以て大泉とすべく其他に織物、石油、鹽、卷煙草、麥粉、麻袋、陶磁器其他の雜貨品等を擧ぐべきである。

而して長春は附近後背地（雙城、五常、舒蘭、吉林、双陽、伊通、伏龍泉、農安、



豆の野積

扶餘、德惠、榆樹) 所産の特産物の集散市場並に該背後地向諸輸移入貨物の中繼市場として其經濟的勢力を保持せるものにして自然當地に於ける特産取引と輸入貿易の兩者は因果關係の下に置かれ特産市場の盛衰如何は從つて背後地に於ける農産物の豊凶如何に關係し正に當地に於ける輸移出入貿易の消長を支配するものに外ならない。然るに近年不幸にして特産物當地集散狀況は逐年減少し大正八年度出廻高九十七萬七千二百六十九噸に對し大正十四年度は三十四萬七千二百七十八噸に減少し漸次『豆の都』

として實勢を喪失しつゝある。當地に於ける貿易繁盛期間は特産出廻期即例年十月中旬より翌年三月下旬に至る迄を以て最となし此間に於て奥地農民の手に依り最寄市場に蒐集されたる特産物は馬車に依り再び當市場に搬入され取引決済の上一方彼等搬入者は次年度收穫期に至る迄の日常必需品を購入所謂「歸り荷」として當地に輸入された諸雜貨を運び去るのである。即三五%の現地消費に對し六五%は背後地に仕向けられるのである。

一六、公主嶺

農事試験場 滿洲の農業

九月二十三日午前十時二十三分公主嶺に下車す雨上りの爽快な氣分を味ひつゝ驛長より農事試験場に至る道路を教へられて一直線に進む。

公主嶺は元蒙古達爾罕王タルハーンの所領で公主嶺の名稱は驛の西北二里餘にある公主陵に基くといふ此の陵は達爾罕王の一族に屬する二兄弟の墳墓であるこの兄弟は清朝第六代高宗の姪に當る女を妃としたので共にここに合葬してある蒙古人はこれを格古兎陵ココトといふ丁度この邊が南北滿洲の分水界で遼河と松花江とが互に相背斜する地點である露國の東清鐵道は南部線の中央驛としてここに大規模の施設をした。今も残る停車場、機關庫、劇場等は當時の雄圖を物語るこの地特産物の出廻り多く屈指の移出市場である農事試験場

驛より僅かに十數分にして試験場に到着し應接室に入りて場内の大要を知り更に階上に招せられて滿蒙に於ける農産品の狀況の説明を受け更に畜産部を案内された。場内の面積は十餘萬坪もあつて高粱、牧草、榆、白楊等の試作地が中々廣い、ここで樹苗を仕立て、沿線各地に配布する滿蒙の植林も中々有望である蒙古種の羊牛豚等も數百頭あつて優良種を作り現在の収益を二倍三倍にすることは左程困難でない之を蒙古にある羊二百萬頭について完成したならば我國毛織物の原料を海外に仰ぐの

必要がなく皆滿蒙の地から供給することが出来るといふことで場員の抱負が頗る頼母しい。

事業概要

公主嶺本場には種藝、農藝化學、病理昆虫、畜産科及庶務係の四科及一係を置き業務を分掌す。各科事業要項は次の如くである。

種藝科

農作物の改良増殖

イ、大豆の改良、現今滿洲に生産する大豆は年額約二千五百萬石に達し世界的貿易市場品として滿洲經濟界を支配するに至つた。けれども從來農家の栽培するものは品種の雜淆甚だしく従つて收量品質劣等なるを免れず本場に於ては之が品種改良に力を致し公主嶺附近にて稍優良種と目せらるゝ四粒黄を原種とし純系分離の方法によつて優良種の選出に努めた結果改良八七號同四號の兩系は原種に比し平

均一割の増收で品質亦優良在來普通農家の栽培せる品種に比すれば實に五割乃至六割の増收がある今假りに滿洲に於ける大豆の作付面積を現在の儘とするも改良種普及の曉には年額一千三百萬石以上の増收となり加ふるに品種の優良なることにより滿蒙の富源を増進すること偉大である。

ロ、小麥の改良

滿洲に於ける小麥の需要は頗る大なるものがあるが南滿にての小麥の作付面積並に年産題は甚だ多くはない。これは主として氣候上の影響に起因するものであるが南滿に於ける氣候風土に適する改良種の育成がないからであるので本場に於てその育成に努め改良六號を産むこれは原種に比して僅かに三、四分の増收に過ぎないけれどもその品質に於ては遙かに優良である。

ハ、陸稻の改良

滿洲に於ては米の産額年々水田の開拓と共に増加するを見るも水利の便を缺く地

方にあつては陸稻によらねばならぬ乃ち陸稻を改良することは甚だ急務である本場に於ては大正四年以來公主嶺附近の栽培種たる金線稻子を調査し純系分離を開始大正十一年に至つて改良種四種を得たこれは原種に比し多きは四割の増収があり粒揃整一、品質亦良好である。

ニ、甜菜品種の育成

各作物品種試験、輪作に関する試験等を行つてその試験の結果を數字的に發表してゐる。

尙種藝科には農具及土地改良、農事氣象觀測、種苗育成及配布、其他農作物栽培に関する事項等が含まれてゐる。

農藝化學科

この科にては農牧林業及畜産業の生産物化學的研究、肥料研究、土壤研究、農産製造研究、飼料研究等が行はれて價值ある研究を發表してゐる。

病理昆虫科

この科にては植物病虫害並に其豫防驅除に関する研究及植物病虫害の豫防及驅除用藥品機械に関する研究等が行はれてゐる。

畜産科

畜産科にては南滿洲及東部內蒙古に飼養せられる各種家畜の改良に向て從來蒙古在來綿羊の毛質改良試験及仔羊毛皮改良試験滿洲在來種豚の肉量及肉質改良試験を行つて來たがこれ等は略々所期の成績を挙げ得た爲大正十五年度よりは更に蒙古馬匹の改良と蒙古牛の肥育試験及鶏に関する試験を開始した。

而して滿蒙地方に流行する各種獸疫の調査及飼料作物の栽培に関する試験、牧草類の適否試験、滿蒙産野草の飼料價值に関する試験は今尙之を繼續してゐる。

x

x

x

滿蒙の耕作は大農式で一家の作付面積は普通二十天地である一天地は我六反歩に當



公主嶺農事試驗場

るから内地の五反百姓に比べると實に廿四
倍に相當するのである従つて牛馬耕が能く
行はれ大概四頭乃至六頭に大きな鋤を曳か
せるが馬が非常に温順である、地味が肥え
て高粱大豆粟を年々輪作する高粱が最も肥
料を要するので三年に一回即ち高粱を栽培
する時に僅かに堆肥を施すので他は施肥を
要せぬ滿蒙の地の肥沃なことが之で推して
分かるのであらう一望際涯のない眞平な土
地は鐵道線路に沿つて殆んど直角に高粱大
豆粟又は青麻の畑となつて五六十間の幅二
三百間の長さで交互に竝んで居るのを見て

内地の猫舌の如き田畑を思ふと是なる哉と讚嘆せずには居られぬ營口以北は大概此
の通りであるから見渡す限り何處までも高粱の風、大豆の波、粟のそよぎ、麻の響
ならざるなしといふ有様である。

一七、安 東

公主嶺より安東まで 安奉線の風光 鎮江山 鴨綠江 税關検査 國境越

九月廿三日午後二時四分公主嶺を後にして午後八時三十分再び奉天に下車すれば又
も和田實氏外多數縣人の出迎を受け千葉郡生實濱野出身鶴岡永太郎氏經營の頗る壯麗
なる都ホテルに招待せられたるも何分時間不足にて如何ともする能はず甚だ禮を失す
ることではあり一同誠に遺憾に感せしも玄關前にて厚くその厚意を感謝して大丸旅館
に引上げ大急ぎにて荷物の整理をなし諸種の用務を済ませ懐しかりし奉天を辭し多數
縣人に見送られつゝ、午後十一時發寢臺車に乗り込み別れを惜みつゝ愈々安奉線に入

り一同列車中に眠る。

この沿線は本線と餘程風光を異にし到る處左右の青山や太子河鑿河本支流の碧水が人を娛ましめる二十四の墜道二百餘の橋梁を過ぎるごとに眼界が新になつて汽車中眺望にあくことを知らぬ位である。

雞冠山驛鳳凰城驛には同名の山があり全山堅巖から成つて皺狀頗る奇拔、妙義山に似た所があつて一幅の南畫の様である一同爽快なる夜明に眺望を恣にしたが實に快限りなしと云ふべき絶景である。

特に風光絶佳と稱せらるゝは橋頭から分水嶺まで細河の清流に沿ふ二十哩ばかりでさら〜と流れる清冽な水、白く巖に激する水、岩に堰かれて青く淀む水、さては岸邊に散在する民家、雜木、白砂、懸崖のひまにのぞく松樹など滿洲本線の一望際涯なき平々坦々たる廣野の旅を續けた生等に更生の思ひを起さしめ車窓美しきこの風景に接していひ得ぬ喜びを感じしめた。只わけても細河の峡谷の中で最も絶景とせられてゐる釣

魚臺附近を眠りのまゝ通過せしは千載の恨事とせねばならぬ。

滿洲の風光を賞した四季の歌に

春は熊岳梨の花

夏は涼しき星が浦

秋は千山紅葉狩

冬は安奉線の雪景色

といふのがある冬の雪景色は又格別であらうと想像される。かくて南滿の終點（朝鮮より旅する者には起點）安東に下車したのは九月二十四日快晴の朝七時十五分であつた。多數縣人に出迎られて驛前の安東ホテルに入る。

安東見物 鎮江山

先づ馬車を備ふて印旛郡出身新義州商業學校長諏訪原義衛氏に案内され安東附近を一望の内に見下す鎮江山に登る。鎮江山は新市街の背後に控えてゐる。滿鐵經營の公園で脚下に安東全市を展開し鴨綠江を隔て、指呼するところに新義州があり遙に白馬の連峰聳え下流は遠く黃海に達し上流新義州の彼方は模糊とし更に江上白帆の

風を孕みて往來するなど展望雄大絶佳の境である且山中樹木多く人工を加へて風致を増し春秋遊客を絶たず殊に萬朶の櫻は全安東の市民を呼び一大歡樂境を示すなどあり滿洲屈指の遊園地である。

園内樞ヶ岡に表忠碑がある日露の役鴨綠江岸より本溪湖以南にて戦死の將卒一〇九六名の遺灰を合祀されており東方中腹には天照大神を奉祀せる安東神社がある我等一行は縣人に案内されて表忠碑に禮拜し安東神社に額づき此處にて香取郡出身の小林子之助氏より種々の説明を受けた。

安東概況と沿革

安東は滿洲東南邊の重要門戸として鴨綠江の河口を遡る十六哩の地點に所在し元寶鎮江の諸山を背後に控へ對岸朝鮮新義州と對して市街は新舊二つに分れ舊市街は沙河鎮といひ支那人商家の櫛比する處人口七萬二千新市街は舊市街に接し驛を中心とした近代式の縦横井然たる街衢をなし人口四萬六千内邦人九千八百あり。

安東附近はもと邊外と稱へられ人煙なき地域であつたが前清の同治年間に至つて山東及遼東沿岸より移住した漁農民によつて一部落をなし地名を沙河子又は沙河鎮と稱へた其後移民の増加と共に開拓の業勃興し光緒元年（同治十三年の次年）奉天總督は几城に道署を置き大東溝に縣署を置いたが後に沙河鎮に移された。

光緒二十年には日清役起り我軍は此の地を占領して民政廳を置いたが和議と同時に之を撤した爾來迅速の發展をなし地方物資の集散地となつた光緒卅年日露戦役起るに至つて我軍はこの地を兵站の地となし軍政を布き軍用輕便鐵道を敷設した爲に人民の來住益々多く邦人の渡來者も加はり我軍政下に市街の改善施設其他居留地の收用防水堤の築造等を行ひ明治三十九年我軍政は徹せられ支那行政は之を還付し翌年支那當路はこの地に道署を移し海關を設け商人は商務總會を設置する等商埠地としての面目を具へた。

一方我居留地のうち官有地は民團の自治に委し鐵道附屬地は野戰鐵道經理部を経て

明治四十年四月滿鐵會社の設立と同時にその管掌に移つた。四十四年安奉線廣軌鐵道の開通と共に鴨綠江の鐵橋も落成を告げ一層市の發展を促進した、由來滿鐵の經營と民團の努力と相俟つて商工業都市としての安東を出現せしめた大正十二年居留民團は機運に應じて解散し官有地は鐵道附屬地に合併され全市は滿鐵によつて經營されることゝなつた。

鴨綠江

鎮江山にて安東の概況を聴取した我等一行は再び馬車に乗じて國境を洋々として流るゝ鴨綠江岸に至り海事出張所汽船綠川丸に乗船して同所官吏香取郡出身の成毛敬三氏の案内にて鴨綠江を下る。

『朝鮮と支那との境の鴨綠江かけし鐵橋は東洋一、十字に開けば眞帆片帆行交ふ戎克の賑はしさ』

筏流しと鴨綠江と鐵橋とそして安東の名を邊鄙にまで知らしめたのは唄ひはやされ

たこの鴨綠江節であらふ。

『筏ながしは八挺櫓でくだる』

よのめねないでみなくだる』(野口雨情)

白頭山に源を發した鴨綠江は延々百四十支那里鮮支の境界をなして黃海にそゞぐ上流長白山脈を包んだ大森林は實に二百三十萬町步擁材量實に十數億萬尺べ(尺べは十二立方尺)に及び伐出されて有名な筏流となる。

『筏ぶし唄ひながらに瀬をこせば』の小唄を乗せて流浪を下る筏。筏上に家を作り家族同乗して下る筏。鴨綠江材の行きつく所は『十字に開けば眞帆片帆の鴨橋下である。』

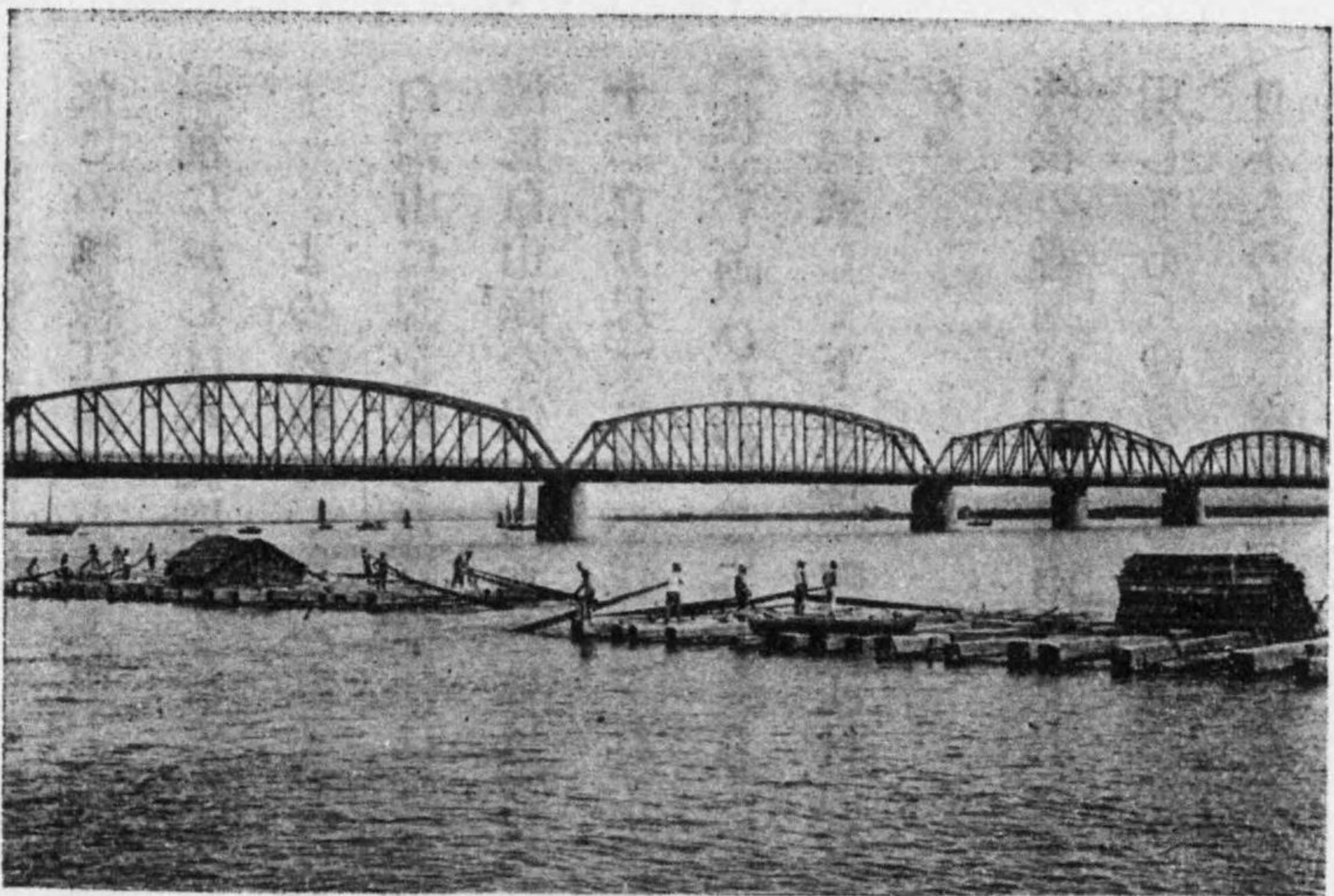
流筏の盛期は七、八兩月で十一月下旬から三月中旬までは結氷しこの時期は櫓を利用してあらゆるものゝ運送に充てゝある鐵橋附近は氷滑場として名高い。

日本人の流し來る筏は細長く支那人の流し來る筏は巾が廣い筏を作るに木の根にて

組み一月もかゝつて流し來るもので一つの筏は大抵二千圓位と聞く賣つては又家族同伴山奥に歸る然も筏に組む迄十里二十里の山奥から伐り出し運搬して初めて筏となす譯で中々の苦心である。この筏の間を下るランチの快感は又いひ難い兩岸には廣大な製材所が立並んでゐる其數實に二十二を數へ盛大さ推して知るべしである。

鳴綠江鐵橋

鮮滿緊締の唯一交通路である鐵橋は朝鮮總督府の經營に係り全長三千九十八呎橋桁十二連有名な回轉橋はその中部の一桁であつ



鳴綠江鐵橋と筏流し

て回轉する場合には先づ動力にて引き上げ四人の人手によつて開閉する一日四回十字形に開橋し船舶航行の便を計つてゐる橋上線路の兩側は幅八呎の歩道となつて往來が出来る東洋一の鐵橋であると共に幾多の橋梁中の異色である。

開橋時刻 午前四時半——五時半、八時半——九時半

午後一時——二時 四時——五時

鳴綠江鐵橋下に支那の砲艦が浮いてゐる密輸入を防ぐためとのことであるが石炭のないため走ることが出来ない機關銃を備へ付けてあるが弾がない。おまけに水兵がたつた一人しかゐない。支那は個人的には金持が少くないが政府には金がないこれは一例に過ぎないが如何にもよく支那の國情を物語つてゐる。江を遡りて下船。歸途安東金谷園に招かれて支那料理の御馳走にあづかる。一行は度々の支那料理攻めにて閉口いたし居りしたため一寸顔色なかりし有様氣の毒でもあつたが然し厚意は心より感謝しつゝあつた記録係たる小生は或は先祖が支那人ではなかつたかと思はれる。支那料理

にての歓迎が度重なるにつれ回を重ねる毎に美味を感じる。又支那料理と聞いて實は勇み立つて特に人力車を備ふて金谷園に馳せ支那料理の出づるを今や遅しと待ち構へたのも今となると滑稽である。

諏訪原義衛氏の歓迎の辭について團長渡邊英三氏の堂々たる挨拶一行は誠に肩身が廣かつた。小生はその堂々たることだけは知つてゐるが支那料理にばかり不思議に氣が取られて其筋は餘り記憶に残らなかつた。

舌鼓を鳴らした歓迎會（これは或は小生のみかも知れぬ）が終ると縣人の案内で或は支那町を視察するあり或は裏面の觀察をなすあり各々土産物としては滿洲の最後であるとし諸種の買物をなしたが特に煙草は大抵こゝで求めた様である。一同安東ホテルに歸り愈々國境越えの準備にかゝる。

税關検査

滿鮮連絡旅客の手荷物は安東驛で朝鮮中國兩税關の検査が同時に行はれる。この場

合旅客は必ず立會を要することゝなつてゐるのでここにその大要を記せんとす。

検査の順序

安東驛通過の場合、旅客の携帯手荷物は列車内に於て到着と同時に検査が行はれるから旅客は各自の座席で荷物を開いて待つて居ればよい。托送手荷物はホームの検査場に取り卸してあるから車内の検査が済んだ後立會ふ。荷物の開梱は出来るだけ驛員が手傳ふ。荷物を安東驛にて托送換への場合には以上の手續を終へた後待合所の手荷物受付口へ廻つて托送すること。

安東驛乗降の場合、乗車の場合托送すべき手荷物は受付口で検査を受けた後托送する。携帯手荷物も同所で検査を受けて車内に持込む。下車の場合携帯手荷物は降車する。降車場の検査場で検査を受け托送手荷物は引取の際引渡口で検査を受け

る。

課税に就て

大體旅客の携帶日用品は免税であるが朝鮮及内地に搬入する左記物品は價格の十割即百圓の請取證の品物には百圓課税される。

貴金屬製品、寶玉石、絹織物、毛皮、毛織物、菓子、酒類、化粧品、娛樂道具、寫眞機、蓄音機等生活必需品にあらざるもの。

煙草は喫煙者に限り自由として左記數量は認定によつて免税されてゐるが検査の證印を必ず受けねばならぬ、葉卷ならば五十本、紙卷ならば百本、刻ならば三十匁迄で葉卷二十五紙卷五十とすれば双方を所持することが許されてゐる。

少量の土産物として左記物品の數量は何れか一種位不文律の様に携行を許されてゐるが元々税關吏の認定によるのであつて之を定量として主張することは出来ない。

砂糖十斤、絹紬一反緞子五尺、酒類二本位。

尙寫眞機其他の課税品を内地より携行する場合は必ず途中の税關吏から許可證明を受けて置かぬと歸還の際課税されるから注意が肝要である。

關税のことを記した序に我等一行の安東出發の狀況並に遭遇した税關検査の狀況を述べん。

九月廿四日午後五時四十分發にて平壤に向ふも乗車前税關の検査あるため五時停車場に至れば検査を受けんとするもの否検査されるものが満員の盛況。順次に検査を行ふため前者の様子により後者は煙草其他危険と思はるゝものは足下に捨つる等他に見られざる光景を呈し捨てられたる煙草の散亂し居るも憐れである。

この分にては發車に間に合ふ如くならず極めて心配であつたが幸に税關吏員の厚意によつて、我等一行は特別待遇を受けプラットホームに入場を許され同所にてトランクを開き検査を受けた煙草酒類は殊の外嚴重で煙草は一つ宛總て檢印を受け前記規定外は吸ひ残り一本を持つも百本に對する課税ありこの點は縣人の注意によつて一行一人として違犯者なく皆無事に通過して乗車したるは快かつた縣人殆んど全部が見送られ新義州の縣人は同所まで同車された車内に入れば入口近くに一人の佇む者あり一行同

所に座を占めんとし小倉副團長はこの人に對し此處は團體の場所ですからどうぞおち
 らへといふも動かさず小生も不思議に思ふ二三回副團長の同様の注意あり詮方なく後方
 に立退く然し舉動甚だ不審の點あり常に人の話を聞き取る如く又行動を注意するが如
 し小生は前に座を占めたる佐藤君にあればどうも税關吏員かも知れぬと注意したこの
 爲佐藤君は時折振り返つてその人を見たやがて列車は發車し同縣人と別れを告げ互に
 健康を祈りあつて遂に滿洲の地を離れ東洋一の鐵橋を通過し新義州に於ても同様本縣
 人と別れ愈々朝鮮の地に入る。

新義州を通過して暫く進めば急に税關吏數名入り來つて再び嚴重なる取調べありト
 ンラクの中、果ては身体の外側より手にて觸るゝ等中々の嚴格さ。この不意打には頗
 る驚愕、滿州の天地にて大度量となり一等國民として國際的の試練を積んだ一行もこ
 の舉に遭遇して幾分その度を減せられた感がある。然し一行中支障あるものゝなかつ
 たことは教育者としての體面を保ち得たと信ずる。

聞く處によると滿州から高等學校の入學試験のため東上せんとした一學生は列車で煙
 草の量多きを發見され隠匿したと認められ再び安東まで送り返された爲試験期日に遅
 れて入學試験を受けることが出来なかつたとのこと。

全く油斷がならぬ關稅に屬することは殆んど内地の廣島邊までは話も出来ぬ。密輸入
 者の密告をすると税金の半額は謝禮としてその人に與へるとかいふ話も聞いた。内地
 に入つてから私は寶石や毛皮などを澤山持つてゐたがとうとう見附られなかつたと隣
 の乗客に話したらそれが税關吏で名刺を出されて課税されたといふこともあるそうだ

x

x

x

安東の記事を終るに當つて此處に國境に於ける感想を附記せねばならぬ鴨綠江は實
 に鮮支の國境である。川一筋を隔てて全く事情を異にする服裝、人情、風俗、言語、物
 價等皆異なる、誠に國境は不思議である。國境に就ての感じは一度國境を越えた體驗を
 持つ者でなければ解し得ぬことである。然し鮮支のこの國境には川がある、まして陸地

續きの國境は又格別に深酷な感じを與へるであらう。

彼岸の住民は紺服、此岸の住民は白服、彼岸は勤勉、此岸は優長寧ろ遊惰、(尤も朝鮮民は如何に蓄積するも税金として取上げられ、苛斂誅求至らざるなかつた長い間の習慣が住民をして怠けるに如かずといふ風を起さしめた朝鮮王室の國民から信用を落したのも亦此點である) 彼岸は物價低廉なるに此處は高價である煙草など向ふは五錢此方は拾五錢凡てがかくの如き状態のため殆んど命がけの密輸入が行はれる鐵橋上から激流に飛びこんで密輸入を計るもの長き竹竿に酒をつめて竹と見せかけて通過するもの馬や牛に車を曳かせて荷馬車の如く装ひ馬若しくは牛を賣り車を捨て、歸る(車を捨て、無税で通過すれば十分利益がある尤も粗末な車かも知れぬが) 者等枚擧に暇がない冬季鴨綠江の氷結した際が思ひやられる。

向ふの言葉は此處には通せず住家の構造は異なり施設又總てを異にする全く國境ほど印象の深いものはない。

一生に一度は歐米諸外國に行つて見たいと思ふ心が切りに起る只旅費のないのが遺憾である。

一八、平 壤

安東より平壤へ 國境節 平壤見物 大同江

鴨綠江の兩端には税關があつて通行人の携帶品を檢査する我兵士が橋を守つて居るこの橋一つで時間が一時間違ふ總てが趣を異にして特に耳目を新にする。滿州で見た様な高粱畑はもう見えない。見渡す限り水田となる然し田畑は瘠せてゐると見えて一向作物が成長してゐない様である。ふと汽車中に次の様な電報が届いた。

ハクバエキニテ

アントウハツ六レツシヤナイ

チバケンキヨウイクシヤシサツダンチャウ

ワタナベエイ三

リヨウサクニテムカウ

ナガシマ

カクサンエキ

コゴセジ

右は千葉郡譽田村出身で平安北道龜城普通學校長永島章氏からの電報である良策驛に着けば同氏は林檎梨等を多量に携へて遙々出迎へられた。聞けば龜城から十里の道を出で郭山驛から乗車してこの驛まで來られたと。然も今夜はもう歸ることが出來ないから定州に宿るの外はない。交通不便の所からかくも苦心されてまで歓迎される御厚意に對しては全く感謝する術がない。

同氏から朝鮮北端の事情や朝鮮に於ける教育の實情等の話があり定州驛まで同車された。有名な國境節も此の時に覺えた。

國境節

ここは朝鮮北端の

二百里餘りの鴨綠江

渡れば廣漠南滿洲

極寒冷下三十餘度

卯月半ばに雪消えぬ

夏は水湧く百と餘度

つとむる吾々同胞の

安き夢だに結び得ぬ

警備の辛苦誰か知る

川を渡りて襲ひ來る

馬賊の輩の不意討に

妻も銃取り應戦す

御國の爲になるならば

露よりもろき我命

捨つるになどが惜しからん

虎は死しても皮とどめ

人は死しても名を残す

東洋平和のそがために

或冬のこと酷寒の國境は氷結して眠るが如くであつた然し警備の任に當る我警察官は眠ることも出來ないその辛苦や思ふべきである。眞夜中に一駐在所はたちまち起る銃聲に襲撃された勿論不逞の輩のためである。妻は産婆役をつとめその夜は他出先から驚き歸る夫は病床にありしも既に準備を整へて走り出でこれと應戦。子供は非常喇

吠を吹き鳴らして附近民を避難せしめた。妻も銃を手に應戦したがもとより衆寡敵すべくもない颱風一過静まり返つた時残るは只破壊された駐在所と神と尊ばれた警察官家族の死骸とであつた。

話の中に汽車の進行を忘れたところ既に途中の驛を通過して夜十二時平壤驛に到着した夜中にもかゝはらず平壤中學校教諭塚本卯平氏平壤高等普通學校猪飼誠吉若松小學校田中箴氏等の出迎を受けたるは感激に堪えず自動車で三根旅館に入り入浴就寝す。
平壤見物

平壤府は平安南道の西南部に位し東南大同江に臨み北方大聖山を負ひ頗る要害の地である目下人口は十一万二千九百余人（内地人二万三千三百余朝鮮人八万八千七百余支那人七百北米人百）なるも年々著るしく増加しつゝあり。

平壤は箕城、樂浪、西京、西都、鏞京、柳京等の別名を有し檀君以來の舊都（距今四千三百八十四年）であつて昔から西鮮の重鎮である。檀君に次て箕子一族を率ひ

て朝鮮に來り平壤を都とし爾來四十一世子孫相續きて此の地に君臨した。而して檀君時代を前朝鮮又は檀君朝鮮といひ箕子時代を後朝鮮若しくは箕子朝鮮と稱へる。箕子四十一世の孫箕準の時代に衛滿なる者出でて箕準に代り王位に即いたが幾何もなく漢の武帝の爲めに亡び漢は朝鮮に樂浪外三郡を置いた漢末に至り扶余族の勢威漸く盛なるに及んで國を立て、高勾麗と號し高勾麗の東川王の時初めて平壤に都を置いた爾後高勾麗は都を遷すこと前後八回に及んだが平壤に都したことが最も長かつたので世人俗に平壤を高勾麗の都といふ。

高勾麗王の平壤に據るや威風四隣を壓し余威遼東の野に及んだかくて國內を京畿、江原、黃海、全羅、慶尙、忠清、咸鏡、平安の八道に分ち鷄林八道の稱を生んだわけである。

高勾麗の治世は蓋し長壽王の時代を以て最も隆盛を極めたが唐の高宗の時唐は高勾麗を伐して都城平壤を攻略し大都護府をこの地に置いた、その後多少の興廢あり高

麗の大祖王都をこの地に建設し西京と號し成宗の時に至つて之を西都と改めた、高麗の末に妙清の亂あり其の後幾多の治亂興廢を経て李朝に至つた、太祖李氏(成桂)國を朝鮮と號し都を漢城(今の京城)に定め平壤に觀察府を置いた。而して曩に我政府は領事分館又は理事廳をこの地に設置し其の後日韓併合と共に平安南道其他諸官署を設置して今日に及んだ。

九月二十五日快晴午前九時縣人に案内されて電車に乗り牡丹臺下にて下車、平壤神社の左から錦繡山に登り先づ七星門にて憩ふ。

七星門

乙密臺から靜海門に至る舊城の外壁中、萬壽臺に接近した平壤六門の一つで現在の建物は其の規模、構造昔日の玄武門と較や似てゐる。玄武門は既に樓閣廢滅に歸したことがあるが七星門は尙依然樓閣を存して昔日を偲ばしめる、現在の建物は何時代の建築であるか文献の徵すべきものがない一説には大同門と同時代のものといひ又

近世の建築だともいふ、仔細に之を視察するとその構造の堅牢で古色を帯びた所到底近世の建築と認め難い。

樓門に登つて俯瞰すると近く普通江の水色は紺碧の如く平壤平野遠く濶けて眼界漠々とし西方には日清戦役の際有名な丘阜地『ヨツタルマルグ』の古戦場がある。

それより箕子陵に詣で乙密臺玄武門、浮碧樓、永明寺等を視察した。

箕子陵

七星門の北數町で兔山に達す、滿山老松鬱蒼として眞に幽雅の仙境である、丘上に登ると丹碧の殿堂燦然として老松の間に隱見する。これは殷の太宗箕子の廟である史傳によると箕子は紂の叔父で周の武王紂を亡して箕子を朝鮮に左遷す箕子其從者を率ゐて平壤に來都し民に教ふるに禮儀田蠶の道を以てし又八條の教を制す、爾來四十一世の子孫に至る迄相襲いでこの地に君臨したといふ、箕子に關しては諸説紛々今尙歸一する所がないが現今の陵墓は今を距ること八百餘年前高麗王肅宗十年箕

子の墳塋を求めて此處に祭祀したものだといふその後李朝成宗十二年に至り舊祠を増修し其の徳を追頌して碑を建て臣下李良をして文を撰ばしめた箕子の碑文即ちこれである日清戦役の際は夙に清軍の占據する所となり我元山支隊はこれと對峙し激烈なる戦鬪を交へて遂に陥落せしめ更に前面乙密臺上の敵兵と交戦數刻に亘つた爲今尙無數の彈痕を祠廟に存してゐる。

乙 密 臺

牡丹臺に對峙、錦繡山の一角に聳ゆる峰巒で昔は附近一帶に老松鬱蒼として繁茂して居たといふ臺上の建物を四虛亭と稱し六百余年を経た建築物で斷岸絶壁上に建てられ一大偉觀を呈す、文祿の役に敵兵戎衣を脱して松樹に懸け擬兵を示して我軍を脅威し又日清戦役に敵將馬玉昆之に據つて固守したため今尙亭の柱楹に無數の彈痕を存してゐる同役我元山朔寧の兩支隊はこの臺下に肉迫して遂にこれを占領した。四顧の眺望絶佳、眼下に大洞江、水源地、飛行隊等を見下し近郷全く眼中に入る。



寺明永は物建 望眺の台丹牡塚平

玄武門

牡丹臺と乙密臺との中間に於ける穹隆形の一小門で曾ては義州及元山街道より乙密臺及浮碧樓に入る通門であつた日清の役清軍牡丹臺上に砲列を布き其主力を此門に集中し防戦に努めた我朔寧支隊は西方坎北山より進撃して牡丹臺の城壘を奪取し玄武門に肉迫したが關門堅く鎖して侵入することが出来ない三村中尉決死の士十六名を掲げ牆壁を攀ちて樓門に登つたが乙密臺の敵兵劇しく瞰射し彈丸霰の如く落下し頗る危険に頻したこの時一等卒原田重吉なる者十六名

の中より奮然身を挺して壁内に下り門扉を排して小隊全部を城内に入らしめ遂に城壘を占領した爾來玄武門の名は牡丹臺と共に江湖に喧傳するに至つた日清戦役までは門上に一樓門があつたが其後廢滅し更に大正九年之が新築工事を施し今や往時の面影を存す。

永明寺

玄武門より山を下ると永明寺の前に出るこの寺は禪寺で高勾麗廣開王二年の創設で當時平安道各寺の大本山である昔時は道内の末寺を管理統轄し之に對して警察及司法權を有し山内に監禁所をも設けた現存する堂宇の外伽藍八箇所及び殿堂薨を列べ丹碧燦爛として居つたが日清の役兵燹に罹り此等の伽藍は悉く灰燼に歸し今や僅かに其の一部を殘留するに止るといふことではあるが立派である同役清兵侵入し僧侶を捕へ其の頭顱我内地人に酷似せるを見て直に斬殺せんとしたが僧侶等辛く難を避けて四散したために一時無住となり荒廢其極に達したが後内地僧侶の盡力によつて

修理を加へて現状を維持するに至つた。

浮碧樓

牡丹臺の下絶壁上に一浮樓があり浮碧樓といふ碧流は溶々として岩脚を洗ひ樓は宛然水上に浮ぶが如く秀麗な陵羅島は其の眼下に横はつて對岸遠く開け雲煙模糊の間に祥原、中和の諸巒を望み近くは江を隔て、船橋里の戦蹟に對す。樓は今を距ること一千年前永明寺南軒興上人の建立に係り我平壤に於ける屈指の古建築物である傳へ謂ふ八百年前高麗叡宗西巡の際蹕を此處に留め群臣を會して盛宴を張り扈從李顔に命じて浮碧樓と名づけたと。

更に得月樓、轉錦門等を見て朝鮮古有の建築物が如何にもよくこの土地につり合ふを味ひ平安道廳教育課にて準備せられた川船に乗つて碧水滿々たる大同江を下る。時恰も満潮に近く、入り來る潮のため船足遅くビール、サイダー、肴等縣人の用意せる御馳走を受けつゝ船内甚だ景氣づき愉快極りなし。牡丹臺は大同江に面し絶壁で攻

むるに堅く頗る要害なりしを此處にて始めて知つた。

赤壁に似た清流壁や姓名を掘りつけた絶壁の絶景にひたりつゝ江を下れば岸は鮮人の入浴場にして且洗濯場で白服を着せる朝鮮婦人の殆んど隙なきまで川岸にて洗濯する音（鮮人の洗濯は薬品を入れて一度煮川岸の石上で棍棒様のものでたゞき後川水に洗ふを例とする）誠に賑やかで砧の音とはこれをいふのではないかとも想像された。然し聞くところによると朝鮮は白衣を着するため汚れ易く婦人は洗濯に忙しく一生洗濯に終るとは氣の毒である。

江を下ること暫くして石岸上に一樓閣を望むこれが練光亭であつて曾て文緑の役小西行長明使沈惟敬等と和を講せし所であると、近くに巍然として空中に屹立した三層の大樓閣があるこれこそ有名な大同門である建築の精巧結構の雄大なこと實に建築學上の一大參考であるばかりでなく半島の歴史を研究する好資料である一名東門と稱し昔日京城に通ずる唯一の要門であつた。

大同橋上税關の所で上陸旅館に歸り少憩此間隨意に市中視察の上平壤出發の準備を整へいよ／＼午後三時十三分發朝鮮の都京城に向ふ。一同疲勞愈々加はつて殆んど皆車中に眠る。

×

×

×

平壤の項を終るにあたつてこゝに附記したいことがあるそれは戦役と平壤との關係である。

平壤は既に記したるが如く東南大同江に臨み北方大聖山を負ひ頗る要害の地であつて兵學上の所謂戰略上必勝の地である、従つて平壤を奪取せらるゝと否とは實に兩軍利害の岐るゝ所となる。

宜なる哉文緑の役碧血大同江上に漂ひ、日清の役礮聲大聖山を震動せしめ更に日露の役七星門外彼我の斥候初めて砲火を交へたることや。

文緑、日清、日露の戦記は世上之を説きて詳なるが故にこゝにその紹介を省くも如何

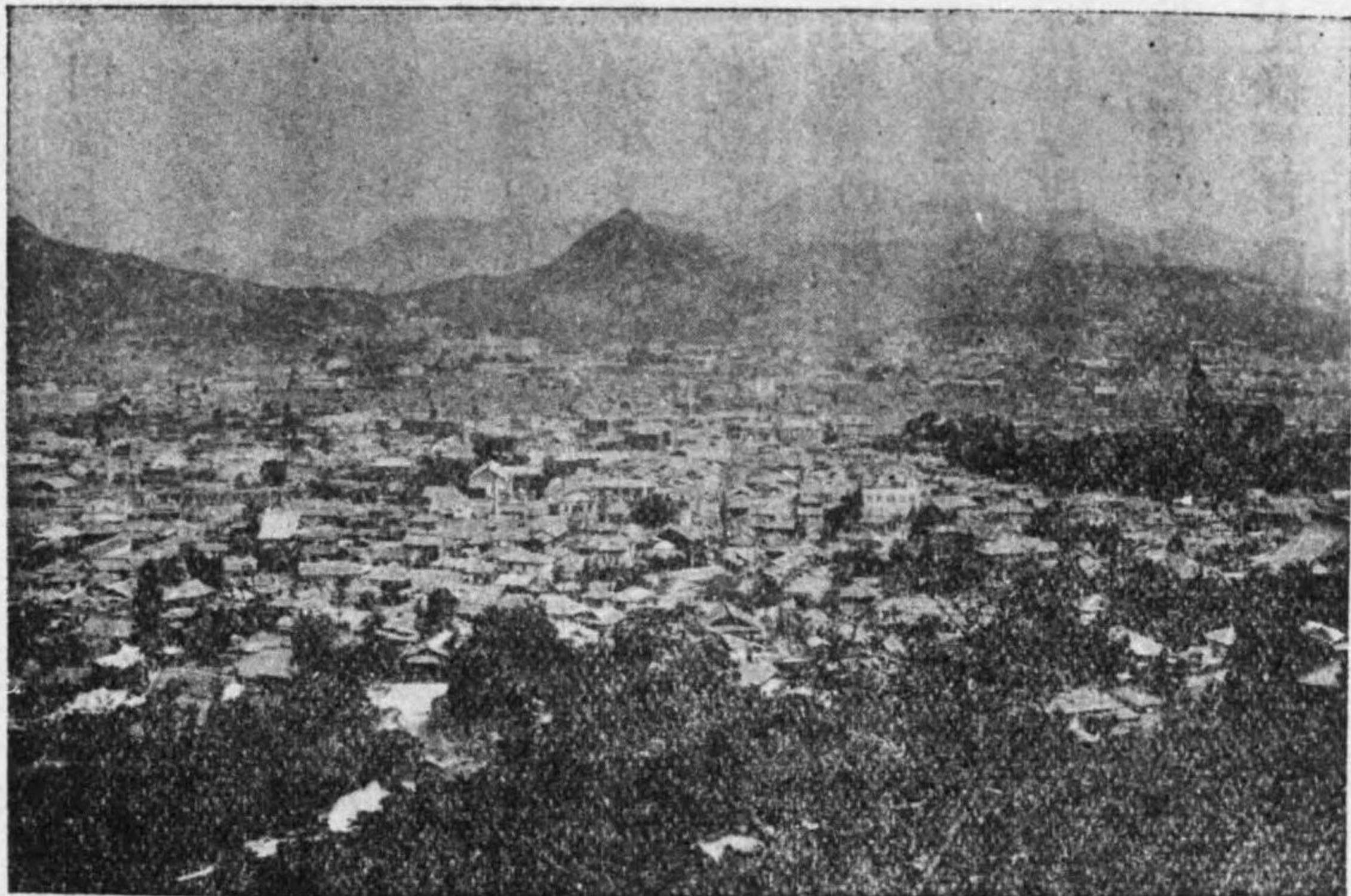
に平壤が重要地たりしかを知ることが出来る。

一九、京城

南大門、朝鮮神宮、京城一班、冒慶苑、學校、總督府
衣食住一般、妓生

李朝五百年の古き歴史を有する朝鮮の都
京城に着いたのは實に九月二十五日の午後
九時三十分であつた。

一同重いトランクを擔ひつゝ、京城驛プラツ
トホームに下車すると工學博士三山喜三郎
氏（千葉市小學校長三山春次氏の令兄）外



（りよ宮神鮮朝） 觀大街市城京

多數縣人の出迎を受け直ちに自動車にて南大門に近い御成旅館に入り明日視察すべき
豫定を作り一同就寢九月二十六日快晴三山氏片岡氏に案内せられて愈京城の視察をな
す。先づ南大門より朝鮮神宮に參拜。

南大門

本名を崇禮門といひ京城四大門中最大なもので京城の玄關口ともいふべきである。
李朝時代にはこの門の兩袖から高さ二丈位の城壁が通つて南は南山北は仁王山北岳
山の山頂に達し京城を取り圍み一大城廓をなしてゐたものであるが今日では概ね取
り壊されて所々に其殘壁を見るだけに止まる。この門は大祖大王七年二月（五一八
年前）に落成したのであるが第四世世宗王三十年（四六七年前）に改築したといふ
説もある當時の建物の主なるものは文祿の役に暴民の爲めに焼かれたがこの門は之
を免れたので古建築物の貴重なるものとして鄭重に保存されてゐるのである誠に壯
大な建築物であることに先づ驚く。

南大門の右袖を廻ると仰き見る山頂（南山）に向つて思ひがけない十間巾の大道路が走つてゐる。これが朝鮮神宮の表參道であるこの道を爪先上りに暫く行くと見上げきれぬ程の大石段に差しかゝる。石段の數三百八十五で東洋一の石段と稱せられる。一の鳥居二の鳥居を経て朝鮮神宮に參拜する。

朝鮮神宮

朝鮮の總守護神で南山の中腹に位置する大正九年五月起工五年六ヶ月の歲月と二百萬圓の經費を要して竣工したものである大正十四年十月十五日御神靈鎮座の儀を行はせられ毎年十月十七日を以て例祭日と定められたのである御祭神は天照大神 明治天皇の二柱の大神で社格は官幣大社である社殿の構造は最も清楚を極め神明造の形式により附屬建物は校倉造又は書院造の形式を依用したものである。

神宮境内からは京城の市中全体が見下されるこの神境に憩ひ京城の一斑を概観するこゝが出来た。

京城一斑

京城は四方に山嶽圍繞し北方には北漢山の支脈たる三角形の北岳（白岳山）屹立し西方には仁王山蟠踞し東方には駱駝山連り南には緑深き木覓山（南山）が連つてゐる而して南西の一隅僅かに開通して漢江其の南東を流れ山河襟帶自然の城廓を爲してゐる城内の排水に當れる水脈には東流する清溪川があつて幾多の細流が之に溉いでゐる。

寒暑の差は相當に烈しいそうであるが雨雪が少いため奥羽地方の雪が多くて勞働に困難な所よりは凡て動作には便であるとのこと。

又冬季に於ける寒氣は季節風の盛衰に伴ふて消長し一寒一暖各數日に亘つて相交錯し概ね緩和の日が多く嚴寒の日が少い俚俗に之を三寒四温といつてゐる。

市街の面積は東西一里三十餘町南北三里餘面積は二・三五方里で舊城廓の四方に東西南北の四大門を設け更に其の中間に四小門があつたが現存するものは東大門南大



京城南大門通

門光熙門東小門北門等で其他は道路改修のため其原形を存してゐない市の北方には舊邸宅が多く南方には内地人の居住する所が多い。

大正十四年十月一日の國勢調査によると内鮮人合計三十三萬四十五人で内朝鮮人二十四萬五千三百四十九人内地人八萬四千六百九十六人この他支那人五千八百七十五人並にその他の外國人四百三十四人で總數三十三萬六千三百五十四人を算してゐるが年々人口増加の一方で將來有望な都市たることはいふまでもない。

京城は往昔漢の帶方郡に屬したが百濟の建國に及んで北漢州の治下に入つた百濟が南遷後高句麗の南平壤となり新羅統一後新州と稱し後復北漢州に改めた高麗末には漢陽府と稱し又離宮を置いて南京と稱した事もあつた此の間實に一千四百餘年を閱する。李朝開國の始に當つて僧無學の説を聽き此處に李朝の基を開かうとして宮闕を今の景福宮に營んだ太祖三年十月開城から遷都して漁城府と改め判府事を置いた爾來五百餘年間の朝鮮の首都である。第八世叡宗王判府事を判尹と爲し大皇帝（李太王）三十二年（明治二十八年）更に府尹に改めた當時の漢城府は今の高陽郡中の崇仁面外四面を包含する地域を管轄した。明治四十三年併合に際し漢城府を京城府と改稱し府尹を置いた大正三年府制の施行によつて前記五面の大部は郡部に編入せられた其れまでは鮮人側の行政は府内を署坊又は部洞等に區劃し鮮人これが長となり府尹の指揮を受けて府行政を補助した内地人側の行政は明治三十九年發布の居留民團法による京城居留民團に於て取扱はれた京城に内地人の渡來するに至つたのは

明治十三年日本公使館設置以來のことと十七年頃から漸次戸口を加へ民團法施行までは日本人會を組織し民長を置きて自治的行政を行つた尙當時城外龍山方面に居留した内地人は龍山居留民團を設立して相應の發達を遂げたが後京城居留民團に併合した大正三年府制の施行に依つて前記の如く同一地域内に對立した二箇の機關即ち署坊部洞長及居留民團を廢して京城府尹の下に統一した次で同九年府制の改正により民選の協議會を置いて府の諮問機關として今日に至つたのである。

京城の一斑を知つた後自動車に分乘して昌慶苑に向つた。

昌慶苑

昌慶宮のあるところで李王家の庭園である。先づ正門わきで入場券を買つて苑内に入る正門が弘化門第二の内門が明政門其奥が明政殿で唐時代の宮殿建築を模したものである。これ等の建築と南大門と昌德宮の正門である敦化門の五つが京城に於ける最古の建築物で五百年前の姿を其儘残してゐる右が植物園左が動物園眞向ふが博

物館である動物園には内地に棲息せぬ山猫、ヌクテ、高麗雉、虎、豹、獐等朝鮮産の珍しい動物が中々多い河馬の多いのにも驚いた。

植物園の温室は規模内容共東洋一と稱せられる南洋植物が繁茂してゐるバナ、の實がさがつてゐる。尙各種の珍しい草花がたくさんある。

博物館には新羅朝以下歴代の土器寶物美術工藝品を陳列してある珍しい水時計、日時計が館前にある。

植物園のつゞきに山紫水明の祕苑がある李王職に手續を濟ませて特に入れて頂いた午前十一時と午後二時の二回より外は入場を許さない秘園の全景は北岳山や仁王山を取り込んであるので頗る幽邃で且雄大である。緑樹老松の間に種々の朝鮮古風の建物を見ては往時の盛觀を偲び迂餘曲折の閑雅の境を辿ること暫くにしてやがて苔滑かなる巨巖の間より清泉迸出潺々直下八尺藥水と稱す側方の巖に刻するに直下三百尺響百雷の如しと誇張の甚だしきに驚く。

昌德宮のあるところで李王殿下は初め徳壽宮におはしたが明治四十二年七月この宮に御移轉遊ばされた動物園と植物園と博物館は木曜日を除くの外一般に公開されてゐるので市中の女子供で四時賑はされてゐる殊に植込みの櫻樹も次第に繁茂して來てゐるので春の花時など如何に美しいであらう。

京城の地を蹈む者は是非一度見なければならぬ所である。

昌慶苑及秘苑の見學を終り直ちに鐘路公立小學校に至り京畿道教育會の招待を受けた本校は明治四十四年の創立で校舎は工費五万三千二百圓を要し児童數七六七學級數一五職員數二〇俸給平均額一〇三圓六二錢で特別教室四あり内容設備の完備せるは内地の比にあらず児童の幸福なるを感じた滿州朝鮮に於ける内地人の児童は一等國民として自尊心高く進取の氣象に富み活動旺盛であることは愉快でならなかつた。

次に朝鮮人の児童教育をなしつつ、ある壽松公立普通學校を參觀した本校は大正十一年巨額の經費を投じて建築した頗る立派な二階建て建築總經費二三三、三〇三圓を要し

た児童數は一、三三二人で尋一は七歳から十歳まで尋二は八歳から十二歳尋三は九歳から十三歳といふ様な状態で尋六には實に十二歳から二十歳までのものが就學してゐる従つて尋常科にて既婚者が相當ある早婚であることは支那と大差がない。最近では向學心高まり就學者頗る増加しつつあり。學級數は十八職員數一九内朝鮮人一二内地人七。

本校の教育方針は内地の小學校と異なる所なく一視同仁の御聖旨と朝鮮統治の方針とに則り新に發布せられた朝鮮教育令の精神に基き教育に關する御聖旨を奉體し忠良なる國民の養成に努む。教科及編制其他は小學校と大差がない只教科目として朝鮮語が加つてゐる。

校訓は『我等は日本國民なり』至誠、勤勉力行で前にも記した如く朝鮮人は支那人の勤勉なると反對に悠長で遊惰であるこれは國情から起つたものではあるが兎に角、もつと勤勉力行に導かねばならぬことに就ては甚同感である。各教室にて學習の状況を

見たが中々兒童は元氣である内地と大差がない盛に手を舉げて活動してゐる只推理力思考力に於ては實際劣等である朝鮮人の教師は中々教授振の景氣がいい流暢な朝鮮語で中々メートルが上つてゐた只朝鮮語を解せない小生等には何のことだか見當がつかない。

校長横山彌三氏は二十三年間も朝鮮に在職した人で山口縣人、京城に於ては教育者の長老である。校長の談によるとどうも役人や視察員等は一寸見て恰も實情を知つたが如く考へるので困る長い間の研究でなくては役に立たぬと、それは確かに眞理であらう然し小生はそうは思はぬ一寸見ただけで實情を洞察することを得るとすれば更によいではないか誤つてはならぬが、かくの如き炯眼の士を要すること切である何も長くかゝらなければわからぬ様なそんな呑氣なことを云はなくともよいではないかといひたくなつた。

終りに朝鮮人の同化しない點を例を上げて説明されたおそらく朝鮮人の全國民は日本に好意を持つまいと、これには少なからず驚愕した。

次に朝鮮總督府を訪ねた。

朝鮮總督府

全朝鮮を統治する最高官廳で内部は中々複雑な組織になつてゐる。工費六百三十四萬餘圓大正五年六月起工大正十五年に完成したもので復興式五階建花崗石張鐵筋コンクリート造各階總建坪九千六百餘坪中央塔の高さ百八十尺實に東洋一の建築物で壯麗なることに驚嘆した。内部大ホールの壁畫は和田三造畫伯の作で内鮮融和の表徴たる神話を題材としたもので立派である磨き出されて鏡の如き各種の大理石にて床も壁も出來て居て壯嚴の感に打たれる只宮殿景福宮の正面前に殆んど宮殿のかくゝ程のこの大建築を敢てなしたことは如何に我威光を示すとはいひ少しく考慮を要するにあらずやを考へせしめられた。

總督府玄關前で一行の記念撮影をなしそれより隨意に市中の視察をなすことにした

小生等數名は三山氏に案内され景福宮並に美術品陳列場を見た。
景福宮

勤政殿の壯麗なことは筆紙に盡し難いこの建築をするために朝鮮全土の金を費ひ果したとも云はれる尤も賄賂のため一本の柱を作るためには四本分かつたこと
でこれがため苛斂誅求至らざるなくために朝鮮民をして怠惰ならしめたと云はれて
ゐる程である。

これがため王室は國民の信用を全く失つたともいふ。

現在残つてゐるものは勤政殿思政殿慶會樓等宮殿の一部の建物である勤政殿は即ち
正殿で其前庭は諸儀式を行ふやうに出來てゐて正一品から從九品までの文武百官が
居竝ぶ石標が立てある思政殿は朝夕政を見られるところである慶會樓は君臣の宴會
場で十五尺の大石柱四十八本を以て支へられた樓臺で階上階下各三千人を入るゝに
足りるこれ等の宮殿は周圍約三十町の一大城壁に取り圍まれて敷地總面積十三萬坪

に達する其正門が光化門東側が建春門西が迎秋門裏が神武門と名づけてゐる其他門
は澤山ある一体朝鮮には門が多い一寸した家でも三つや四つの門はあつて婦人は七
つの門の内に居ると云つたやうな次第であるからかうした大宮殿に夥しく門のある
のは怪むに足らぬのである。

美術品製作所

李王職の經營として朝鮮特有の美術的調度品を製作したのであるが其後經營を民間
に移して今日では株式會社になつてゐる別に大仕掛のものではないが朝鮮人が如何
なる方面に嗜好を持つてゐるかを知らるには都合がよい。食器髪飾具婚禮用具其他日
用品を一見すれば朝鮮風習の一斑も分るといふものである此處で土産物を求むるが
よい商品が相當に陳列してあつて即買をする。

× × ×

こゝに朝鮮民の衣食住に就て少しく述べて見たい。

住

家屋は在來木造平屋建のみで二階建はない土と石とを混ぜて壁を作り内部は土の上に白紙を張る屋根は藁葺を普通とするが瓦葺もある如何なる家でも温突があるこれは平たい石を床としその上に土を塗り更に油紙を張り床の下には數條の火坑を築く焚口に少量の燃料を投ずれば室内が終日ばかりとした温度を保ち寒國向としては實によく出來てゐる。

家屋の構造は内外の兩舎に區別してある外舎は男子の部屋で來客用にも使ふ入口の門の傍には婢僕の居室がある内房は更に中門の内にあつて婦人の居室であるこれには厨房、庫間(物置)がある之は古來男女別ありの習慣から來るので總て女は男子の客に接せぬのみならず家族でも男女は同室には居らぬ以前は上流の女子の外出は極めて稀で殆んど奥室に蟄居したので妻の事を内地で奥様北の方など云ふが如く室内内などと呼ぶ言葉さへ出來てゐる近來隣地に二階建をたて室内を見下したとて種々の問題を起すといふ。又内外舎共に板の間が一室あつて慶弔の儀式は此所で舉

食

げることになつてゐる。内地人の位牌堂に相當する祠堂は別棟か又は別室にしてある祖先四代前までの神位(位牌)を奉置して五代以前は墓地に埋めるのである。

食物は米を主とするが地方では麥、小豆飯、粟等を用ゐる副食物中最も重要なものは漬物である白菜又は大根に唐辛、蒜、芹、生薑や蠣蛸、石首魚イシノエ又は梨、栗、青角チヨンガク(海草)等を混ぜ糞に漬け土中に埋めて貯へる之は如何なる家庭にも必ず用ゐる家庭の中庭にはこの甕が奇麗に立ならべられて大事にされてゐる秋季行事中の主なるものはこの漬物でこのため借金まですることは決して珍しくない中以下の人で秋冬の二期漬物ばかりで済ますものもある材料が豊富であるから味も中々よいこの外鳥獸魚肉野菜等を用ひる調理には醬油味噌を使ひ汁物煮付油揚等も作るが刺身や壽司や酢のものは一切好まぬ朝鮮の特色としてすべての副食物には唐辛蒜等の刺激物を澤山加へる煙草の嗜好は老若男女に普及したもので接客の際も煙草に火をつけて出すが

お茶は一切用ひぬ。

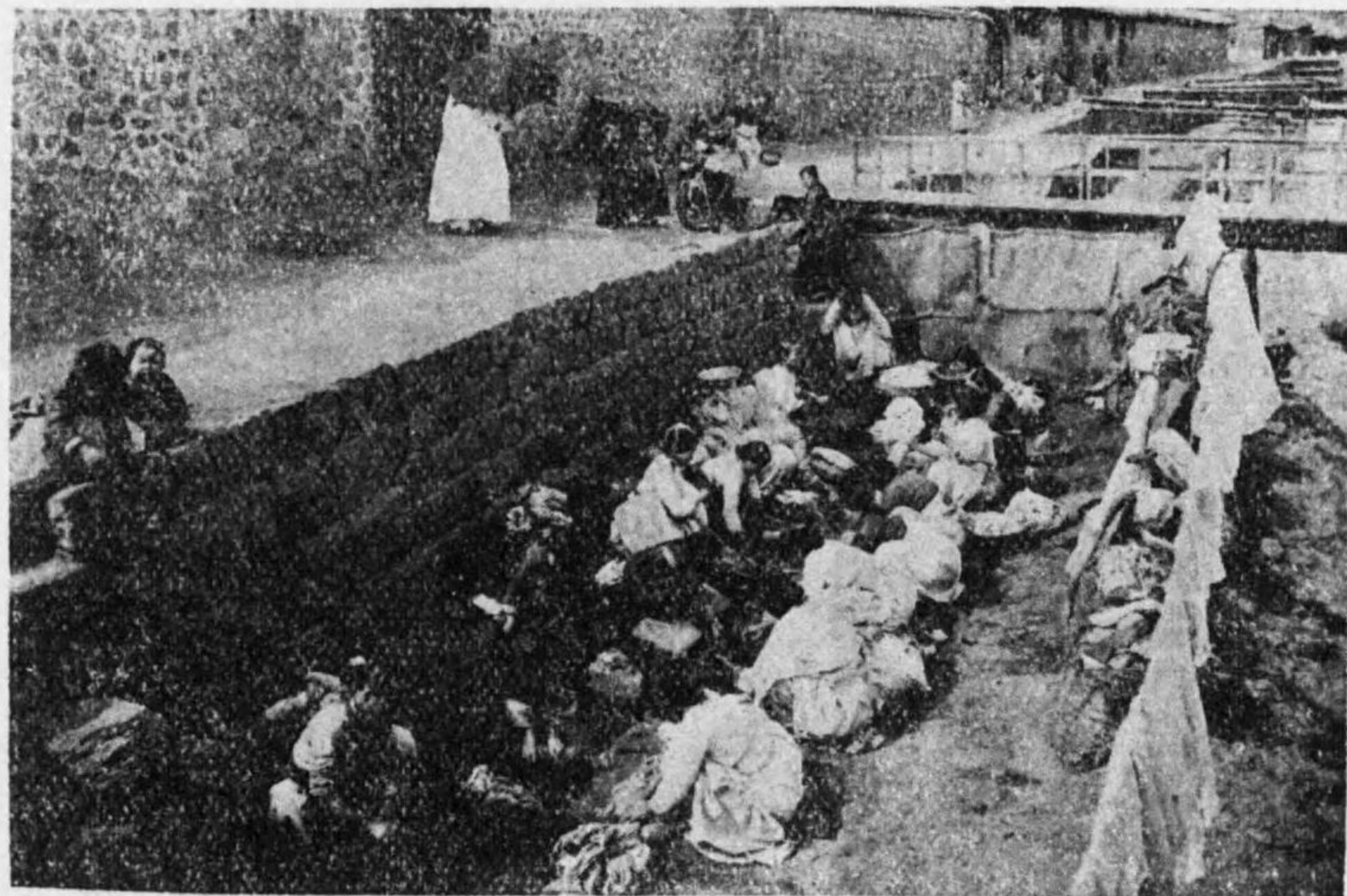
食器は眞鍮製か厚手の焼物を用ひ高脚付の膳で飯は匙及眞鍮製の箸を交せ用ひる飯は一つの大飯碗に山盛にするこの飯を主人先づ食ひ其の餘りは順々に下男下女が頂戴する三條中納言が飯を三杯食べ大飯食ひとて驚かれた事が宇治拾遺物語に書いてあるが其頃の飯碗も矢張朝鮮現時のものとは同大であつたらしい又毎回温い飯を焚き絶対に冷飯を食はない殊に在來の石混り米を用ひるものは其都度小石を抜き取りて炊くので婦人は炊事と洗濯とで暇はない内地や西洋と異り朝飯を重んじ夕飯を軽くして比較的早く就寢する。

衣

内地の上古や西洋と同じく上下の二部から成つてゐる上衣は筒袖で男子のは胸まで長さがあるが女子のは乳房が出る位短く乳兒に向つて直に乳を興へるに便利である然し近年都會地の婦人は之を改めて男子同様の長さとしてゐる右胸のあたりで襟を

合せ廣い紐で結び餘りを長く垂してゐる下衣は乗馬用のツボンの如く極めて寛かなもので屋内に踞座するに便利に出來てゐる上端は紐で胸に括りつけてあるから何時でも下がるので始終かきあげねばならぬ裾は足頸のところでしたつかと紐で括る周衣は上に着るもので筒袖で長さは脛まで達し下方に至るに従つて擴がり格好よく出來てゐる一寸オーバーコートに似てゐるが禮儀を重んずる習慣上外出及屋内で客に接する時必ず着用する。

地質は木綿麻絹等で白色を主とするが男子は上衣周衣に鼠茶水色等を用ひ冬季は毛織物を着するものも出來た一般に白青等の單純な色を好み複雑な色彩を用ひない故に汚れ易く不經濟で婦人は衣服の洗濯と炊事に忙殺されるのでやゝ色物を用ひるものは多くなつたが縞物は一向流行せぬ山や野原の僅かの水溜りに多くの婦人が集合し棍棒で敲きながら衣服を洗濯し後之を緑の草に乾かす『白妙の衣ほすてふ天の香具山』の狀況は現在の朝鮮に於て見られる。



朝鮮婦人の洗濯

社會に活動する男子や子供は洋服を着用する様になつたものが相當あるが和服を用ひる者は殆んどない。

冠婚葬祭の四禮を嚴守するので冠禮を行つた男子は髪を結び竹の薄皮馬毛麻絲などで作つたカツ又はカムツといふ冠を戴く長煙管を啣へながら悠々と散歩する人々を見ると内地中世の大宮人を忍ばせる。

履物はシンといふ靴を用ゐる革麻又は藁で作つたもので女子用の革靴には縁に紅緑の彩どりが施してある。

○内鮮俚言の比較 (面白い對象である)

内地

◎兩手に花

◎酒なくて何のおのれが櫻哉

◎石橋を叩いて渡る

◎寶の山に入つて手を空しうして歸る

◎慾は曲者

朝鮮

兩手に餅

天下無雙の金剛山も飯を食はなきや何の味

たとひ一里の道行くとても忘れまいぞや握り飯

漢口の水がお粥であつたさて椀を持たなきや何とする

お供への餅に心をうばはれてお祈りするのうはの空

九月二十六日夜は午後六時から縣人の歓迎宴が花月樓に開かれ招かれて一行電車にて到れば實に堂々料理店でエレベーターにて昇ること暫くにして會場に入り末記の如き多數の縣人に迎へられ盛大なる宴を張られたるは感謝の至りであつた席定るや縣人會長小林千壽氏熱誠溢るゝ歓迎の辭ありこれに對し一行を代表して渡邊團長は先づ感謝の誠意を披歴し更に視察せる感想を述べて縣人の發展を祈りこの視察を終りたる上は少國民に海外發展の意氣を鼓吹し有爲の青年を送り諸君の驥尾に附して我國人口

問題食糧問題の解決を遂ぐるに努力せんことを誓ひ宴に移るや或は朝鮮事情の紹介をする者あり或は詩を吟ずるあり國境節を歌ふあり或は朝鮮の歌果ては大漁踊等盡くるところを知らざりしも互に名残を惜しみつゝ健康を祝福しあひて宴を終りそれより京城一流の朝鮮料理店食道園に至ればこゝは純朝鮮式で各室悉く温床式油紙を敷きつめた廣間上座に大人席があつて内地とは赴を異にし多數の朝鮮料理が運ばれたやがて鮮地一流の粹豊艶な容姿端麗な裝束の妓生多數入り來つて酒間を斡旋し始めてその音楽を聞く何となく哀調を帯びて些の生氣なきは國情を物語るものか興國雄圖の氣魂鬱勃たる大和民族に對して朝鮮音楽は決して愉快ではない支那音楽の念佛式と選ぶところがない然し妓生は内地の俗謠も出來る一行は妓生の巧妙な大鼓にあはせて盛に國境節鴨綠江節を合唱して旅情を慰めた妓生は又趣味豊富で文學技藝に長じ扇面を展ぶれば書畫たちどころになり希望するものを頗る立派に畫く一行は酒肴を忘れて名妓の筆致に恍惚たるものがあつた聞くとところによると平壤の妓生學校に入るには高等女學校を

終つてからだとのこと又彼等のもと官妓として主として高位高官者の接待に任じたも



妓生の舞

ので庶民の容易に私すべきものでなかつたこと従つて之に應ずる修養を積み内地の藝者の多くよりはずつと高尚で上品であることを知つた。

政治經濟の中心點であ

る京城については記録すべきことがたくさんあるが割愛して仁川に移ることゝした。

二〇、仁川

西公園 開門式船渠 月尾島

一五八

九月二十七日午前八時半の汽車で仁川の視察に向つた僅かに一時間で上仁川驛に下車すると縣人の出迎を受けて愈々歴史上由緒の多い趣味の仁川を踏んだ。

先づ仁川公立高等女學校長山野上長治郎氏に案内せられて同校に趣き校庭に設けられた休憩所にて仁川に關する説明を聴取した。

仁川はもと濟物浦と稱へ葭葦茫茫荒涼の一漁村に過ぎなかつたが明治十六年一月開港以來逐次に發達し半島の中腹大京城の玄關口として現在人口五萬三千七百内地人一萬一千六百餘人を數へ居るも鐵道開通以來は釜山が寧ろ京城の玄關口となつた爲漸次衰微せんとする傾向なきにあらず然れども仁川は風景絶佳の地で蜿蜒とした灣入はその間に散在する嶋嶼と共に海を飾り蒼蒼とした樹木は突兀の山を彩つてゐる加ふるに此

の地は日露戰役の序幕戰のあつたところで爪生司令長官の率ゐた艦隊によつて露艦ワリヤーク、コレーツの撃沈されたのは實にこの沖である尙仁川は商工の地である外國貿易特に支那貿易に於ては鮮土第一である又米豆等の取引に於ても本邦屈指の地である内外移輸出貿易額一億三千餘萬圓を算しつゝあつて又捨て難いところである。

大要の説明を聴取した一行は西公園に登つて一望にして海上遠近の島山並に市街の大半を眺め得た、なるほど風景誠に絶佳である園内には樹木鬱蒼として花卉常に絶えない元は各國居留地會の經營であつたが大正三年各國居留地撤廢と共に府の經營に移つた極めて風致ある遊園地で頂上には清光閣がある市内の大觀を終つて山を下り二重式開門船渠を視察した。

開門式船渠の概略

仁川港は元來港内廣く水深く冬季結氷せず天然の良港であるが潮位干満の差は東洋無比であつて實に三十三尺に至るため大船は陸岸に近づくことを得ず遠く三海里の

一五九

沖で荷役せねばならぬ不便があつた依つて明治四十四年將來の出入貨物六十萬噸を目標として起工し總工費五百六十六萬餘圓を投じ大正七年十月に至つて開門式船渠の完成を告げた。

開門には二重門扉を設備して潮位の干満に不拘船渠は常に二十七尺五寸以上の水位を保たしめ四六時中間斷なく荷役が出来且船舶の出入に際し船渠内貯水の流出することのない装置である。

開門 全長五百四十四尺 開渠長四百二十六尺五寸

幅員 六十尺 側壁高 四十八尺

門扉 開門扉は二箇所で鐵製雙扉とし内部開門扉一葉の重量一〇七英噸外部開門扉一葉の重量は一三〇英噸

で其構造及開閉装置は米國のパナマ運河のそれと同一である。

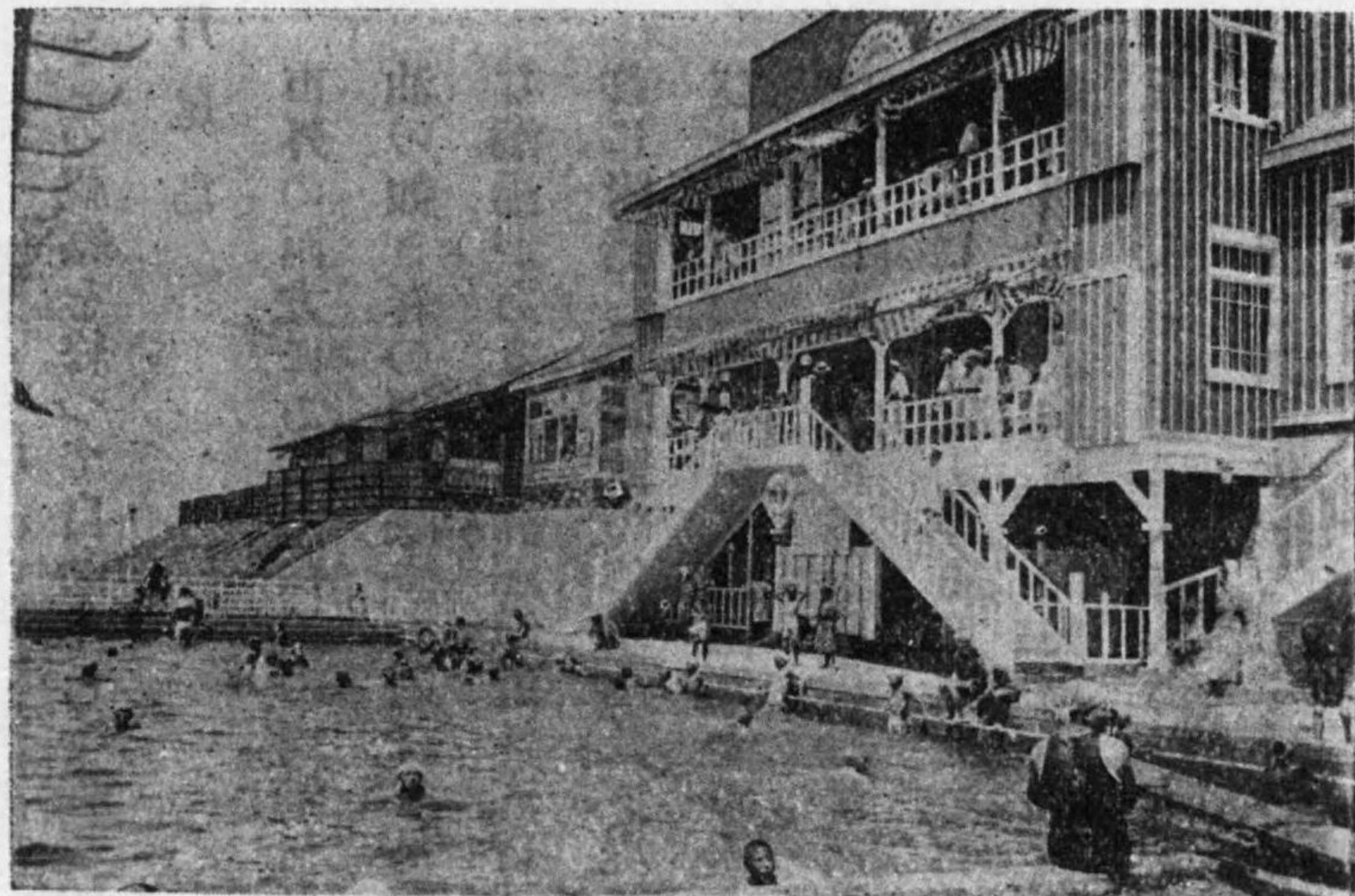
船渠 長さ 二百五十間 幅 百二十間

水面積 三萬坪 水深 最低二十七尺五寸
最高三十五尺

この視察を終つて自動車にて理想的遊園の設備を完成した月尾島に向つた。

月尾島

市外の西方にあつて仁川の内港を形造つてゐる周圍三十餘町爛熳と咲き誇る櫻子が油の如き春の潮に映する頃は全島行樂の客に埋れるといふことであるこの島に有名な潮湯がある、南滿洲鐵道株式會社は豫て月尾島西端に潮湯浴場の計劃をなし猶これに附隨して特設の停車場及突堤工事の改修等を行ひ大正十二年七月より開業の運びとなつた豫てから京仁人士の欲求して居つた爲浴客は連日滿員の盛況であつた翌十三年に至り月尾島遊園會社は同社の事業經營全部を譲受し更に諸般の設備を整へ櫻花正に綻びんとする四月より再び開業した男女別潮湯二箇所水泳場九十餘坪家族的貸間九室家族風呂餘興場等があり潮湯は圓形にして中央に潮湯の噴出塔があつて五六十人が一度に入浴し得る壯麗な設備で快く入浴後階上にて景色よき灣内を眺むるの快感は到底體驗なくてはわからぬ程である。



月尾島潮湯外プルー

仁川の視察を終へて仁川驛に至りあかね眺めを後にして再び京城に向つたのは午後一時であつた多數の縣人に見送られ特に小林氏の御令聞まで來られしは一行深くその行爲を感謝した、午後二時過ぎ京城驛（南大門驛）に下車しそれより直ちに電車にて水洞普通學校に至り首席訓導李重氏の案内にて朝鮮上流の家庭の視察をなした内容は京城の記事中衣食住の欄に記入してあるの
でこゝには省略する。

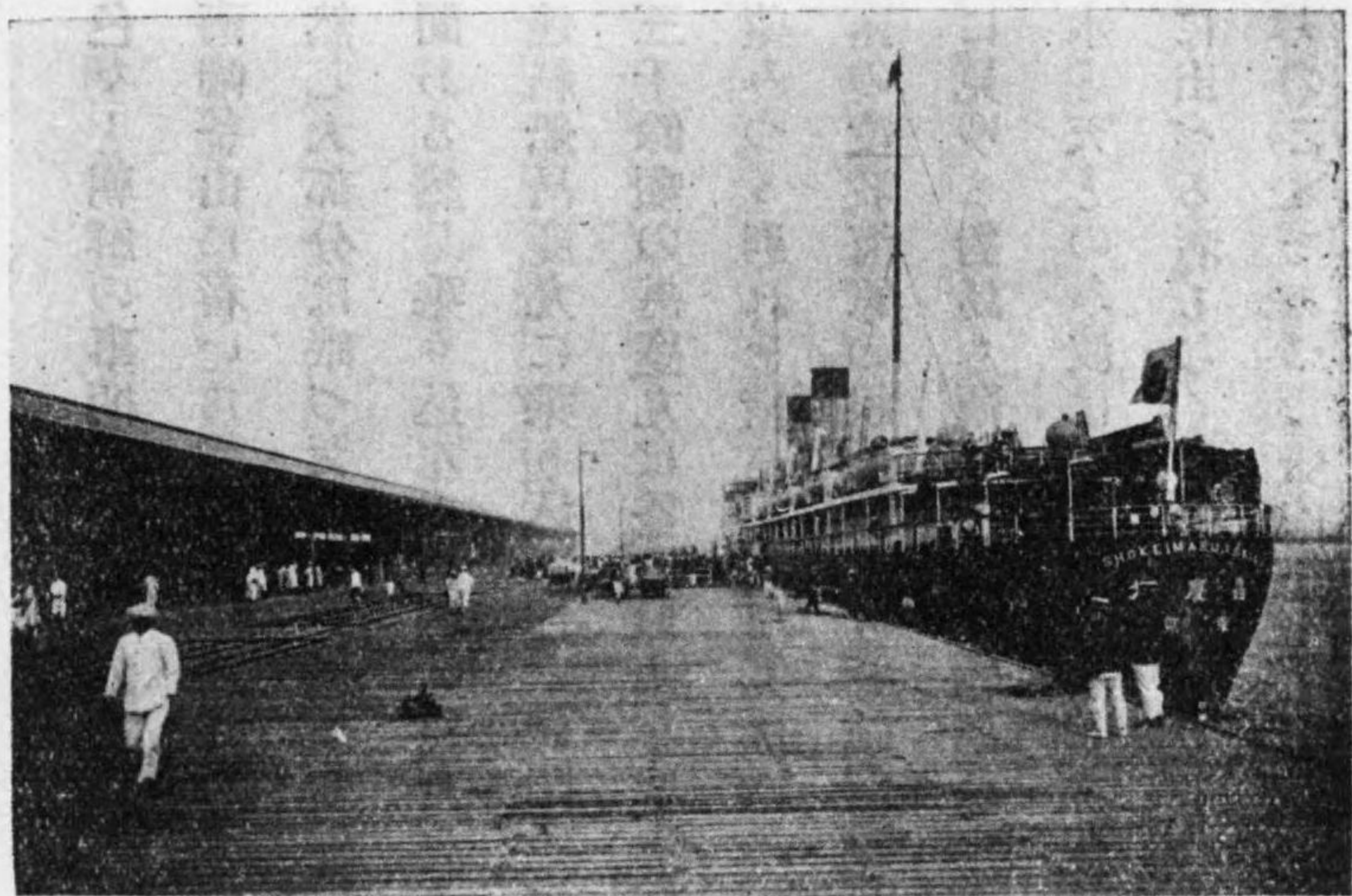
二二、京城より下關へ

朝鮮の産業 連絡船 内地の線

我等一行は愈々今回視察の大部分を終りトランクの整理をなして李朝五百年の都、今は總督府所在地にして政治經濟の中心たる京城と別るゝに至つたのは九月二十七日夜九時五十五分であつた。多數の縣人に見送られ萬歳の聲を後にして一行は寢臺車中の人となつて連日の旅に疲労した爲めか話をする者もない、皆もう乗ればすぐ寝る、買入れた露西亞毛布の中に温き夢を乗せた列車は釜山に進行を續けて、明くれば九月二十八日快晴の朝眼醒むれば汽車は既に洛東江の沿岸を走つてゐる廣々とした水田を眺むるも心地がよい、段々と内地の氣分がする、内地に近づいたからであらう、只なるほど木は少い温床に焚いてしまつたとのこと内地に比して淋しい様ではあるが然し併合後植林を奨励した結果今のところまだ小さいが將來は風致を添へる事であらう然し

朝鮮には石が多い、多くは石山で大理石の出る山も少くない總督府の大理石は皆朝鮮産である、この見地からは朝鮮の山も亦貴重である然しこれは北鮮地方であつて目下のところ運搬誠に不便であると、尙朝鮮には不老不死の靈薬が多いその一つは人參であるこれには紅參と白參とがあつて紅參は總督府の專賣に屬し支那へ輸出する、白參は從來耕作者に於て自由販賣をなし鮮内に消費せられたが近時は内地にも移出するに至つた栽培には六年以上もかゝり冬期には藁の屋根を造つて時々水を掛ける等相當に苦心がいる高價なもの無理はないと思つた。その二は松の實である朝鮮松の實で内地の松の實とは比較にならぬ程大きいこの實を生で食べる、もちろん穀はとるが食すると身体温まり勢力旺盛となることである一行は一袋宛頂戴して大事に持つて歸つた、尙朝鮮婦人は物を運ぶに皆頭の上である丁度伊豆七島の婦人の如くで水も頭上に戴せて運ぶ更に子供の背負ひ方が面白い腰の所に背負ひ洗濯して腰を曲げて子供は眞直になつてゐる腰の力が餘程強いと見える。

色々朝鮮の事柄を考へてゐるうちに列車は少しも速力を弱めず、いよゝ朝鮮の最南端釜山に着いた、時は午前九時三十分である京城を出發して既に十一時間半である然し大部分は眠つたまゝであつたので大して疲勞を感じない連絡船の出帆までは一時間ある然し乗り込んで税關の検査があるので見物する暇がない繪葉書を買つたのみで連絡船昌慶丸に乗り込んだ、税關の検査は安東に比べると寛大である午前十時三十分三千餘噸の昌慶丸は釜山埠頭をゆるやかに離れた一行は甲板に立出で、朝鮮の天地を望みつゝ、別れを惜んだ昌慶丸は滑るが如くこの良港釜山の港外に進んだ西方遙かに日露の役我海軍の根據地たりし鎮海灣を眺めその昔を追想しつゝ朝鮮海峽に入れば遙かに見ゆる對島も薄く種々の物思ひに耽る内、名だたる玄海灘に進めば海又海天地全く水と天とのみ波はその勢を増して益々荒く遂に大船も自然の力には及ばず乗客は甲板に出づる者もなく皆船室に籠るのみ船員の談によればこれからは海の荒るゝこと多しとのことであつた船内の生活を知るためには得難き經驗かも知れぬ然し一行皆元氣に



丸慶昌船絡連

て一人として苦しむ者なし船室にて朝鮮産業の研究に耽る。

朝鮮の産業は往時相當殷盛の域に達した跡があるが爾來國運と共に産業の萎靡、商況の沈衰殆んどその極に達しその生産額の如き明治四十三年に於ては三億六百萬圓輸移出入額は六千萬圓に過ぎなかつたが朝鮮總督府設置以來銳意産業振興の方法を講じた結果最近に於ける生産物總價額十七億九千六百六十四萬一千圓を算するに至つた内農産十三億四千二百二十四萬七千圓であつて全人口一千七百万人の内八割は農業に従事し

農業生産額は産業生産總額の約八割に相當し農産物及同加工品の輸移出額は總輸移出額の約七割を占め朝鮮に於ける經濟の消長は農産物の豊凶並に價格の高低に因るの狀態にある故に農業の改良發達に就ては併合以來多額の經費を投じ又各種の勸農機關を設け銳意その目的を貫徹するに努めつゝあり大正十二年末現在の耕地面積は水田百五十六萬町步畑二百八十四萬町步、火田十五萬町步計四百五十五萬町步であつて陸地總面積に對する割合は中部以南は三割北部は一割餘平均約一割九步で農家一戸當耕地反別一町七反步に過ぎずして干潟地草生地等の未墾地を開拓すべきものが少くないばかりでなく既墾地の如きも一般に灌漑其の他改善を要するものが多い總督府に於ては或は國有未墾地利用法を發布し未墾地の開墾を完ふした者にはその土地の無償讓渡をなし或は水利灌漑事業の經營に對しては國費の補助を與ふる等種々之が施設を怠らない農産品中重なるものは米であるが大豆、麥、粟、綿花、果實（果樹の栽培に適し林檎は特に美味である）大麻、苧麻、楮等で畜牛は古來飼育に適し體格偉大體質強健で粗放

な飼養に堪へ性温順で力強く肉味又美なるがため役用及肉用何れにも適す大正十二年調によると總數百六十萬頭以上に達し耕地面積十町歩に對して三頭餘の割合である。林産は五千三百四十八万六千圓である朝鮮に於ける林野の總面積は一千五百八十八万町歩を算し全土の約七割一分を占むるに拘らず成林地（疎生又は散在地を含む）は僅かに三分の一即ち約五百四十八万町歩に過ぎず而も其の内約三百六十八万町歩は國有林に屬し鴨綠江豆滿江の兩流域又は脊梁山脈に偏在し交通運搬不便であつて大半未利用林の状態を呈すその他の約一千四十五万町歩の内には約三分の二即ち七百二十八万町歩の稚樹發生地があるが地力減耗して十分の生育を期待し難く殘地三百十二万町歩は全く生産に與らざる未立木地又は荒廢地に屬するも概ね其の地質造林に適し樹木生育状態内地と殆んど異なる所なく且造林用樹種多種なると比較的低廉な人夫とを得らるゝため漸次造林事業を計劃するもの増加しつゝある傾向である。水産は八千五百八十二万五千圓である三面海に圍繞せられた朝鮮は海岸線の長さこ

と九千三百餘海里に及び地勢及海流の關係上水産物頗る豊富で有利の漁場が少くないが古來漁政に關する基礎極めて薄弱なばかりでなく漁法幼稚資金貧弱で斯業の開發遅々であつたが近次漸く進境を見つゝある。

鑛産は二千八十七萬六千圓で金を首位として石炭、洗鐵、銅、黑鉛、大理石等が之に次ぐ。工産は二億九千五百二十万四千圓で生絲、絹布、麻布、綿布、陶磁器、硝子器、竹製品、杞柳製品等である。

かゝる研究に餘念なき一行は船の動搖を忘れぬたるにいつしか時間は七時間餘を經過して昌慶丸は關門海峽に入り左舷には幾多の島嶼を眺め右舷には九州の山々を見て紺青の間を滑走する快さはいはん方なく一行蘇生の感ありいよく下の關港に近づき船内歡聲湧き乗客は上陸の準備をなして甲板に出づれば山は茂り古松趣あり内地の風光は到底譬ふる言葉もなく滿鮮の旅を終つた一行には全くいひ知れぬ喜びを與へた。

『豊葦原の瑞穂の國は代々吾子孫の君たるべき地なり』と誠に宜なる哉

午後六時三十分馬關岸壁に横付となり歡び勇んで上陸し直ちに濱吉旅館に入り一行共に本視察の極めて有意義にして然も一人として病床に就きし者なく全く無事に約四千里近き旅程を終りたるを祝福しあひ解散式を舉げて自由行動をとる事としこの計劃を立て、種々懇切なる御配意を辱うしたる縣教育會に對し次の電報を發した。

オカゲニヨリブジシモノセキニツキカイサン

それより一行は或は九州に或は山陰に内地の視察に入り各々歸郷の途に着いた。

二二、所 感

内地人の活躍　支那人の不幸　鮮人の幸福　我國體の純美

前後三週間に陸路約二千九百九十四哩水路約七六二哩を巡歴した今回の視察は決して短距離ではない、出發前には随分餘計な心配もしたが過ぎて見ると何でもないことで

ある。旅行中に大に困つたこと辛いと思つたことも後から追懷して見ると實に無限の樂である。讀書や談話で覺えた話は程經ると失念して仕舞ふが旅行して經驗したことは終生忘るゝことが出來ぬものである故に旅行は確實の觀念を得ること自信を強めることに於ては最も効果の多いものである。

滿鮮各地に於ては邦人が到る處に活動して居て全く心強く感じた、活氣横溢といふ有様は誠によろこばしい然しまだ遺利がある滿州は約三分の一蒙古は十分の一しか開墾されてゐないとのこと大連にも奉天にも長春にも京城にも市街宅地が廣々と残つてゐる一方里に二千人近き内地に酔詰めの苦を受けるより滿鮮に鵬翼を延ばすことが日本男子の本領で之を助くるのが日本婦人の本懐ではあるまいか實地を踏むと實にこの感を深くするのである。滿鐵經營の實に堂々たる施設には驚く外はないこれまで種々調査はして見たがあれほどの至れり盡せりの設備が出來てゐるとは思はなかつた全く『百聞は一見に如かず』である大連など内地の何處にもあれほどのところはない。

然し一度満鐵沿線外の支那人を思ふ時實に同情の涙が出る、衛生の設備は極めて不十分で然も無教育から来る衛生思想缺乏のため實に不潔であるこれがためいざ流行病といひば非常な蔓延で如何ともすることが出来ない、金を貯へれば馬賊の襲ふところとなり、子を笊に入れて賣る親があるかと思へば、人を盗んで賣買する商人がある誠に無秩序なこの有様に何處に人間の安寧幸福があるでせう然も國家的觀念は更になく只支那人は確かに勤勉でその上忍耐力が甚敷強い粗食に甘んじ粗衣を纏ひ寒暑を厭はず遠近を問はず何處にでも移住するこの點から考へると將來或は恐るべき國民かも知れぬが目下の處殆んど禽獸と餘り選ぶところのない状態を見るにつけ氣の毒の感に堪へない。

幸に満鐵沿線は守備隊のお蔭で生活の安寧を得てゐるいざといふ時は支那人はここに避難する之を考へると彼等は我國に餘程感謝せねばならぬ筈であるのに往々之に反する所業を敢てなすことのあるは飛んで火に入る夏の虫ではあるまいか奉天などは過般

の内亂で危かつた然るに満鐵線がその中間にあつた爲張作霖は今では支那の大元帥となり得た然も若し奉天に送る物貨食糧を満鐵が輸送しなかつたら忽ち奉天は滅亡するより外はない然るに丁度我等一行視察中排日問題を起してゐた誠に支那人には感恩の念がない之を思ふと氣の毒に堪へない不幸なるは支那人である。

朝鮮人は多年菲政に苦しみ衣食住すら禽獸と相距ること遠からざる有様で自分の働いて得た土地財産の所有權さへ認められなかつたものが我國の仁政に浴して自由と安寧と幸福とを樂むことの出来る様になつたのである。

交通も通信機關も教育も衛生も警察も勸業も皆我施政後に面目を改めたものである万が一今尙朝鮮が獨立して居たならば人民の幸福はおろか百年も遅れてゐたに相違ない實に我國の施政によつて朝鮮は一足飛びの進歩をしたのであるここに考へが及ばないで騷擾事件などを企てたり不逞の輩等のあるは全く自ら縊るものと云はねばならぬ。

最後に我國民の幸福をしみじく感ずるのである常に幸福の地位に居るものは容易に幸

福を悟ることが出来ないが一度他の不幸な人を見るに及んで始めて悟ることが出来る
 我國民の幸福は全く國体の純美なことが大原因である國家の動搖定まりなき國は何時
 支那の如き露國の如き慘めなことになるかわからぬ殺人強盜に遇つても訴ふる所なく
 飢餓凍餒が身に迫つても憐を乞ふべき人がない政府の紙幣を何程持つてゐても全く價
 格がなくなる財寶を抱いて野たれ死するより外はない之を思ふと此の純美な國家に生
 れたことを深く感謝し其の責務に對して自覺せねばならぬと深刻に思ふのである。
 此の稿を終るに當り滿鮮各地に於て多大の好意を辱うしたる芳名を列記して衷心よ
 り感謝の誠意を表し御健康と御發展とをお祈りする。

二三、各地に於て出迎又は好意を寄せられたる人々

○印は會長若しくは案内者

○神戸

神戸市女子學院

川崎市藏

同

鞍橋己之吉

○大連

職	大連高女校長	香取郡小御門村	石川義次
建築材料商	海取郡旭町	石毛幸治	
三井物産會社員	香取郡佐原町	伊能康之助	
滿鐵購買課員	印旛郡成田町	石原清	
關東陸軍倉庫	安房郡白田村	橋本春	
造船船	安房郡白濱村	西森春	
大廣場小學職員	安房郡白濱村	西森春	
鈴木木商店	市長原郡高瀨村	小高兵衛	
大連民政署員	安房郡千歲村	渡邊昇	
株式商品取引所員	海上郡千歲村	神崎孫助	
米穀雜貨商	長海郡旭陸村	玉置幹一	
		中村直吉	
		氏名	

大連	滿鐵	大連	大連	大連	第一	朝鮮	八代	同	市立	滿鐵	天野	大連	理髮	靴製	滿鐵	進和	滿鐵	發動	
鐵業	工場	商工	連洋	連洋	中學校	銀行	合名	社	立商工	渉外	野滿	機械	製器	製造	鐵醫	商會	鐵旅	汽船	
會社	職員	學校	行主	行主	職員	行員	社代表	社員	學校	課長	書堂	製作	器具	販賣	庶務	取締	客課	船々	
長	員	員	員	員	員	員	者	員	長	員	主	員	店	商	務	役	員	長	
長	香取	山武	山武	同	夷隅	海	安房	同	同	香取	印旛	印旛	夷隅	印旛	東葛	山武	海	夷隅	
生	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	
土	佐	公	東	瑞	大	山	山	佐	倉	倉	島	倉	海	東	行	德	沼	岡	
陸	原	平	金	澤	山	山	山	倉	倉	島	島	倉	海	東	行	德	沼	岡	
村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	
○中	中	並	津	津	宇	野	野	八	八	山	小	槐	相	最	崎	指	三	宮	志
鳥	西	木	津	津	津	野	野	代	代	崎	出	出	田	田	山	田	井	內	村
亮	恒	英	木	木	木	卓	卓	初	源	正	建	常	秀	秀	政	錦	權	政	幸
作	吉	德	米	藤	藤	爾	爾	龜	次	次	次	藏	藏	藏	吉	三	三	五	太
			吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	郎

大連	大連	安山
連郵	連郵	房武
便局	便局	郡郡
職員	職員	西蓮
員	員	岬沼
		村村
		鈴善
		木塔
		恭寅
		治次
		郎耶

以下五名は遂に住所を知り得なかつた

水野信保 宇野即成 山本平吉 石毛公齋 水野寅一

○旅順

旅順警察署長
關東廳屬 (長官官房)
關東廳教育主事
旅順鮫島町五番地
旅順警察署
旅順
外二

○高山勝三郎

井上謙三郎
難波義雄
岩井彌作
小關虎吉
村上政明
秋谷保藏
神崎造酒

○鞍山

株式會社滿洲銀行鞍山支店	製鐵所經理	請負	鞍山中學教諭	同該炭工場	製鐵所運轉	鞍山警察署	請負	製鐵所旋寮室	滿洲興業株式會社	製鐵所經理	理髮	鞍山	勤務先
安房郡豐房村大戸	千葉市	海上郡丹木村高田	夷隅郡古澤村市野々	長生郡西村佐坪	山武郡土氣本郷町小食土	匝瑳郡平和村平木	同五日市	東葛飾郡船橋町九日市	東京市北區二本榎西町	安房郡千倉町北朝夷	山武郡豐成村字東中	匝瑳郡共和村新町	原籍
○鈴木良太郎	白井甲子	宮内直信	三宅欣吾	道脇庄二	福田忠吉	增田六郎	武藤六吉	宇賀山猛	高澤福藏	石井重吉	今關時藏	飯倉保	氏名

○奉天

硝石硫黄販賣	職業
香取郡高岡村高岡	原籍
春日町	現住所
藤城堅太郎	氏名

奉天局員	店員	請負	湯屋業	警察吏	利順成	滿鐵醫社	瓦斯醫社	滿鐵醫社	同	奉天局	奉天局	同	富士町近藤商會	赤十字病	雜貨商	醫大生	同	奉天驛	
同	同	同	香取郡豐浦村富田	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
春日町十一	宮島町十四(丸通内)	稻立町一	橋立町一	住吉町一	加茂町一	萩町一	青葉町一	紅梅町青雲寮	同	霞町一	同	同	同	同	同	同	同	同	同
川村德子	川村壽夫	淺野清太郎	篠塚胤重	篠塚胤重	高橋英雄	川上龜次	野平長吉	鈴木誠一	笹木金次郎	菅谷壯次郎	菅谷壯次郎	椎名國治	那須剛	萩原要之助	糸山孝太郎	高橋孝太郎	伊藤修	早川市藏	鱸元彦

東拓社員	滿鐵醫師	洋服業	運送業	鐵道事務	機關區	奉天區	列車	朝日	野田	警務	警察官	奉天	列車
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
佐倉町内並木町	新八街八街	彌富村坂戸	君津郡馬來田茅木野	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
澁田町	隅田町	滿蒙毛織會社	青雲院	滿鐵醫院	江島	宮島	宮島	宮島	宮島	宮島	宮島	宮島	宮島
柿内	岩崎	小林	丸川	丸川	丸川	丸川	丸川	丸川	丸川	丸川	丸川	丸川	丸川
加藤	古谷	石井	石井	石井	石井	石井	石井	石井	石井	石井	石井	石井	石井

組合事務所	藥種師商	奉天醫	電氣會社	地方事務	警察官	中學	醫學堂	滿鐵醫院	滿鐵醫院	特務機關	保險會社	質屋	雜誌	機關
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
安房郡白濱村	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十間房第二區警六六ノ一	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
加藤	古谷	石井	石井	石井	石井	石井	石井	石井	石井	石井	石井	石井	石井	石井

